皇朝律例彙纂

近藤圭造編著

卷六

ワ 13
6431
7上

門ヲ13
6431
67

皇朝律例彙纂卷六目録

雜犯律 計一十條

拆毀揭榜場
販賣鴉片烟
賭博
囑託公事
失火
放火
費用受寄財產
得遺失物
違令

皇朝律例彙纂卷六目録

雜犯律 計二十三條

賭博 四條
失火 五條
放火 四條
得遺失物 五條
違令 二條

昭和十七年十一月二十六日購求

不應爲
捕亡律 計六條
追捕罪人
罪人拒捕
獄囚脫監及反獄逃走
徒流人逃
主守不覺失囚
藏匿罪人
斷獄律 計一十一條
故禁無罪人
陵虐罪囚

不應爲 三條
捕亡律 計二十條
追捕罪人 一條
獄囚脫監及反獄逃走 五條
懲役人逃 十條
主守不覺失囚 三條
藏匿罪人 一條
斷獄律 計七條

與囚金刃
教囚翻異
老幼不拷訊
獄囚誣指無罪人
出入人罪
笞杖不如法
婦人犯罪
死囚奏請待報
斷罪不當

與囚金刃 二條
出入人罪 二條
死囚奏請待報 一條
斷罪不當 二條
附録
讒謗律

○權少判事大久保親正再伺、御布告等、掲示スル板榜毀壊本條ニ依リ、處斷スヘク旨、御指令有之候所、巷街便宜ノ地ニ掲示スル所其設置タルヤ、又甚粗畧ニシテ見ル所自ラ重トセス、徑チニ常律ヲ以テス、嚴ニ過タルカ如シ、云々再伺

七年五月八日指令

人民便覽ノ為メ、御布告等掲示スル版榜ヲ毀壊スル者、情ヲ量リ、不應為ノ輕重ニ問フ、

○兵庫裁判所伺

本條中、人ヲ引誘シテ、吸食

皇朝律例彙纂卷六

三河近藤圭造編著

雜犯律

此篇ハ。何レノ律ヘモ。入レタキヲ聚メテ一類トス。

凡掲榜場ヲ拆毀スル者ハ。徒三年。

販賣鴉片烟

セシムル者トハ、利ヲ圖ル事ナキ者ニ限リ候哉、其引誘吸食ノ後、謝金等ヲ但受ル者、其與ヲ為ス非ス、乞フ者亦買食ヲ為リ輕キ者、譬ハ第四條ノ如ク、烟具ヲ寄藏云々、房屋ヲ給スル者、利ヲ圖ルト否トノ別、律面ニ不相見ル家ノ賓客、又ハ友人等、來寓ノ際云々、其房屋内ニテ、喫食ハ致サセスト雖モ、他人ノ寄藏ヲ依賴ニ因テ、右烟具等ノ寄藏ヲ給スル者、是亦房屋ヲ給スル者ト同ク處斷スヘク哉、但書謝金ハ、

第七

一條　十月三日伺ノ通、令指書

ノヲ受ル者ハ、利ヲ圖ルモ、吸食セシムル心ナケレ

凡鴉片烟印度ヨリ出産スル。罌粟ノ花ト。烟艸ト。愚人ノ好モヘバ大毒ナリ。販賣シテ。利ヲ圖ル者。人ノ毒ヲ。巳レニ。ナリ。利益ヲモカマハズ。訐ル者。首ハ。斬。從ハ。流三等。若シ人ヲ引誘シテ。吸食セシムル者。人ヲ。吸スル者。紋。從及ト情ヲ知リ。房屋ヲ給スル者ハ。流三等。引誘セラレテ。吸食スル者ハ。徒一年。若シ販買シテ。未タ售賣セサル者。首ハ。流三等。從ハ。徒三年。買食スル者ハ。徒二年半。並ニ鴉片烟ハ。官ニ沒入ス。上ヘ取ス。若シ官吏。知テ擧セサル者。調正上ヌ者。ハ。同罪。罪。流三等ニ止ル。財ヲ受ル者ハ。枉法ヲ以テ。重ニ從テ論賂ヲ止ル。

販賣ヲ以テ論ス可ラス、引誘ニ吸食セシムル者、謝金ヲ贈ル者ハ、其跡買食ニ似タリト雖モ、固引誘ニ由ルヲ以テ、其情ス輕シ、吸食スルノ本條ニ科ス可シ。

第二條　他人ノ烟具ヲ借リ吸食スル者ハ、買食スル者ト同ク論シ、懲役二年半、一時人ノ為ニ烟具ヲ寄藏スル者ハ、違制重ニ問フ、吸食スル者ハ、懲役十年ニ科スト雖モ、但書ノ如ク來客ノ烟具ヲ給スル者ハ、違制重ニ問フ。

第三條　利ヲ圖リ、房屋ヲ給スル者ハ、懲役十年ニ科スト雖モ、但書ノ如ク來客ノ烟具ヲ携ヘ、自ラ喫食スル者ハ、違制重ニ問フ。

第四條　前條ト同シク違制ニ問フ、

○三重縣伺

其情ヲ不知、居宅ヲ給シ、後

賭博

サル者。首ハ。流三等。從ハ。徒三年。買食スル者ハ。徒二年半。並ニ鴉片烟ハ。官ニ沒入ス。上ヘ取ス。若シ官吏。知テ擧セサル者。調正上ヌ者。ハ。同罪。罪。流三等ニ止ル。財ヲ受ル者ハ。枉法ヲ以テ。重ニ從テ論賂ヲ止ル。

賭博

キ方ニ裁判ス。重ス。

例第二百七十一條ニ博戯ニ用ユル骰子骨牌ヲ賣ル者ハ、賭博者ト同罪トス。有レ之金錢ヲ賭ケ、博戯ヲ為シタルモノ、骨牌等所持スル者モ、同罪ニ候哉、

七年二月五日指令

第一二條　違式重懲役二十日、贖ヲ聽ス、

愛知縣伺

賭博ヲ客店ニ主其博徒ヲ止宿セシメタル者ハ、始テ之ヲ知ルトモ、情弱レテ敢テ之ヲ制止セサルノミ、固ヨリ其列ニ與ルニ非ス、又為メニ金ヲ受ケサルハ、其罪不應為ノ輕ニ問ヒ、贖ヲ聽シ可ナラン乎、將タ違令輕ヲ以テ、之ヲ論スルヤ、

七年二月十四日指令

博奕ノ催ナルヲ覺テ、謝料ヲ受クル者、夫カ為メ、席料絶スト雖モ、

六年七月二十二日指令

應謝絶スト雖モ、席料ヲ受ル者、賭房ヲ開張スルヲ以テ、取論ス可シ、

京都裁判所伺

賭博申合、既ニ行ハレ、番人見咎メ、骨牌取落スト雖モ、其場ニ坐スル折柄、逃去シテ、賭博者アリ、遂得サルヲ以テ、不應為輕ニ擬シ、實決ス可キ哉、

七年一月七日指令

違式輕ニ問ヒ、贖罪ヲ聽ス、

山梨裁判所伺

博戯等ハ、為ント、骨牌並ニ手合金錢及ハ、取出シ、既ニ捕縛ノ際、捕手ニ就キ、候者ト、賭博ヲ為ス者ト、同罪ニ候哉、

凡財物ヲ賭シ、博戯博奕ノ者ハ、財物ヲ賈スルヲ以テ、皆杖八十ニ處ス。其場ノ財物ヲ開張スルヲ以テ、皆流一等ニ處ス。其場ノ財物ヲ持出シ、官ニ入ル。

若シ勿産業無ク咎メテ。常ニ腰刀ヲ挾帶シ、夫カ職業ヲ廢シ、徒ヲ招ク。常ニ長脇差シ、無頼ノ惡人ト親子兄弟ノ者ヲ呼ヒ立テ、横行ス。

飲食ヲ計ルヲ以テ、其上ニ張リ、賭ハ同ク罪ニ科シ、宿ル者ハ、其列ニ與ラサル者ハ、賭場ヲ結ヒ、無頼ノ者ヲ招キ、聚シ、賭ヲ為シ、利ヲ取ル。

賭博

第二百六十九條　凡賭博。

三犯以上ハ懲役一年

賭博條例

我カ附ル者ハ、皆流一等ニ處ス。往来ス者モ流罪ニ附シ、一年申ノ順頭儘ニ附ル者ハ、近所村里共ニ皆分ト、近邊ヲ

○違式輕ニ問ヒ、贖ヲ聽ス、堺縣伺

鷄ヲ鬪ハシメ、或ハ碁ヲ打テ財物ヲ賭ル者、並ニ賭博ヲ以テ論シ可然哉

七年二月十七日指令

○伺

兵庫裁判所伺

先ニ違テ中、賭博ヲ成サント謀リ、博具賭錢等ヲ取出スト折柄、他人ノ妨ケニ因テ行ヒ得サル者ノ伺ニ、違式輕ト聽ス可ト御指令候ハ、賭博ヲ成サント相成候ハ、京都裁判所ノ通處斷候ハ、其處ニ付、右ノ伺ニ付テハ、博奕ノ申合、其房ニ入ル金策ニ差支ヘ、傍觀シテ勝モ金ノ分配ヲ受ル者ハ、本律等ニ依リ減スベキヤ、御指令ハ一等有之

七年四月九日指令

右權衡如何ヲ旨、

○賭博ヲ企テ、未タ行ハサル者本律ニ一等減シ、科斷スル處、詮議ノ次第之有リ、先般其裁判所ヘ指令ノ通リ、改定相成リタリ、犯者アレハ、違式輕ニ問ヒ處分ス可シ、

○福岡縣伺

凡賭博ノ罪ヲ犯シ、一且處決ヲ經ルノ後、再ヒ同罪ヲ犯シ、自首スル者モ、首免ヲ與フベキ哉、又ハ悔悟心ノ薄キヲ以テ、減等スヘキ哉、

七年五月十九日指令

再ヒ同罪ヲ犯スト雖モ、過ヲ悔テ自首スル者ヲレハ、全免スヘシ、

○山梨裁判所伺

七年八月二十五日指令

賭博ノ犯狀ハ、官吏ト雖モ、破廉恥甚ヲ以テ論スル限ニアラス、

○白川縣伺

第二百七十一條　凡博戲ハ。申シ附ル科斗ノ。用フル。骰子。骨牌ヲ賣ル者ハ。賭博者ト。同罪。再犯ハ。一等ヲ加ヘ。三犯以上ハ。懲役一年。

第二百七十二條　凡賭博ノ列ニ與ラスト雖モ。錢ヲ借シ。息ヲ收ル者。元手錢ヲ貸シ。利息ヲトル者。犯人ト。同罪。

仕置ヲ受テ後。三度。博役ヲスレバ。一年ノ懲役ナリ。

第二百七十條　凡賭場。現在ノ財物ハ。官ニ入ルト雖モ。其田宅等。不動產ニ係ル者ハ。原主ニ還付シ。官ニ入ル、ノ限ニ在ラス。

賭場ヘ持出レタル物ハ。上ノ賭ヲ取ルヘシ。不動產ニ及ハス。夫ハ物ヲ取リ上ル

○初犯賭博ニシテ、再犯賭房ヲ開張スルニ因リ、仍ホ初犯ト異ル所ノ者ハ、犯人ヲ論シ、若シ初犯再犯共、賭房ヲ開張スレハ係レ本罪ニ一等ヲ加ヘ、懲役一年申付可然哉、以上ハ、懲役九十日、三犯以上ハ、再犯ニ加ヘ、懲役一年八月二十八日指令可然哉、

七年九月十三日指令

○初犯賭博再犯賭房開張ノ者、小倉縣同ク加等ス、

○同年十一月十三日指令

○賭博犯罪人、村長ヘ責付内ニ在テ、官司ニ同罪ヲ犯ス者ニ係ヲハ、加等ス、

○賭博犯罪人、自己ノ宅ニ於テ、同罪ヲ犯ス者ニ係ヲハ、本罪上ノ同罪ニ在テ、官司ニ同罪ヲ犯ス者ニ係ヲハ、加等ス、

七年八月二十八日指令

○賭博連累等ニ涉リ、未タ官司ニ責付ス、

○賭博斷決ヲ經ス、

○同罪ニ在テ、官司ニ同罪ヲ犯ス者ニ係ヲハ、加等ス、

○愛知縣伺

○三潴縣伺

○賭博竊盜等三犯推問中ノ者、前度再犯ノ節、初犯ト申ノ詐リ、初犯ノ處刑ヲ受候ト申ノ發露ニ及ヘハ、再犯加等ス、

○賭博ニ者ハ、剩罪ヲ科シ、可然哉、或ハ三犯更ニ再犯ニ俱發ス、

○賭博ニ者ハ、剩罪ヲ科シ、可然哉、後

トシ、修行致度段願出ル向モ有之、停止可仕見込ニハ候得共、師傳有之儀ニ付為念一應相伺候也、

八年四月七日指令

辻的闘的ト唱ヘ、金錢ヲ賭シ競射スルカ如キハ、固ヨリ賭博本律ニ問ハサルヲ得ス、賭但停止等ノ儀ハ、其筋ニ可伺出事、

○三潴縣伺

人民ノ遊戯射的、或ハ圍碁文字ハ差別有之儀ト存候、就テハ博戯ニ用ヒ百七十一骨牌、係骨牌ヲ用ヒ、骨牌ヲ筋ニ可有之哉、

八年十月一日指令

賭博戯ハ本律ト別ナキ者ハ、骨牌ヲ同罪云々ト有之、右ハ財物ヲ賭スル者ハ、財物ヲ拘ヲ賭ス、總テ賭博ヲ戯ル者ハ、財物ヲ骰子等ニ賭シテ、骰子ヲ用ヒ、骰子ヲ用ヒ、骰子、花合葉ニ雙六ニ處セラル、然ル儀ハ、少年可有之ノ哉、果ヲ問フ、骨牌ヲ筋ニ可有之哉、

賣買戯遊戯者、罪ノ問フヘキナシ、

將棊等ニテ、僅ニ五錢十錢ヲ賭シ候者、賭博條ニ依リ、懲役八十日申付候ハ、餘リ苛酷ト存シラレ、右ハ情法ヲ酌量シ、減等ニテモ可致哉、

八年四月十八日指令

賭博ノ罪ヲ科シ、酌量減等ハ、裁判官ノ見込ニマカス、

凡法令ヲ曲ケンヲ欲シ。公事ヲ囑託スル者ハ。已レ公事ヲ曲ケンヲ欲シ。人ノ爲ニスルヲ論セス。總テ。國上治ハ掟ニ。ソ官吏。カ役ハ人聽從スル者ハ。聞届ル者ハ。同罪。聽從セザル者ハ坐セス。若シ事已ニ施行スル者ハ聞届申シ附クタル。又差盡ハ圖ラ公事ニ付向ノ事ニ。頼ミ込ムヲ。我カ為ニ曲ケンヲ。人ノ為ニ。頼ミ込ムヲ。人ノ為ニ。ソ。

答四十。當該

但頼ミ込テ。枉タル笞四十ヨリ。罪ニ重ルタリ。

重ケタ役ノ官吏ヨリ。三等減ジルノ仕置。自己ノ事ヲ囑託スル者ハ。坐スヘキ本罪ニ。一等ヲ加フ。事モシ又已レバ。其枉リテモ一段上ルシナリ。本罪ヨリ。

若シ法ヲ曲ケ。贓ヲ受ル者ハ。贓ニ計ヘ。枉法ヲ以テ論ス。

掟ヲ曲ゲテ。賂ヒトレバ。贓物ノ數ニ因テ。枉法律ニ捌ナリ。

罪重キ者。官吏ハ。故ニ出入人ノ罪ヲ以テ論ス。聞ル届ケタ斗リニ。笞四十ナリ。已ニ行ハ施ス。若シ施行スレバ。笞四十ヨリ。杖九十ナリ。其ノ入ノ罪ヲ見合セテ照ラシ。本罪ヲ故ニ出ル。故ニ杖九十ト。其ノ増減ス事ハ。必ス増減ノ方ニ。若シ他人及ヒ親屬ノ爲ニ。囑託シテ。枉ル所ノ罪ニ。杖九十。枉ル所ノ罪ニ。三重キ者ハ。當ル該官吏ノ罪ヲ減ス。

他人頼ミ込カシ。親者類ヲ。

○新潟縣伺村社ノ境内ニ於テ、木葉枯枝ヲ燃シ、境内ノ樹木ヲ焼ク者如何處斷スヘキ哉

七年二月二日指令第二百七十六條ニ照シ處斷スヘシ、

○京都裁判所、別居ノ雇人、家長ノ宅ニ失火スレハ一等ヲ加ル所、届ケ未濟ノ者ハ、人ノ宅ヲ焼クニ依ルヘキ

七年二月二日指令同人ノ通例ニ非ス、但届ケ未濟ノ者ハ、雇山梨裁判所伺

○火ヲ失シテ屋上ニ燃ヘ消ル内、四隣ノ者集リ防ク者ト同罪ニ処シ、焼燬ニ至ラサル者ハ、自己ノ宅舍ヲ焼クヲ減シ一等ヲ候哉、亦ハ一等ヲ減シ候哉、

七年二月五日指令

○京都裁判所伺

七年二月五日指令同居別居ノ分チナク、例第二百七十五條ニ照シテ論シ、贖ヲ聽ス、

受業師ヲ焼死ニ致ス者ハ、伺ノ通、徒弟ヲ焼死ニ致ス者ハ、二等親ヲ焼死ニ致ス律ヲ以テ論シ、並ニ贖ヲ聽ス、

○静岡縣失火シテ電信柱ヲ焼セシ伺、

七年二月二十八日指令加等ノ限ニ在ラス、各律ヲ以テ科斷スヘシ、

○白川縣、獨居者外出中、爐火立、全家焼失セシ伺

七年三月十七日指令火ノ起ル、ハ、強風ノ然ラシム處ト雖モ、獨居ノ者他行スル

凡火ヲ失シテ自己ノ宅舍ヲ焼ク者ハ。笞二十。人ノ宅舍ニ延焼シ井焼スル者ハ。笞四十。罪止タル火ヲ失スル人ヲ坐ス。若シ太廟。伊勢及宮神殿。中神及宮闕。至尊御住居内ニ流三等。於テ。山陵ノ火ヲ失スル兆域内。御墓所。及ヒ。御代ノ者ハ。徒一年。公廨。及ヒ。御園ハ。

失火

手過ナリ

倉庫。上ノ財物米穀。上内ハ。杖一百。主守ノ人。因テ財物ヲ侵欺スル者。失火ノ番人ガ。物盗ミノ贓ニ計ヘ。監守自盗ヲ論ス。其外ニ在リ。右太廟ヲ以テ云フ指火ヲ失シテ。延焼スル者ハ。各三等ヲ減ス。其宮殿。及ヒ倉庫ヲ守衛シ。若クハ囚ヲ掌ル者。火ノ起ル、ハ見テハ。所守ヲ離ルヲ得ス。我ガ持場ヲ守衛シ。或ヒハ囚人ヲ

ルニ、爐中ノ火ニ心ヲ用ルノ疎ナルヲ免レス、無念ト謂フヘシ、失火律ヲ以テ罪ヲ科スル

○六年鳥取縣伺指令左ノ通

改正

七年三月十八日指令

第一條　村社ニ失火シ、及ト延焼スル者ハ郷社ト同シク

第二條　府縣郷社ノ摂末社ノ宅舎ヲ焼スルモ亦論ス、延焼スル者ハ、入ノ宅舎ヲ焼クト同シク論ス、

○筑摩縣官私ノ空屋ヲ監守シテ、火ヲ失セシ伺

七年四月十日指令

官私ノ空屋トハ、公廨倉庫、及ト主ト宅舎ノ類ニテ、其主守或ハ他人ノ行等ノ節、代守スル者カ、果シテ然ラハ、代守ノ依リ宅舎ヲ焼クニ係ハ、倉庫ハ、本律ニ依リ自己ノ宅舎ヲ焼ク

監守メ。其役場ヲ立チ退クヲナシ。違フ者ハ。杖七十。

第二百七十三條　失火條例

凡太廟。及ト山陵内ニ於テ。火ヲ失スル者ハ。律ニ依リ。領網。罪ヲ科スルノ外。官幣國幣大社ハ。山陵ト同シク論シ。中社ハ懲役百日。小社ハ。懲役九十日。府縣社ハ。懲役七十日。郷社ハ、懲役六十日。延焼スル者ハ。各本罪ニ三等ヲ減ス。減シテ。人ノ宅舎ヲ延焼スルヨリ。輕ク。若クハ等キハ。並ニ。一等ヲ加フ。

若シ自宅ニテ。火ヲ出シ。累焼セシムルトキハ。常ノ人家ニ至レル段ニ減シ。累焼セシ段ニ増スルナリ。常ノ人家ハ。四日ノ懲役ナリ。又一等ヲ加フ。其段居人ニ雇ハレテ、火ヲ失スル者ハ、例第二百七十四條ニ依ル可シ、

○鳥根縣伺

凡火ヲ失シテ、自己ノ山林ヲ焼ク者、如何

七年五月九日指令

自己ノ宅舎ヲ焼クニ、一等ヲ減ス、

○兵庫裁判所伺

例第二百七十五條云々假令ハ消防人足、及ト官吏又ハ平民等ニテモ、加勢ノタメ、其場所ニ到リ消防中焼死ニ至ル者有之ト、其本犯ハ無論加等候テ可然哉、

但失火場ヘ、外ヨリ來リ救防スル者ハ、焼死スルモ加等セス、自家ニ在テ逃レ得ス、焼死スル者ハ、加等スル等ノ區別有之候哉、

懲役六十日。延焼スル者ハ。各本罪ニ三等ヲ減ス。減シテ。人ノ宅舎ヲ延焼スルヨリ。輕ク。若クハ等キハ。並ニ。一等ヲ加フ。

若シ自宅ニテ。火ヲ出シ。累焼セシムルトキハ。常ノ人家ニ至レル段ニ減シ。累焼セシ段ニ増スルナリ。常ノ人家ハ。四日ノ懲役ナリ。又一段ヲ加ヘテ。同シ類ナリ。

七年五月二十日指令

消防人足及官吏等其場ニ來リ誤テ焼死スル者アリ共ニ犯ス者ハ家ノ在ル限ニ非ス但書自加等ノ為ニ逃レ得テ第二百七十五條ヲ設ク

○置賜縣伺

各居親族或ハ他人一時止宿者火ヲ失シテ其家ヲ焼クノハ人ノ宅舍ニ延焼スル准シテ論ス可キ然哉

同論ト行旅ノ失シタル者客塵ニ投宿シ火ヲ其家ヲ焼クモ前ニ可然哉

七年五月二十三日指令

○二條共伺ノ通

岩手縣伺

火ヲ人ヲ失シテ祖父母及ヒ焼死ニ致ス者ハ假令過誤ニ出ルト雖モ入命可ニ係ルヲ以テ實斷致シ

第二百七十四條　凡稅居人。火ヲ失シテ。其家ヲ焼リ者ハ。自己宅舍（依リ自分ニ居家ヲ）焼クニ。一等ヲ加フ。

第二百七十五條　凡火ヲ失シテ。人ヲ焼死ニ致ス者ハ。死屍ノ多寡ヲ論セス。一等ヲ加フ。其同居ノ祖父母父母ヲ。焼死ニ致ス者ハ。懲役百日。（同家ニ住テ焼死セシメタル科ナリ）

然哉、雇人、同居各居ヲ問ハス、家長及ヒ其祖父母父母ヲ焼死ニ致ス者ハ、凡人ヲ以テ論シ可キ然哉、

七年六月三日指令

第一條　失火ノ罪ハ、人命ニ係ルト雖モ、實斷スルノ限ニ在ラス、

○第二條　伺ノ通

筑摩縣伺

農家、田地培養ニ相用ヒ候石灰、庭圃或ハ田畑ノ畔隅等ニ積置候處、近傍ノ川々暴雨洪水ノ故ヲ以テ、俄然氾濫到シ、之ニ尅シ、人家焼失ニ到ル時ハ、其石灰主ヲ失火律ニ照シ、處分可致儀ニ候哉

但本款暴雨洪水ノ外、自然切路洩水等、俄ニ押來リ、火災ニ到ル節モ、失火律ニ依ヘキ哉、併テ相伺候也、

改正第二百七十五條　凡火ヲ失シテ。人ヲ焼死ニ致ス者ハ。死屍ノ多寡ヲ論セス。一等ヲ加フ。其同居一等親ノ尊長ヲ焼死ニ致ス者ハ。懲役百日。二等親以下ノ尊長ハ。各一等ヲ遞減シ。卑幼ハ。各等親ニ照シ。尊長ニ三等ヲ減シテ罪致人焼死律ヨリ輕キ者ハ減セス。

七年六月四日指令本文ノ如キハ、天災ニ由リ、起ルコトナレハ、失火ノ罪ヲ科スルニ及ハス、爾後豫防不行届無之様、注意可致旨、可申渡事、又

○鳥取縣、一時留守番ノ者、又ハ後見人等、焼失スル事ノ

七年六月十五日指令

後見人、火ヲ失スルハ、自己ノ宅舎ヲ焼ク以テ論ス、一時留ニ

守番ノ者ハ、自己宅舎ヲ焼ニ

○一等ヲ加フ、愛知縣伺

火ヲ失シテ、自己ノ山林柴草、州及ヒ空間房屋、若クハ田塲積聚ノ物ヲ延焼ス、其焼ク處ノ物ヲ償ヒ、塲積ノ宅舎ヲ焼ク者ハ、一等減シ、科斷致シ可然哉、

七年六月十五日指令

自己ノ宅舎ヲ焼ク以テ論

○滋賀縣伺

火ヲ失シテ、人ノ山林柴草、及ヒ田塲積聚ノ物ヲ延焼ス、其焼ク處ノ物ヲ償ヒ、塲積ノ宅舎ヲ焼ク者ハ、自己ノ山林柴草、

七年六月十五日指令

リモ少ナキ者アリ、如此者如何、算スレハ、却テ贖罪金ヨ

○奈良縣、入家ヲ離レタル灰

木條ニ依テ處分スヘシ、

七年六月十五日指令

小屋等ヲ焼ク伺、

七年六月二十四日指令

自己ノ宅舎ヲ焼クト同ク論ス、但シ近隣ニ延焼スヘキ家、若クハ山林柴草等ノ延焼スヘキ憂ヒ無キ者ハ、不問ニ置ク、

○置賜縣、管守ノ僧誤リテ町村營造ノ堂宇ヲ焼ク者ハ、自己ノ宅舎ヲ焼クニ一等加レハ如何ノ伺

七年十月二日指令

○伺ノ通、名東縣伺

其各居ニ係ル者ハ。等親尊卑ヲ論セス。並ニ致人焼死ト罪同。明治六年八月十二日第二百九十九号御布告

失火ニ人ヲ焼死スルモ。一人ニ多人ニ及ヒ。重キ失火人ヲ焼ク日ハ。他人ノ家ヲ焼ク者ハ。十日ニ付一人ニ十日ニ付一人ニ役二日ニ付一人ニ役三日ニ付一人ニ役四日ニ付一人ニ役五日ニ付一人ニ役百日ニ付一人ニ役

二等親三等親ト。俵科ヲ受ケ。一等下ル。卑幼ト。尊長ト。等ツ。卑幼ハ。其尊長ノ者ハ。一等減ス。卑幼ハ。二等減ス。卑幼ハ。三等減ス。卑幼ハ。四等減ス。卑幼ハ。五等減ス。卑幼ハ。六等減ス。卑幼ハ。七等減ス。卑幼ハ。十等減ス。卑幼ハ。十等減ス。卑幼ハ。十

質商ノ者居宅失火ニ付、衣類諸道具預リノ品物不殘焼失致シ候節ハ、預ケ主損失候哉、又ハ預リ主ノ損失候哉、

七年十月十日指令

火災ニ及ハス、預ケ主ヲ賠償ス

方ル

但別段ノ契約アル者ハ、此限ニアラス、

○滋賀縣伺

京都裁判所

人宅舍ヲ焼キ、火ヲ失シ、

ノ伺、御指令ニ、至ル者ハ、懲役二十日、贖ヲ聽サレ、若シ自己ノ宅舍ヲ焼キ人ノ宅舍ヲ焼トスル者ハ、本罪ニ延焼ニ至ラ減シ、懲役

七年十月十日指令

第二百七十六條

凡火ヲ

助レバナリ。

掛ケザル離レ不時ノ事ユヘ。

救フベキ暇ナク

主ノ損

主ノ賠償ス

主、雙

七年十一月十八日指令

○名東縣家主失火シテ其貸家ニ延焼セシ伺

○箱館裁判所船失火シ他船ニ延焼セシ伺

自己ノ宅舍ヲ焼ク律ニ依ル、

七年十一月三十日指令

自己ノ船ヲ、航海中ニ失火スルハ、罪ノ問ヘキナシト雖モ、他ノ荷物ヲ載置クハ、此限ニ

第二百七十七條

凡盜犯

失シテ、入ノ山林柴草茅

及ヒ空間房屋。明屋若ク

積聚置積ノ物ヲ延

田場

村薪

焼スル者ハ、官私ノ分タ

ノ宅舍ニ。延焼スル

ノ物立テ私ノ物人

モ公差別ノ

ス。

等ヲ減ス。

○筑摩縣伺

失火レテ官國幣大社以下ノ拝殿神樂殿等ヲ焼ク伺

七年十一月十八日指令

火ヲ失シテ、官國幣大社以下、府縣郷村社ノ拝殿神樂殿、及ヒ樹木ヲ焼ク者ハ、其攝末社ニ、各一等ヲ減ス、延焼スル者ハ、各三等ヲ減ス、減シテ人ノ宅舍ヲ延焼スルヨリ輕キ者ハ、減セス、

火ヲ用ヒテ。門關戸樞ノヲ焼燬シ。及ヒ燭炬ヲ持シ。期セス火事ニ。元ル火心ヲ付キ。失火ニ致ス者ハ。懲役三年。若シ盜罪重キ者ハ。重キニ從テ論ス。

濱田縣伺

區戸長ノ事務取扱役所、門内ノ空舍ニ於テ、火ヲ失シ、其舍ヲ焼者、若クハ未タ焼燬ニ至ラサル者ハ、律ニ正條ナシ、如何、

八年二月十日指令

空舍トハ明瞭ナラス、若シ當

在ラス、船舶輻輳ノ港内ニテ、失火スル者、及ヒ他船ニ延焼スル者、或ハ人ヲ焼死ニ致ス者等ハ、伺ノ通、消防ノ為三重縣出火ノ際、若干金ヲ請求スル伺、

○七年十二月三日指令

常備人足ニ非サル者、金ヲ受ケ、消防スルモ、戸主ノ情願ナレハ、罪ノ問ヘキナレ、

○足柄裁判所、船中火ヲ失シ、他船延焼スル者、官私區別ノ伺、

自已ノ船舶ヲ、航海中、失火シ、若シ船舶輻輳ノ港内ニテ、雖モ、罪ノ問フヘキナレト、自已ノ宅舎ニ係ル失火者ハ、依テ論シ、官船ニ係ル焼ク者ハ、公廨倉庫内ニ失火シ、自已ノ船舶ヲ以テ論ス、但シ、自已ノ船舶ヲ載セ置ク者ハ、雖モ、他ノ荷物ニ在ラス、不問ノ限

時不可キニ空間房屋ト看做ス、係レ例第二百七十六條ニ依ル、焼燬ニ至ラサル者ハ、律ニ明瞭ニ付、減等ス可シ、無之酌量シテ、

○京都裁判所、同居寄留ノ者ニ、酌量シテ、減等ス可シ、

第八條　同上区別有之候哉、

是亦区別ノ伺、

害ナキハ、家長ノ宅ヲ延焼スル者ハ、常居スル屋ニテ失火セシ、其一時家遠作屋ニ隔ル小屋地ニ雇人家長ノ所持

一時作番小家ノ類ヒニ非ラス、常居ノ家ニシテ、寄留人失火シ、税居ニ非サレハ、人ノ宅舎ニ延焼スルヲ以テ論ス、

○濱田縣伺

火ヲ失シテ、區戸長ノ役所ヲ焼ク者、並火ヲ失レテ、未焼燬ニ至ラサル者、如何處分致シ可然哉、

七年十二月二十七日指令

區戸長ノ事務取扱ヲ役所ハ、公廨倉庫ヲ以テ論ス、未タ焼燬ニ至ラサレハ、各失火律ニ一等ヲ減ス、

女家第八

致スル者、何人ナルヤ、判然不取締ヲ、平素家長ノ名例律共犯罪ヲ起ルヲ以テ、家長ノ首從第二項ニ依リ、家長ヲ二條ノ空屋ニ焚火致シ、三四人集リ、共起ル同火、其家焼亡スルトキ、発意者ハ当ニ跡ヲ失フ、右ノ各所行ノ合セ罪ヲ科スル、又初焚火ノ消滅ヲ肯セシ者ナシ、畢竟火ヲ出ス失ハ、雖モ各自ノ同ノ罪ヲ忽ニ過ルハ、聊カ酷置ニ似タリ、不問ニ付ス、輕過クル様被存候、如何相心得可然哉、

一年三月二十八日指令

本文ノ如キハ、平素家長ヲ起ル罪ニ坐、以男分ク取締ヲ、

○置賜縣伺、六年八月十七日指令

雑犯律放火條例 火ヲ放テ人ノ空間房屋ヲ焼キ、期セスシテ人ノ宅舎ニ延焼スル者ヲ以テ論シ懲役十年

○筑摩縣伺

信濃國安曇郡町村高木十七吉右ノ者、別紙罪案ノ通リ女ニ逢レテ、北小松村テッサルヲ憤リ、焼燬候迚、構ヒ申間敷ト煙州吹売ヲ消留モ不致、其儘差置キ、睡眠ヲ催シ居候内、火家屋ニ延ヒ、焼燬候間、急キ遁逃候儀ニ、故サラニ火ヲ放ッテ、民舎ヲ焼ク者トハ、情罪等ヲ一等カラス、依テ右律ニ一等ヲ減シ、渡部安右衛門

第二條 各自ニ罪ヲ科ス、

放火

此條ハ。火ヲ附ノ罪ヲ云フ。

凡火ヲ放テ。故サラニ公廨倉庫。財役物所。米倉。及ヒ民舎ヲ焼ク者ハ。皆斬。未タ焼燬ニ至ラサル者ハ。流三等。

放火條例

第二百七十八條 凡火ヲ放テ。人ノ空間房屋。及ヒ田場積聚ノ物ヲ焼ク者

六年九月八日指令　降減シ、準流十年可ニ申付一哉

雜犯律　火ヲ放テ故サラニ民舍ヲ燒ク者ヲ以テ論シ、高木十七吉斬罪

○入間裁判所伺、六年九月廿四日指令　瘋癲ヲ發シ、火ヲ放ツテ民舍ヲ燒クト、始メ其狀ヲ白シ、後チ之ヲ審糾スルニ、人事不雜ナル首尾更ニ合セス、犯事ノ確証ヲ得ルニ由ナシ、依テ出牢ノ上、本夫ニ責付シ、嚴ニ鎖鋼セシメ、他日瘋癲全愈ノ後チ、審糾スベシ

○廣島縣伺　十五年四月ノ窮之人、母ノ黄瘦病ヲ治スル為、芭蕉根ヲ貰ヒ受ケタレ、味噌汁ニテ食シ、蜆貝ヲ拾ヒ、芭蕉根ヲ味噌ナシ、金居久左衛門ナル者味噌ヲ乞フニ肯ンセサリ、療養ノ遂ニ迫リ、其不仁ヲ憤リ、怨ミ一時ノ情ニ迫リ、火ヲ放テ、其家ヲ燒ク者、火ヲ放テ故サラニ民舍ヲ燒ク者、本罪斬ノ處、其狀情ヲ酌量シ、二等ヲ減シ、重九京平懲役十年

八年三月二十五日指令　該家貧困ニシテ、朝夕ヲ支ヘ能ハス、曾テ、久左ノ家ニ就テ、物ヲ乞フニ吝ンテ與ヘス、今又母ノ病ノ為メニ、僅カニ味噌ヲ乞フ者ハ、其仁ヲ憤リ、療養ノ遂ニ迫リ、火ヲ放テ、其家ヲ燒ク者、火ヲ放テ故サラニ民舍ヲ燒ク者、本罪斬ノ處、其狀情ヲ酌量シ、二等ヲ減シ、重九京平懲役十年

者味噌澤山アルヲ以テ之ヲ乞ヘ共ニ與ヘス、殘念ノ餘リ其裏木屋ニ火ヲ放チ、居宅一圓燒失ス、

第二百八十條　凡火ヲ放テ。人ノ空間房屋ヲ燒キ。期セスシテ。人ノ宅舍ニ延燒スル者ハ。懲役十年。

第二百八十一條　凡火ヲ放テ。人ノ宅舍ヲ燒キ。未タ燒燬ニ至ラサル者ハ。懲役七年。未タ燒燬ニ至ラサル者ハ。懲役三年。

第二百七十九條　凡火ヲ放テ。故ラニ自己ノ房屋ヲ燒ク者ハ。懲役九十日。未タ燒燬ニ至ラサル者ハ。一等ヲ減ス。若シ期セスシテ。公廨倉庫。及ヒ民舍ヲ延燒スル者ハ。懲役二年半。因テ財ヲ盜ム者ハ。懲役終身。

第二百八十條　凡火ヲ放テ。人ノ空間房屋ヲ燒キ。期セスシテ。人ノ宅舍ニ延燒スル者ハ。懲役十年。督責ニ苛迫（注付）シ。一時脱身ヲ圖ル。（人ノ申方甚ダ嚴キニ因ル。）

○滋賀縣伺

例第百四十三條ニ、管守者私ニシテ自ラ借用シ、同第百云々、罪亦同ト、相見候ハ、私ニ借ル者ハ、共ニ客ト追ル同者ト、盗ル用ヘ、條ニ、家ノ留守宅ヲ預リ、留守中其ノ財物ヲ盗ム者ハ、假令賃錢等ヲ受ケサル者ト雖モ、監守盗ヲ以テ論シ、候哉、物ノ倉戸ノ儀不ル、私意ニ借ル、盗ル者ハ、重朋友親戚ノ等ヲ寄託リ、他ヘ送途ル、中ニキテ財物ヲ、或ハ私ヲ借受シ、

未ル者ハ、發覺ス、但盗ル者ハ、情可然哉、

ト追ク、盗ル者ハ、情覺ヲ量リ、不應為輕ス、

雖モ、盗ル者ハ、私ニ借ル者ハ、情ヲ量リ、不應為輕ス、

ト

得遺失物　九年四月十九日第五十五号御布告ヲ以テ改正

凡他人所有ノ諸器械等ヲ損料借ニナシ、一時自己ノ窮迫ニヨリ、其物品ヲ典賣スル者ハ本律ニ擬シ、處斷シテ可然哉、

七年五月十七日指令

本犯ノ如キハ、民法貸借上ノ事ニ屬スル者間有之、或ハ之ニ限ヲ以テ、處分スルモ、其例無シ、

刑法ニ問ハス、民法上身代非ス、口供ヲ以テ同出ヘシ、

○置賜縣伺

賊盜取候金錢衣類等林叢投竊堂社等ヘ匿シ置キ或ハ竊ノ際見咎ラレ、途中ヘ

凡遺失ノ物ヲ得レハ、人ノ取落シ拾フ物ハ、必ス官ニ送ルヘシ。其差出スヘキ官物ハ、全ク官ニ入レ、上下ノ御用物ハ、分半ヲ其主ニ給シ、私ニ一半ヲ得ル人ニ給ス。如シ物ハ一半分ヲ其主ニ給シ、三十日内ニ其主ナケレハ、全ク給ス。拾ヒ主皆下サヘシ者ヘ若シ官ニ送ラサル者。官物ハ。坐贓ニ

遺失物ヲ取リ

凡遺失物ヲ得隱匿シテ官ニ送ラス、及ヒ主ニ還サヽル者ハ、官私ヲ分カス窃盜ニ準シテ論シ、一等ヲ減シ、並ニ物ヲ追レテ官私ニ還給シ、主ナキハ、官ニ入ル若シ官私地内ニ於テ埋藏ノ物ヲ掘得隱ノ官ニ送ラサル者、罪亦同シ、

○葉候品、又ハ失火ノ節、紛失候哉、賊盜取投捨候哉、不明ノ品、追テ他人見出候類、如何取扱可然哉、

六年七月二十三日指令

第二百八十三條ノ通

○青森縣伺

省察ノ文書ヲ遺失スル者有之、同人ヲ其段届出候後、間モナク他人拾取差出候ニ付事實ニ於テ更ニ障害無之ハ如何、

七年七月二十三日指令

他人拾得、事務上ニ於テ障碍ヲ生セサレハ、遺失ノ罪ヲ免ス、

○足柄縣伺　六年八月指令、及乘馬ニ預リ置キ、期限後ニ預ケ主歸ラス、三十日間掲示シテ、猶相分ラサレハ、預主ヘ付與スヘシ、

○廣島縣伺

地券拾ヒ上ケ候者、仍ホ得テ遺失物律ニ依リ、致ニ處置ニ可レ然哉、

六年八月十八日指令

地券ヲ拾ヒ得ルハ、他ノ遺失物ヲ得ルト異ナリ、失主ヨリ相應ノ謝禮ヲ為スヲ可シ、

○警保察伺

遺失物、食物ノ類腐敗可レ致物品ハ、直ニ拾人ヘ給與致ス、或ハ即時拾ヒ人ヘ給カ、其ノ價ノ一半ヲ還付ス

ルヲ以、取極ル共、代價見積リヲ置、他日遺失主申出ル節、其價ノ一半ヲ還付為レ致ル

両條ノ内、何レニモ決定致シ置度如何、

六年八月二十三日指令

本文伺出ノ物品ハ、直ニ拾人ヘ給與可レ致候、尤後日遺失主申出候共、其價ノ一半ヲ還付

○為レ致ル不レ及事、

若松縣伺

私物ハ、一等ヲ減シ、主アルハ、物ヲ追シテ主ニ給シ、主ナキハ、官ニ入ル。元下方ノ物ナレド

官ニ還ス。モト上ノ物ニ上ヘ夾ス。故

若シ官私地内ニ於テ、埋藏差出サス、不埒故、上ヘ取上ル。

物ヲ掘得ル者ハ、並ニ官ニ送リ、地主ト中分セシム。地面ト下ノ地持ノ堀出ノ物ハ、地主ニ上ヲ埋ノ内ニ藏セシ、其地ヲ送ラサル者ハ、隱シテ送ラ

九年四月十九日第五十五号御布告ヲ以テ第二百八十二條ヨリ第二百八十六條マテ廢止

新紙幣見本廻達ノ際、戸長手ニテ遺失スル者アリ如何

六年同月日指令

官ノ文書ヲ遺失スルヲ以テ論シ、懲役七十日、贖ヲ聽ス、

○山形縣伺

甲某、乙某ヨリ取置ク借金證書ヲ遺失シ、丙某拾フ之ヲ官ニ申ス、甲某又遺失スルヿヲ申ス、得遺失物律ニ依リ、證書ノ金高ヲ中分セシメ、至當ノ樣ナレ共、甲某直ニ乙某ニ行キ、實ヲ告ケ證書ヲ書改ルトハ、丙某拾フ者反故ニ屬シ、或ハ事實ニ於テモ、丙某乙某ニ行キ敢テ此金ノ返辨ヲ要ハルヿヲ得ス、正金ヲ拾フトハ區別モ有レ之儀ニ付、証書ハ甲某ノ遺失主ニ給シ、丙某ノ拾ヒ主ヘ相當ノ謝禮ヲナサシメ可レ然哉、

主ニ分ツ可キノ數ヲ計ヘ。坐贓ヲ以テ論シ。一等ヲ減ス。仍ホ地主ト中分セシム。若シ隱シ置者ハ。其地主ニ分ツヘキ半分ヲ。坐贓ノ科ニヨリ一段輕クシテ。罪ニ行ヒ。其上ニ分ツヘキ半分ヲ。仍ホ地主ト中分セシム。假令バ。二百両ノ得タレバ。其半バ百両ノ科。扶六十ヲ受テ。後百両ヲ、分ナ貰フナリ。

得遺失物條例

第二百八十二條　凡水中沉没ノ物ヲ得レハ。遺失物ヲ得ルヲ以テ論ス。

偵知シ、取還セシコヲ乞フ、拾主欺テ實ヲ告ケス、依テ事主官ヘ訴フ、審糾スルニ果シテ其實ヲ吐ク、如此者ハ竊盜ニ准スヲ可キ哉、又原ト盜心ナキヲ以テ、矢張遺失物ヲ得ル例ニ依リ、處斷可然哉、

七年三月十三日指令

第一條 伺ノ通 但私物ハ

第二條 等ヲ減ス、欺テ實ヲ告ケス、自己ノ所有ト為サント欲スル者ハ、伺ノ通、竊盜ニ準シテ論ス、

○ 島根縣伺

飼馬、廐ヲ脱シ逃ケ去ヲ其主之ヲ覺知シ、直チニ追掛ケ少間追跡スト雖モ、馬蹄速ナル、險易ノ別ナク、縱横飛走、竟ニ市街ニ奔入シ、其跡ヲ失フト雖モ、半

七年二月二日指令

伺ノ通

○ 同縣伺、

旅店ニ、甲乙ノ客アリ、甲所持品ヲ拾置キ、乙ノ所持品ヲ盜取逃走シ、行方不相知、右拾置ク品ハ、賊所持品ナルカ、他ノ盜賍物ナルカ、明ナラス、因テ遺失物ノ例ニ倣ヒ、掲示ノ上告ル者無之ニ於テハ、戶主ヘ全ク給

七年二月五日指令

可然哉、

○ 伺ノ通、熊谷裁判所伺

道路於テ遺失ノ金銀、及活動物ヲ得、落主ノ某タルヲ知テ、還與セス、輙ク轉賣シ、又ハ費用スト雖モ、遺失物ヲ得ル例ニ依リ、坐贓ヲ以テ論シ、可然哉、

第二百八十四條 凡官吏。邏卒。遺失物ヲ得レハ。所部持場内外ヲ問ハス。主アルハ全ク其主ニ還ス。如シ三十日内ニ。其主ナケレハ。得ル者ニ給ス。

第二百八十五條 凡一切應禁ノ物ヲ得レハ。遺失。及ヒ埋藏。若クハ。沉沒ヲ分タス。一體ニ官ニ沒入ス。

第二百八十六條 凡人ノ邸宅内。垣墻内ヲ邸内ト云フ。邸ニ接續スル林圃ハ。垣墻内ヲ以テ分ツ。外ニ於テ。遺失物ヲ竊取スル者ハ。竊盜ニ準シテ論ス。

○ 七年七月九日警視廳同ヘ、別紙通可相心得指令、遺失物取扱規則

第一條 遺失物ヲ得ハ

用ヒス、得ル者ハ適宜ノ謝禮ヲナサシメ可ク然ル哉、海邊ハ他船風濤ノ難ニ罹リ、物品ヲ水中ニ拋却スル時、暗ニ之ヲ竒貨ナルヲ傍觀シ、其ノ漂着スルヲ取スル者、其情形水中沈没ノ故ノ物ヲ得ルト同シカラス、故ニ窃盜ニ准シ處斷シ可ク然ル哉、

七年五月三十日指令

第一條　本文ノ如キハ、遺失物ト情狀異ナルニ依リ、失主ニ給付シ適宜ノ謝禮ヲナサシムルニ及ハス、

第二條　伺ノ通、

○和歌山縣伺

販材ヲ業トスル者、初メ之ヲ山林ニ伐採シ、漸ク撥ヲ編ヲ聯ニ諸川ニ浮下シ、或ハ之ヲ打ヲ岸陂塘ニ聯列ス、秋夏ノ際、一時雷雨滂沛川流暴漲スレハ鉅重ノ群材容

第二條　跡ニ捨置ク物品ハ、警視廳ニ送付セス。其ノ賊捕ニ就キ、但右一件ニ打合セ置キ、検査ニ互ニ警視廳伺ヘシ。

七年十二月指令

第二條　賊

遺失品ノ官物タルヲ知テ買者ハ坐贓ヲ以テ論シ一等ヲ減ス、私物ハ坐贓ニ二等ヲ減ス、

○愛知縣伺

今爰ニ甲乙丙ノ三商ノ茶ヲ甲ノ他ニ行キ、道路所携ノ其由ヲ乙ノ一品ニ休憩スルノ際、其品ヲ竊取セルヲ、乙ノ他ニ告クルノ後ヲ、乙ノ等ニ販賣セントスルニ、訴ノ品ヲ買主ニ有スルヲ可ラサルヲ、官ニ告ケ其品ヲ怪ミ、之ヲ官ニ出シ、曩日甲茶店ニ於テ竊取セルヲ以テ官直チニ乙ヲ喚問シ、是ノ所物ト同一品ヲ取セリ、乙丙ノ依頼ニ應シ、唯牙ヲ為スノミ、其由ヲ知ラス、丙ヲ拘引シ責問スルニ、乙丙ノ

レヲ拘留スハ、僅ニ數日、偶丙病ニ罹リ、獄ニ死シタルトキハ、其所由ヲ審カニスル所ノ一品、丙能ハス、抑甲ヲ失フ所ノ盜業ニ係ルカ、盜業ニ係ラス、盜ト雖モ、丙ノ自知タル他品ニ係ルモノ、未タ盜犯出ルモノ日ヲ獲ナ盜ニヘノ他ニ係ルモノ、期スニ可ラス、故ニ補ク、右ノ所照告ス

七年十二月十五日指令

甲獨リ茶店ニ於テ遺失物ヲ拾ヒ、傍ニ得ル端緒ヲ窺ヒ、以テ決シ難シ、罪ニ服セサル路ニ隱シ、追テ甲ニ給付スヘシ、

豫如キメ、姑ク丙ノ言ヲ例ニ照シ以取送ス

ニシテ遺失物ヲ得ハ、直ニ還付シ、遺失物ノ例ニ從ヒ、可然哉、將タ甲ノ可然哉

ニ據リ、其物ハ、私ニ其品ハ、止タ甲ニ給付云ヘシ、

○島根縣伺

道路ニ於テ遺失物ヲ拾ヒ得テ、之ヲ閲スルニ住所姓名判然、其親族知音ニ係ル以テ官ニ告ケス、私ニ本主ヘ給付シ、或ハ一面識無之他人ノ遺失ナル以テ、其住所姓名判然タル一種ノ篤實懇切上ヨリ、同前取計フモノハ、都テ不問置クヘキカ、又ハ親族他人ノ間、區別ヲ立、假令知人ノ指揮ヲ經サルヲ外ハ、責メ官ノ拾得モノ遺失モノ共、違式ノ輕キニ問ヒ、聽贖シ品ハ折半法ヲ用ヒスシテ可然哉、

八年一月九日指令

親族或ハ姓名判然タルニ、懇切ヲ以テ取計ヒ、事ニ於テ害ナキ者ハ、不問ニ措クヘシ、因

其拾ヒタル物ハ、不正ニ限リ、知得サル時、一箇ノ者ニ拾ヒ得タル品ハ、途上ニ出ル、明白ナル後、盜賊ニ捕ハレ、疑ヒ時、以テ裁ス、遺失ノ物ハ、其ノ品ハ、賞ニ同ル、公ニ訴ヘ、廉恥ヲ勵ス、抑多ノ遺失物者ニ、一如筋ノ供狀許シ、儀就ク懷ヒ、既ニ賍物ヲ論シ、其物ヲ拾ヒ得ル者ニ、然スマ給ヒ、半ヲ區別ヲ立、假令知人ノ指揮ヲ經サルヲ外ハ、責メ官ノ拾得モノ遺失モノ共、違式ノ輕キニ問ヒ、聽贖シ品ハ折半法ヲ用ヒスシテ可然哉、

八年一月九日指令

親族或ハ姓名判然タルニ、懇切ヲ以テ取計ヒ、事ニ於テ害ナキ者ハ、不問ニ措クヘシ、因

七年十二月指令

○三重縣伺

郵便罰則第七條中、書留郵便物ヲ遺失云々、其官書ニ係ル者ハ、從重處斷スト云々、又鳥獸獵罰則第十八條、此ノ諸規則ヲ犯スニ、詐偽脅追ノ擧動アル者ハ、本ニ依リ、從重科斷スト雖モ、其重キトハ抑モ何等ニアル

第三條

八年四月十二日指令

郵便罰則第七條官ニ係ル書郵便物ノ遺失ハ、尋常書籍等、遺失ノ罰ニ比較スレハ、輕重アルニ付、本條罰金範圍ハ、信

○重警視廳伺

キト輕重アルニ從ツテ、科斷スヘシ、其本律ハ、舊鳥獸獵規則第十八條中ニ從ツテ處分スヘキモノハ、其詐偽脅追ノ情狀ニ因リ、規則ヲ犯ス

第四條

遺失物取扱規則數條伺濟ノ内、第二條盜賊竊取去リ第三條混堂、或ハ客塵等ニ於テ、他客ノ物品ト換ヘ、跡ニ殘シ置物品ハ、稍同一ノ物ニシテ、處分上大ニ區別有之、其權衡相均シカラサルニ似タリ、且混堂客塵ノ換品ハ、概スルニ皆盜賊ノ所業ニ係ルモノナレハ、該賊捕ニ就ク迄ハ、第二條盜賊ノ置品ト同シク、一箇年間、警視出張所ニ留置キ、探索ノ用ニ供シ、尚蹤跡ヲ得サレハ官ニ没致度、

八年四月七日指令

他客ノ物品ト換易シテ殘置ク物品ハ、第二條ノ通處置スヘシ、市店ノ物品ヲ買ト詐欺云々ハ、是迄ノ通取計ノ可シ、

○山梨縣伺

第五條

犯人ノ蹤跡ヲ得ルニ迄ハ、其警視廳ヲ出張所ニ留置キ、探偵ノ用ニ供シ、賊縛ニ就テハ、併セテ東京裁判所ニ送付スヘシ。但右一件ヲ詳記シ、檢事局ヘ打合置キ、互ニ探索スヘシ。

第六條

拾主ニ畜養シ難キ事情アルモノハ。出張所ニ留置キ、尋常ノ處分ニ遺失物ノ例ニヨリ償ハシ、畜養費ヲ。本主ニ於テ畜養ヲ出張ノ

遺失物取扱規則數條伺濟ノ内、第二條盜賊竊取去リ第三條混堂、或ハ客塵等ニ於テ、他客ノ物品ト換ヘ、跡ニ殘シ置物品ハ、稍同一ノ物ニシテ、處分上大ニ區別有之、其權衡相均シカラサルニ似タリ、且混堂客塵ノ換品ハ、概スルニ皆盜賊ノ所業ニ係ルモノナレハ、該賊捕ニ就ク迄ハ

災ニ遺失物アリ、三十日以内ニ、遺失主アリト雖モ、其遺失物ハ、他ニ本主アッテ、一時寄託ヲ受、甲ヨリ乙ヘ送スルヘキ物品ニ付、拾主ヘ給スル一半ノ代價ハ、總テ遺失主ヨリ辨償為致候儀、無論ニ被存候處、遺失主於テ、辨償スヘキ資カナケレハ、拾主ヘ給スル代價ハ、本主ノ損失ト相心得可然哉

八年十月八日指令

伺ノ通、

○滋賀縣伺

今茲ニ民費ヲ以テ、官道ノ橋ヲ作リ、往來ノ旅人ヨリ、相當橋錢ヲ申受度旨願出ルニ付聞届、橋錢取立ノ儀ハ、何程ト申儀見込書可差出旨相達置候處、等閑ニ打捨置ノミナラス、橋未タ

造營ナラサルニ、往來ノ者ヨリ、合力ト稱シ、錢ヲ取立落成ノ後モ、尚右見込書差出サス、竊ニ往來ノ旅人ヨリ、橋錢取立ル者アリ、右ハ違式重ヲ以テ論シ、聽贖シ其取立ル所ノ錢ハ、官ニ没シ可然哉、

但已ニ費用スルニ及ハス候哉、追徵前同斷、已ニ官ヨリ其取立ツヘキ定額ヲ申渡スノ後チ、過分ニ增錢ヲ取立ルアレハ、其增加スル所ノ數ヲ計ヘ、坐贓ヲ以テ論シ可然哉、又ハ違式輕重ニ依リ可然哉、

今茲ニ甲乙丙丁ノ四人アリ、兼テ御布告ノ旨ニ違ヒ、傳染流行病ノ斃牛ヲ、甲ヨリ乙ノ牙保ヲ以テ竊ニ丙ヘ代金四圓ニ賣渡シ、乙ヘ出キ箇條ノ内。重ナリ。ハ。笞四十。輕キ者ハ。一等ヲ減ス。

違令條例

第二百八十七條　凡制ニ違フ者ハ。懲役百日。輕キ者ハ。一等ヲ減ス。

第二百八十八條　凡式ニ違フ者ハ。懲役二十日。輕キ者ハ。一等ヲ減ス。

○滋賀縣伺

前第四條魚代金ノ儀ハ別

沽却シ。畜養ノ費ヲ拾主ヲ給ス。其畜養ノ費ハ。拾償主ヲ給ス。

但シ本文動物ニ限リ。二日四十時以内ニ限リ。

遺失ヲ云フ。

遺失ヲ常ノ例ニ。

遺失ヲ尋ヘ。

遺失物ヲ拾主ヘ給ス。

遺失物ヲ拾主ヘ給ス。

遺失物ヲ拾主ヘ給ス

金二十五錢世話料トシテ、甲ヨリ差遣シ、丙買取所ノ牛、肉骨ハ肥ニシ、皮ハ又丁ニ斃牛タルノ情ヲ押隱シ、代金一圓五十錢ニ賣渡シ、其皮ハ丁ノ所ニ現在スル者ハ、違式ノ輕ニ擬シ、乙甲丙ハ違令ノ輕ニ擬シ、丁ハ情ヲ知ラサルヲ以テ、一等ハ從トナシテ、減シ、無罪ト論シ可然哉、而テ其第七年二月二十二日指令ノ皮ハ、犯禁ノ物タルヲ以テ、没収シ、丁ヨリ直ニ追徵、官ニ没シ、甲乙丙ノ得ル所ノ金モ、亦應禁ノ物ヲ販賣シ、得ルヲ丁ニ牛皮代價ヲ償ハシメリ可然哉、

但已ニ費用スレハ、追徵スル者ハ、候哉、

當管内、湖中ニ簀ヲ立テ、魚類ヲ以テ、願ヒ從ハ來水害ヲ釀スヲ以テ、置賜縣伺ノ通、

○第二條　雜犯律違令

段御指令無之ニ付官没スルニ及ハスト相心得可然哉、

免許ヲ受ケス、小屋圍ヒ等取建、相撲芝居等興行スル者ハ、違式ノ輕ニ問ヒ、其得ル處ノ財、及ヒ小屋圍ヒ等ハ、官没ニ及ハス候哉、

但違式註違罪目ヲ犯スハ、限外ト存候、酒樓或ハ割烹店ノ主、來客ノ博戲ハ、

アリト雖モ、猥ニ之ヲ免サス、若シ免許ヲ與レハ、相當ノ稅ヲ收ル成規ニ候處、動ハ沿湖ノ漁師等免許ヲ受ケス、竊ニ之ヲ設ル者アリ、右ハ情量リ、違式ノ輕重ニ問ヒ、仍ホ其簀竹ノ魚代金モ、亦官没シテ可然哉、

但已ニ費用スル者ハ、追徵スルニ及ハス候哉、

第七年一條　伺ノ通、

第二條　坐贓ヲ以テ論スヘキ數ヲ增加スル所ノ

第三條　甲ヲ販賣代金四圓、及ヒ乙ヨリ世話料二十五錢ヲ丁ニ給ヲ追シ、一圓五十錢ヲ官没シ、情知ヲ違式ノ輕重ニ問ヒ、贖ヲ聽ス、

但書伺ノ通、

七年一月三日指令

○京都裁判所伺

近頃京攝間ノ商人共、頻リニ舊銅貨ヲ買締メ、又ハ私ニ相場ヲ立テ、賣買致スニ付、銅貨拂底、諸人難澁ノ趣相聞候、右ハ追々御布令モ有之、且太政官本年第三十五号御布告ニ依リ、即今右所業ニ及候者、偵索勾問中ニ候所、右誤犯人ハ違令ニ問擬シ、處斷致シ候儀ハ勿論ノコト存シ候得共、其賣買スル所ノ銅貨金圓ハ、花利ヲ追シテ官ニ没シ原貨ハ事主ニ還付致レ候儀哉、

スルヲ見察シ、別ニ謝金ヲ受スト雖モ、亦謝絶ヲ為サス、放縱セシムル者ハ、違令重キニ問ヒ可然哉、

七年四月十日指令

伺ノ通、

第四條　違式輕ニ問ヒ、贖ヲ聽ス、仍ホ簀竹ハ官没ス、但贖ヲ書伺ノ通、

○滋賀縣、實印ヲ入ニ預ル云々、伺、

七年七月十三日指令

第一條　他行致シ、實印ヲ却シ、人ニ遣ハシ取寄セ候者ハ、他人ニ實印ヲ預ケルノ類ニアラス、無罪、但書伺ノ通、

第二條

○京都裁判所、市中濫便裸體等犯禁ノ伺、

七年九月二十七日指令

地方違式註違條例施行ノ伺ノ通リ、各犯律ニ依リ、處断ハ、其情狀輕キハ、同第六條ニ準シ、重キハ、見込ヲ以テ、裁判官ノ處断ニ依リ、可キ事、但其旨府縣ニ懸合置クニ及ハス、

七年五月十七日指令

伺ノ通、情量リ、違式ノ輕重ナラン歟、

○問ヒ、贖罪或ハ收贖ノ申渡ヲ受シ大分縣伺ヲ聽ス、

○管轄ノ喚起ヲ受ケ、無斷不參シ、又ハ無謂遲參スル者ハ違式ノ輕重ニ問フ可キ、

○島根縣伺

七年四月二十日指令

都テ官ニ罪ヲ没入致シ候儀ハ、看做シ、又ハ給没贓物條ニ照シ、取犯人ハ、伺ノ通、違令ニ問フ可キ、花利ヲ追シ、原貨ヲ還付スル限ニ在ラス、

違式輕重ニ問フ、

七年十一月八日指令

分致シ可然哉、逃走セシモノハ、如何處ヲ、贖罪未タ其贖ヲ完納セス、渡ヲ受シ

○滋賀縣伺

明治六年教部省第二号布達ニ、梓巫市子拜憑祈禱ト唱ヘ、玉占口寄孤下ケ抔ト、人民ヲ眩惑シ、禁止ノ儀、自今一切被禁止云々トアリ、右梓巫市子等ノ所業ヲ以テ、孤下ケ等ノ所業ヲ為スヲ者ハ、例第二百九十一條ニ照シ、不應為重ニ科シ、財ヲ得ル者ハ、竊盜ニ準シ、重キヲ從ヒ、科斷シ可然哉、但本文祈禱ト有之ハ、梓巫市子等ノ自家ニ祭ル所ノ淫祠ニ祈禱スル儀ニテ、尋常神佛ニ祈禱スルハ、禁止ノ限ニアラスト相心得可然哉、

周易人相家相等ノ事ヲ以テ、吉凶禍福ヲ判斷シ、財ヲ受ル等ノ、所業ヲ為ス者ハ、今開明ノ進歩ヲ妨ルト

○靜岡縣伺

渡世ニテ、茶ノ製ス、奸商ノ者アリ、今之ヲ比ニ製茶ノ葉ノ下茶ニ、墨水ト温純赤糊トヲ以テ、濕シ置キ、焙爐粉末ヲ掛ケ、上茶ノ体ニ色合ヲ附ケ、惡製シテ賣却シ、利得ル者アリ、如是者ハ、違式條例云フ、實造ノ飲食物並ニ腐敗ノ食物ヲ知テ、賣スル者トアルニ依レハ、其權衡、雜犯律違式ニ問ヒ、實斷シテ可然乎、又輕重品ニ付其濫製ヨリ、全國ノ產ノ最モ尊稱スル輸出品位ニ關係スルニ至ル乎、

違式輕重ニ問ヒ、贖ヲ聽ス、

七年十一月十日指令

不應為ノ輕重ニモ問フ可キ乎、

雖モ、別段禁止無之上ハ、咎メニ及ハスシテ可然哉ト存候ヘ、共、右ニ託シテ生霊死霊、或ハ方位ノ祟リ抔ト唱ヘ、人ヲ惑シ、自家祭ル所ノ神佛ニ祈禱シ、無謂神符ヲ與ヘ、財ヲ貪ル等ノ所業ヲ為スニ至ツテハ、不穩為重ニ準シ、重ニ從ヒ科斷シ盜可然哉

七年十月二十八日指令

第一條　人民ヲ眩惑スル者ハ、違令重ニ問ヒ、財ヲ得ル後ハ、窃盜ニ準スル限ニアラス、但書ノ通、第二條　吉凶ヲ易術ト占シ、財ヲ受ル者、第八條　一月九日指令ニ、一等減可然哉、犯罪ハ、以罪ニ問ヒ、可キ其無根ノ素出入取締ノ寛嚴、及ヒ犯狀擬ヒ、説ヲ唱ヘ、人ヲ惑ハ、為ニ問ヒ、財ヲ受ルモ、不應

○名東縣伺

平民帶力不相成ハ、現今ノ御制度ニ候哉、庚午十二月廿四日御布達、御變革無之時ハ、右犯罪者、凡違令ニ問ヒ可然哉、

七年十一月十日指令

○伺

御陵ニ縣柵ヲ構ヘ、周池ヲ以テ兆域ヲ立ツ、若シ池中ノ細魚ヲ獲、或ハ乾水ノ時、池中繁生ノ葦草類ヲ採去ル者ノ類ハ、違令ノ輕重ニ問ヒ可然哉、御墓ニ係ル同上ノ犯罪ハ、總テ御陵ニ一等減可然哉、

八年一月九日指令

一條　両條ノ如キハ、平寛嚴、及ヒ犯狀擬ヒ、豫メ指ヘシ、難シ、口書ヲ以テ伺出ヘシ、

窃盜ニ準スル限ニアラス、

○白川縣、寄留ノ届方等閑ノ伺

七年十二月二十七日指令

明治五年壬申十月、藝娼妓解放ニ付、抱置ク子女、親屬ヘ還付スヘキヲ、大數身代金ノ損失ヲ厭ヒ、本人並ニ親屬ヲ說得シ、一箇年或ハ半箇年前日ノ儘ニテ解放セス、抱ヘ留候者、違令重ニ問ヒ、處斷シ、解放後所得ノ女ニ給シ候哉、追徵シテ其子

○名東縣伺

明治五年壬申十月、藝娼妓解放ニ付、抱置ク子女、親屬ヘ還付スヘキヲ、大數身代金ノ損失ヲ厭ヒ、本人並ニ親屬ヲ說得シ、一箇年或ハ半箇年前日ノ儘ニテ解放セス、抱ヘ留候者、違令重ニ問ヒ、處斷シ、解放後所得ノ女ニ給シ候哉、追徵シテ其子

八年一月九日指令

但纏頭揚代金、追徵シテ其子

○伺

山梨裁判所伺

東京裁判所伺

工商其職業ノ為メ雇入シ候者ハ、僕婢稅則第三則ニ無稅ト有之云々、無稅ノ者ニ付、稅金五倍ノ科料申付難ク候間、違式輕ニ問ヒ、聽贖シ可然哉ノ伺ニ、

○伺

白川縣、寄留ノ届方等閑ノ通、

七年十一月十日指令

○伺

奈良縣

御陵ニ縣柵ヲ構ヘ、周池ヲ以テ兆域ヲ立ツ、若シ池中ノ細魚ヲ獲、或ハ乾水ノ時、池中繁生ノ葦草類ヲ採去ル者ノ類ハ、違令ノ輕重ニ問ヒ可然哉、御墓ニ係ル同上ノ犯罪ハ、總テ御陵ニ一等減可然哉、

八年一月九日指令

一條　両條ノ如キハ、平寛嚴、及ヒ犯狀擬ヒ、豫メ指ヘシ、難シ、口書ヲ以テ伺出ヘシ、

木ハ費用スルト否トヲ問、代價ヲ計算シ、官廳ヘ還付致サセ候儀ト心得罷在候處、本年筑摩縣伺ニ、已ニ費用スル者ハ、追償ニ及ハスト御指令相見ヘ、疑惑ヲ生シ候ニ付、如何相心得可然哉、附本文筑摩縣伺ニ依ル時、郷村社寺ノ為メ道路修繕、其他村用ニ木ヲ伐採スル者ハ、無願ニテ官林ヲ伐木スルト雖モ、賊已ニ入レサル違令輕重ニ問ヒ、贖六年ヲ聽ス、ヘキ儀ニ候哉、旧六月十二日指令

○八年十月廿日

越後蒲原郡濁澤村農民佐次郎波高藏高井郡高井村農民佐次郎波高藏ハ、難波調入費ノ為メ、村内ノ樹木ヲ伐採スル節、罪案ヲ以テ地券ヲ社境内除税地ノ儀、十二神社境

八年一月二十五日指令

保管人ノ鈐束等閑ヨリ潛出シテ、喚問等ノ不都合ヲ生スルニ至ルハ、違式輕ニ問フヘシ、

○敦賀縣伺

八年二月五日指令

官國幣社並府縣社等ニ建設スル制札ノ禁令ニ背キ、車馬乘入ル者ハ、違式輕重ニ問フ、

○愛知縣伺

懲役人ノ親戚、若クハ他人ヨリ衣服等ヲ贈與スル際、其中ニ食物ヲ包藏シ贈ル者アリ、獄則中正條ナキヲ以テ、違式輕重ニ問ヒ贖ヲ聽ス、

八年三月二十三日指令

○違式輕ニ問ヒ、贖ヲ聽ス、

○小倉縣伺

違式其餘輕キ犯罪ニテ、贖罪罰金等ニ相當ル者、情ヲ量リ贖ヲ聽スニ無之、本人病氣ノ節ハ、委任ヲ受タル代入ナレハ、其代入ヲ取調、其口供ヲ以テ處分シ不苦候哉、

八年三月二十三日指令

○伺ノ通、

○和歌山縣伺

墮胎藥ヲ調劑シ、姓名居所嘗テ熟知セサル者ヘ販賣セシヘ、固ヨリ墮胎シタルヤ否モ亦知ルヲ可カラス、是等ハ直ニ戶婚律立嫡違法條例、情ヲ知テ藥ヲ賣リ、及ヒ技術ヲ施ス者同罪トス、云フニモ憑據シ難キ歟、違令輕重ニ問ヒ、實斷スヲ可キヤ、

八年三月二十八日指令

違令輕重ニ問ヒ、贖ヲ聽ス、

質樸ニテ、悔悟ノ心アルヲ以テ、獄司專斷シテ、械具着セス、押解人ヲ附セス、外役ニ出シ候處、遂ニ逃走スル者有之、右獄司ノ罪ニ依リ斷スルニ、不覺失囚律ニ如シ、之論スレハ、稍輕キカ可然哉、違制ノ輕ニ擬シ可然哉、

八年三月二日指令

○福島縣、制令式區分ノ伺ノ通、

八年三月十日指令

詔勅ヲ制ト、院省使ヨリ公布スル所ノ諸公告ヲ令ト、府縣ヨリ下布スル共事理重キ者ヲ規則ト為ス、然レ布令ト雖モ違制ニ可ス、必竟事件ノ輕重ニ依テ、分擬ス、

○滋賀縣伺

官地拂下ケヲ願ヒ置キ、耕種ノ時節ニ差向ヒテ、許可受ケ、擅ニ開墾耕種スル者、情ヲ量リ、違式輕重ニ問ヒ、贖ヲ聽レハ、官ニ没シ、已ニ費用スル者ハ、追徵セス、但シ山林等ニテ、可然哉、竹木等ヲ伐採開墾スル者ハ、其竹木ハ已ニ費用シテ、代金ニテ追徵シ

八年三月十四日指令

地所拂下ケ成ル可キ地所ニ、本人ヘ拂下ケ成ル可キ地所ニ、伺ノ通、違式ニ問ヒ贖ヲ聽レハ、穀物現在スルモ追徵ス、若シ入札、又ハ拂下ケ成ル可キ地所ナル時ハ、其入札等ノ地所ナル時ハ、本人ヘ拂下ケ成ル可キ地所ニ、本文ノ通リ處分ス、若シ同罪ニ成ラサル地所ナル時ハ、前ケ成ル可キ地所ニ、資力ヲ量リ追徵ス、但書モ、穀物費用スル科シ、穀物ノ通違式ニ問ヒ贖ヲ聽レハ、及ハス、若シ入札、又ハ拂下ケ成ル可キ地所ニ、本人ヘ拂下ケ成ル可キ地所ニ、伺ノ通、違式ニ問ヒ贖ヲ聽レハ、穀物現在スルモ追徵ス、若シ入札、又ハ

○大坂裁判所伺（罪案節録）

先般御發行ノ太陽暦、飾磨縣ニテ管内布達ノ為メ、上木セシ由ニテ、前後不足ナク五百部、姫路人ヨリ買求メ又堺縣布達ノ暦ヲ一部買求メ、前後三枚取外シ、下ト村亀助ヘ他ヨリ頼レシ、種村亀助ヘ以テ手間料ヲ趣ヲ以テ、彫刻致サセ、金二圓余ニ補助シ、四百六十六圓余ニ賣拂候、首尾ヲ補ハ、六十一ヶ年七月十八日指令ヲ以テ、暦ノ代金十六圓余ニ至ル、縣下ノ文書ヲ詐為ニ冒スヲ

六雜犯律

扱ハ、暦ノ禁ヲ弘暦者ノ外、類暦取扱ヲ心得、飾磨縣ノ太陽暦ニ準シ、翻刻ヲ購ヒ、首尾不足ナク、翻刻ヲ請ケ、板刻スル、違令ノ輕ク引照シ、

不應為

凡律令ニ正條名駁ノ箇條的ル罪人ノ筋ニ於テ雖モ情理ニ於テ為ス科ヲ云フ

不應為

總テ人情ハ、萬變可キナリ、盡ス文律ニ非ス。此條ハ、道理上ニ見ヘズ。為サレ為ス事ヲ為ス者ハ、笞三十。

伐採スル竹木ハ、賍ニ計ヘ、常人盜ニ準シテ論ス、

スルヲ以テ論ス、可カラス、不應為ノ重ニ問シ、岡崎助七

懲役七十日

詐欺取財ヲ以テ論スル、竊盜ニ準スル賍、十圓以上同罪、

懲役三十日

○東京裁判所伺、六年九月十日指令

懲役三十日

種村亀助嚢中貯蓄ナキヲ顧リミス、登樓ニ及ヒ、酒食ノ料ヲ還筭スルニ臨ミ、取締所小使ト詐稱シ、一時其場ヲ逃レントテ、捕縛セラル、雜犯律、不應為輕懲役三十日

若松準之助坐賍ヲ以テ論シ、一等ヲ減スルノ罪ハ、輕ニ代價ハ、除棄ス、酒食ノ

杖七十。

不應為條例

第二百八十九條　凡二人以上。同ク不應為ヲ犯シ。首タル者。懲役三十日ニ該レハ。從ハ。懲役二十日。首タル者。懲役七十日ニ該レハ。從ハ。懲役六十日ニ科ス。若シ所犯。其仕方ナリ輕重ノ分アレハ。不應輕重ニ分擬。其事ノ輕キハ三十日。重キハ

八年九月五日第百三十七号ヲ以テ第二百九十一條例刪除

○筑摩縣伺、六年九月十三日追シテ事主ニ給付ス、指令、狐ヲ使ヒ、人ニ禍スル巷説ヲ誤信シ、會議ノ節、暴擧ノ倡首タル者、雜犯律不應為重ニ問シ、懲役七十日

器物ヲ棄毀スル上松亦左ニ計ヘ、竊盜ニ準シ、懲役六十日ハ輕シ、論セスト雖モ、猶棄毀物ハ賠償セシ

○三重縣士族龍崎潛供、本年一月ヨリ、同郡東筑野村小學教師ニ雇ハレ、教授ノ暇、新聞誌ヲ閲シ、舊參議及ヲ諸人ノ論辯ヲ信シ、政事實際上ハ、毫モ見聞セス、特ニ新聞誌ノ中ニ就キ、妄ニ即今政事ヲ想像シ、前段諸人ノ

第二百九十一條　凡詭言ヲ流傳シ、人ヲ惑ハシテ政體ヲ妨害スル者ハ、政事向キノ邪説ヲ書物ニ成シテ、及ヒ著述ス

七十日ト分テシ。首從ヲ罪ヲ該ルナリ。以テ論セス。

第二百九十條　凡佛像ヲ棄毀ス（壞打スル）者ハ、不應為重ニ科ス。懲役七十日ノ

○筑摩縣伺、八年一月七日指令、二月中旬、新事誌社中ヘ投書ス、文中間々大姦小病氣引ノ者、月俸規則ニ違ヒ、或ハ政府反省云々ト、過激狂暴ノ字句ヲ用ヒシハ、全ク一時ノ想像ニ出テ、同志ノ者ハ勿論一身上ニ於テモ聊實着ノ心意ハ儀平沼專藏ヨリ、為替取組候決テ無之、今般御詰問ニ預リ、一言ノ申開キ無之候、

七年七月五日指令　一已ノ想像ヲ以テ、妄ニ政府ヲ誹議シ、新聞誌ニ投書スル者、例第二百九十一條、凡詭言ヲ以テ、情狀ヲ酌量シ、二等ヲ減ス。

○筑摩縣伺、七十日ト分テシ。首從ヲ罪ヲ該ルナリ。以テ論セス。

第二百九十條　凡佛像ヲ棄毀ス（壞打スル）者ハ、不應為重ニ科ス。懲役七十日ノ

第二百九十一條　凡詭言ヲ流傳シ、人ヲ惑ハシテ政體ヲ妨害スル者ハ、政事向キノ邪説ヲ書物ニ成シテ、及ヒ著述ス

論意ヲ參酌シ、一篇ノ文ヲ綴リ、二月中旬、新事誌社中ヘ投書ス、文中間々大姦小病氣引ノ者、月俸規則ニ違ヒ、或ハ政府反省云々ト、過激狂暴ノ字句ヲ用ヒシハ、全ク一時ノ想像ニ出テ、同志ノ者ハ勿論一身上ニ於テモ聊實着ノ心意ハ儀平沼專藏ヨリ、為替取組候決テ無之、今般御詰問ニ預リ、一言ノ申開キ無之候、

七年七月五日指令　一已ノ想像ヲ以テ、妄ニ政府ヲ誹議シ、新聞誌ニ投書スル者、例第二百九十一條、凡詭言ヲ以テ、情狀ヲ酌量シ、二等ヲ減ス。懲役五十日申付候事、

○筑摩縣伺、八年一月七日指令、月俸規則ニ違ヒ、文中間々大姦小病氣引ノ者、懲役七十日申付候事、

○司法省裁判所言渡、其方儀平沼專藏ヨリ、為替取組候為替古証書ノ文意ヲ書替、金子ヲ欺取ントスル科、例第二百四十六條ニ依リ、不應為ノ重ニ問ヒ、懲役七十日申付候事、

○新治縣伺

○山形縣伺、禁獄七十日懲役入外役向途中、割烹店ニ立入、酒食ヲ喫シ、或ハ爛漫ノ文意ヲ書替、私利ヲ計ントスル科、例第二百四十六條ニ依リ、不應為ノ重ニ問ヒ、懲役七十日申付候事、

○崎潛

政体ヲ妨害スル者ニ擬シ、不應為重ニ問ヒ、士族タルヲ以テ閏刑ニ換ヘ、

婦處女等ニ姦通スル者ハ懲役人ハ棒鎖酒食ヲ喫セシムル者又ハ相與ニ和スル婦女等ハ情ノ輕重ニ問ヒ例ニ依リ收贖可然哉

八年二月二十四日指令

懲役人ハ不應為ノ輕重ニ問ヒ例ニ依リ收贖可然哉

○

雖伺酒食ヲ與セシ人ハ不應為重ニ問ヒ其罪ニ區處スト他ノ通收贖ノ量減等スル者ハ押解人罪ヲ護送スル途中ニ在テ囚ト同飲シ酩酊不ノ情ヲ知テ紐繩ヲ解ク囚ハ押解罪ヲ忘レ逐ニ押解者ハ囚ヲ紐繩ヲ解ク囚ハ押解罪ヲ忘レ逐ニ押解者ハ囚ヲ知テ彼我共ニ縣飲シ囚ヲ知テ彼我共ニ縣飲シ囚ヲ知テ彼我共ニ縣飲シ

○京都裁判所伺
右賭博遂ケ得サル者ヲ
戸長ヨリ一應聞糾シ、官
ヘ伺ヒ濟ノ旨申成シ、私ニ
放スル者違式輕ニ依リ、私解廳ヲ
罪贖例ニ照シテ聽贖シ、右区
受ケシ酒食ノ饗及餽送等以
ニ付、枉法ヲ以テ斷
論シ破廉恥甚ニ依リ、破
可キ哉但不枉法ノ贓モ、廉
竊盜ト同シキニヨリ、破
恥甚ヲ以テ可シ斷裁、
七年一月六日指令
本條ノ後項及ヒ例第二百九
十二條ニ依テ處分ス可シ、
但書不枉法ハ、破廉恥ヲ以テ
論スル限ニ非ス、

○茨城裁判所伺
强竊盜、其他犯罪者、旅店或
ハ浴肆等ヘ到リシ時、主人報
其賊タルヲ知リ、逮部ニ報ト
知シ、逮部之ヲ捕縛セシ

凡捕吏ハ故ニ捕出ケ受ケテ罪人ヲ託シテ追捕ス若シ人ヲ差遣ハ行カ捕ノ承ケ召ス申付方事ニ附テ。

捕亡律

追捕罪人

人ト云フ。犯罪ハ。囚人ハ名捕者。ヲ總書分タ罪ヲ捕モ定リ既ニ召シ以テ

ヲ聽ス、

テ、其家ニ踏込ミ、追逐中戸障子又ハ器物ヲ破毀スル時ハ、其破毀ノ失費、代償ヲ以テ、其家ヘ償却致シ可然哉、

七年一月六日指令

速ニ拏獲セサレハ、罪人脱逃ス品ノ毀損スルアリ、景況切迫、物ノ瑕疵ナ品追逐ノ際、誤テ戸障子、其他器物ヲ毀損スル時ハ、破毀ノ失費ハ、罪人ニ償却セシムル非ス、雖モ、若シ情事急迫ナ捕吏怒激追逐シ、誤テ毀損スル時ハ、捕吏ハ、捕吏ヲ捕ムル必要ハ、実際検査ヲ上、処分スル但罪人資力菲薄ナ本人ハ、償却ヲ要セ

○主守一人ニテ、一時其人十名ヲ、逃走ヲ覺ラサルモ、直ニ覺知シ、之ヲ捕得スル者ハ、例第三百九條ニ照シ、處斷致シ、其情狀甚タ憫諒ナリ、又監獄則中、獄丁其管スル所ノ外役ノ囚逃亡シ、即日之ヲ拿捕スル能ハ、之ヲ罰スル云々ト有レ之候得共、即日捕得スル者ハ、明文之ナキ、則チ無罪ニ期スルナラン、乎、依テ前顯ノ如キハ、其罪ヲ免シ可然哉、

七年六月九日指令

主守罪囚ノ逃走スルヲ、即時覺知シ追逐シテ捕得スル者ハ、役ノ内外ヲ論セス、失囚ノ限ニ在ラス、其逃走スルヲ即時覺知セサル者ハ、縱令即日捕得スルモ、例第三百九條ニ

地ニ使役スルニ、役人ニテ、一時其人ニ覺ヲ、逃走ヲ覺ラサルモ、直ニ覺知シ、之ヲ捕得スル者ハ、例第三百九條ニ照シ、處斷シ、其情狀甚タ憫諒ナリ、又監獄則中、獄丁其管スル所ノ外役ノ囚逃亡シ、即日之ヲ拿捕スル能ハ、之ヲ罰スル云々ト有レ之候得共、即日捕得スル者ハ、明文之ナキ、則チ無罪ニ期スルナラン、乎、依テ前顯ノ如キハ、其罪ヲ免シ可然哉、

同罪者ハ。絞ニ處スル律ヲ改メ。懲役終身ニ從フト雖モ。其財ヲ受スシテ。故縱シ。及ヒ通信シテ。逃避セシムル召捕リニナフ云フ者ハ。同罪トテ。欠落サスル拐ケ。十年懲役ヨリ重キ科ナシ。同罪者ハ。罪。懲役十年ニ止ル。

○滋賀縣伺本條故縱スル者ハ、囚ト同罪トアリ、然ルニ罪人逃走シテ、捕獲スルニ非レハ、罪ノ有無判然ナラス、若シ捕獲ヲ得サレハ、故縱ノ罪ハ

若シ財ヲ受ケ。故縱スル者ハ。罪人ヲ。略ヲ見逃ヲ。取ル者。囚ト同罪。贓重キニ從テ論ス。贓ニ計ヘ。賠償金ヲ。枉法ヲ賠ル罪ヲ重取キ者ハ。重キ方ニ付テ。重ケ。捉ヲ枉タル罪ノ。捌ク。

以テ。追捕罪人ノ條例

第二百九十一條　凡捕吏。正犯ノ財ヲ受ケ。故縱スル同罪者。正犯。科ナリ人ナ見リ逃スル死ニ至レ當ル死罪ニ者ハ。

依ル、畢竟當時ノ景況ニ依テ
區處スヲ可シ、

○山形縣伺

主守罪囚ノ逃走ヲ覺察シ直チニ追捕シテ、主守或ハ他人即日捕得スレハ、主守ノ罪、全免シ可然哉、又例第三百九條ニ照シ、二等減ノ處置ニテ可然哉、

七年六月十五日指令

即時覺知シ、追逐シテ捕得ル者ハ、失囚ノ限ニ在ラス、即ト時覺知セサレハ、即日自他ヲ論セス、捕得スルモ、例第三百九條ニ依ル、

○京都裁判所、捕吏、罪人ノ在ヲ知テ、捕ヘサル等ノ伺

七年六月十五日指令

追捕罪人條、前項ハ、本罪ノ輕重ニ從テ、百日ニ科シ、後項囚ト同罪ニ懲役百日ニ拘ハラス、概シテ懲役百日ノ輕者ハ、罪囚本罪ノ輕重ニ從テ、贖金ヲ以テ、即日ニ科シ、後項囚ト同罪ニ懲役百日ノ輕者ハ

スル者以上ヲ申シ候儀ニテ、其折傷以下ノ文ナキハ、罪ニ問ハスシテ可レ然哉、

七年六月二十四日指令

○伺ノ通、

○伺大分縣本年新潟縣ヨリ、罪ヲ犯シ逃走シ、追捕ヲ拒ク者ヲ云々、拒捕逃走二事ト可レ心得レ有哉、伺ノ通ト御指令ニ、伺ノ賭博之、同千葉裁判所伺ニ、賭博ニ二人之ニ、十人逃走シ、捕吏二人之者ヲ捕ヘントス、其二人逃走スル者、加ヘ二人ノ耳ヲ拒キ、餘八人逃走スル者、抗拒セサル者、然レハ新潟縣ニ限テ、抗拒セサルヲ、御指令ハ、御改正ニモ

八年一月九日指令

○伺ノ通、和歌山縣伺賭博遂ケ得サル者ヲ、區戶長ヨリ一應聞糾シ、官廳ヘ伺濟ノ旨申成シ、私ニ解放スル者ノ儀ニ付、六年京都指令第二百、第二項ハ囚ト同罪ナル者以上ヲ申シ候例ノ分、若シ初項ノ罪ノ、後日捕レ百九十二條ノ後項及ヒ御例第二百九十ノ二條ニ依リ、其罪懲役百日以下、本條ノ項ニ、裁判所ヨリ相伺候ヲ當縣ニ、捕縛ヲ拒ク者ハ、固ヨリ賭博ヲ犯シ、又縛シテ、其罪懲役百日以下ノ者ハ、故縱ニ擬問スヘキ者ハ、故縱ニ擬シ、其罪懲役百日以下ノ者ハ、故縱ニ擬シ、其罪懲役百日以下ノ者ハ、故縱ニ擬シ、其罪懲役百日以下ノ

八年一月十七日指令

縱ヲ故縱ニ問擬スル可シ、但シ賭博ヲ企テ、未タ行ハサル者云々、當省七年第八号布達ノ通リ心得可シ、

○京都裁判所伺

例第二百九十二條云々、右ハ其財ヲ受ケ故縱スル、破廉恥ヲ以テ論シ、財ヲ受ケ故縱スル、破廉恥ヲ以テ論セサルハ、破廉恥ヲ以テ可然哉、

八年三月二十日指令

財ヲ受ケ故縱スル者ハ、破廉恥ヲ以テ論スト雖モ、財ヲ受ケ故縱スル者ハ、情ヲ量リ、破廉恥刑ニ區處スヘシ、但懲役百日以下ハ、實決閏刑、或ハ贖罪ニ區處スヘシ、

○鳥取縣伺

竊盜事主ノ追捕ヲ拒キ、傷スル者ハ、捕吏ヲ毆チ、折傷以上ニ至ル者ヲ以テ論シ、可然哉、

六年七月十二日指令

ノ通、

○茨城裁判所伺

御本省日誌、本年第八十三號、千葉裁判所伺、茲ニ賭博ヲ為ス者十人アリ、捕吏僅ニ二人ニシテ、其場ニ臨ミ先ツ甲乙二名ヲ縛セント手ヲ下スヤ、其虚隙ヲ窺ヒ、逃走スル者、拒捕律ニ依テ、所置スヘキハ勿論追捕スルニ、罪犯逃走スル耳

他ヲ論セス、二等減ト心得ヘシ、但書伺ノ通、第二條

罪人拒捕

凡罪ヲ犯シテ逃走シ、露落スレ水罪上、追捕ヲ拒ク者ハ、各二等ヲ加ヘ、罪流三等ニ止ル。本罪死スヘキ者ハ、常ニ依ル。本罪ガ死罪ニ當落ル者ナレバ、欠ル。

罪人拒捕

此條ハ、罪人捕手ニ向ヒ云フヲスルヲ。

等之候、然ルニ非スト、御指令有二加二抗拒セサルハ、加シタルナリ。其上ニハ死罪ノ本ノ罪人拒捕シ、故ニ仕置ニ加ヘ方ナト、

七年九月十七日指令

○山形縣伺

追捕ヲ拒キ、事主ヲ傷ス者ハ、如何處斷シ可然哉、

七年八月廿五日指令

竊盜條第二項、強盜ヲ以テ論スル際、其財ヲ棄テ逃走スル者ハ、本律ニ依ル、

○滋賀縣伺

首項罪人ト稱スルハ、未捕獲セサルノ罪人ヲ謂ヒ、後捕獲シ、官ニ到ル者ヲ謂フ乎、追捕先ニテ捕獲シ、未タ官ニ追ヒ到ラサル內、劫縱スル如キ、亦後項ニ依リ擬定シ可然哉、

七年九月二日指令

伺ノ通、

○新潟縣伺

捕亡吏、邏卒、捕丁等、逮捕擔任ノ者、輕キ犯罪者ノ所在ヲ知テ見逃シ置、捕獲セサル者ハ、差遣ヲ受ルニ非ス、如何處置スヘキ哉、

七年九月二日指令

事情重キ者ハ、本條ニ依リ、輕キ者ハ、違令或ハ違式ノ輕重ニ問フ可シ、

但シ本犯ノ罪ヨリ重キニ問フヲ可ラス、

○若松縣伺

岩代國耶麻郡金曲村平民

七賭博罪ニ限ラス、各罪モ亦同シ、

將タ賭博罪ニ限リ候哉、然哉、

雖モ、賭博ヲ拔引ニ致シタルモ、上ニ二等ヲ加フルトキハ、各本罪トシ、追捕ヲ拒ク者ハ、犯シタル罪ニ、凡ソ捕亡律ヲ逃走シ、拒捕人ノ罪ニ、

減ス。

若シ罪人。兇器ヲ持テ拒捕スルニ。及ヒ捕吏ヲ毆チ。折傷スル者ハ。絞。殺ス者ハ。各一等ヲ減ス。

斬。從タル者ハ。各一等ヲ減ス。

以上ニ至ル者ハ。捕吏ヲ毆チ。折傷シ。追捕スル者ハ。並ニ論スル。勿レ。

捕吏ノ過チナリ。

若シ罪囚。逃走スト雖モ。已ニ拘執セサルニ。捕吏之ヲ殺シ。及ヒ拒キ。就キ。逃走スル者ハ。各鬪殺。

捕手ナキ人ノ打合ヒ。

二ヲ以テ論ス。若シ罪囚。官ニ到ル者ヲ謂フ乎、追捕先ニテ捕獲シ、未タ官ニ追ヒ到ラサル內、劫縱スル如キ、亦後項ニ依リ擬定シ可然哉、

七年九月二日指令

伺ノ通、

○新潟縣伺

捕亡吏、邏卒、捕丁等、逮捕擔任ノ者、輕キ犯罪者ノ所在ヲ知テ見逃シ置、捕獲セサル者ハ、差遣ヲ受ルニ非ス、如何處置スヘキ哉、

七年九月二日指令

事情重キ者ハ、本條ニ依リ、輕キ者ハ、違令或ハ違式ノ輕重ニ問フ可シ、

但シ本犯ノ罪ヨリ重キニ問フヲ可ラス、

○若松縣伺

岩代國耶麻郡金曲村平民

七賭博罪ニ限ラス、各罪モ亦同シ、

將タ賭博罪ニ限リ候哉、然哉、

雖モ、賭博ヲ拔引ニ致シタルモ、上ニ二等ヲ加フルトキハ、各本罪トシ、追捕ヲ拒ク者ハ、犯シタル罪ニ、凡ソ捕亡律ヲ逃走シ、拒捕人ノ罪ニ、

減ス。

若シ罪人。兇器ヲ持テ拒捕スルニ。及ヒ捕吏ヲ毆チ。折傷スル者ハ。絞。殺ス者ハ。各一等ヲ減ス。

斬。從タル者ハ。各一等ヲ減ス。

以上ニ至ル者ハ。捕吏ヲ毆チ。折傷シ。追捕スル者ハ。並ニ論スル。勿レ。

捕吏ノ過チナリ。

若シ罪囚。逃走スト雖モ。已ニ拘執セサルニ。捕吏之ヲ殺シ。及ヒ拒キ。就キ。逃走スル者ハ。各鬪殺。

捕手ナキ人ノ打合ヒ。

二ヲ以テ論ス。若シ罪囚。官ニ到ル者ヲ謂フ乎、追捕先ニテ捕獲シ、未タ官ニ追ヒ到ラサル內、劫縱スル如キ、亦後項ニ依リ擬定シ可然哉、

七年九月二日指令

伺ノ通、

○新潟縣伺

捕亡吏、邏卒、捕丁等、逮捕擔任ノ者、輕キ犯罪者ノ所在ヲ知テ見逃シ置、捕獲セサル者ハ、差遣ヲ受ルニ非ス、如何處置スヘキ哉、

七年九月二日指令

事情重キ者ハ、本條ニ依リ、輕キ者ハ、違令或ハ違式ノ輕重ニ問フ可シ、

但シ本犯ノ罪ヨリ重キニ問フヲ可ラス、

○若松縣伺

岩代國耶麻郡金曲村平民

七賭博罪ニ限ラス、各罪モ亦同シ、

將タ賭博罪ニ限リ候哉、然哉、

雖モ、賭博ヲ拔引ニ致シタルモ、上ニ二等ヲ加フルトキハ、各本罪トシ、追捕ヲ拒ク者ハ、犯シタル罪ニ、凡ソ捕亡律ヲ逃走シ、拒捕人ノ罪ニ、

減ス。

若シ罪人。兇器ヲ持テ拒捕スルニ。及ヒ捕吏ヲ毆チ。折傷スル者ハ。絞。殺ス者ハ。各一等ヲ減ス。

斬。從タル者ハ。各一等ヲ減ス。

以上ニ至ル者ハ。捕吏ヲ毆チ。折傷シ。追捕スル者ハ。並ニ論スル。勿レ。

捕吏ノ過チナリ。

若シ罪囚。逃走スト雖モ。已ニ拘執セサルニ。捕吏之ヲ殺シ。及ヒ拒キ。就キ。逃走スル者ハ。各鬪殺。

捕手ナキ人ノ打合ヒ。

二ヲ以テ論ス。若シ罪囚。官ニ到ル者ヲ謂フ乎、追捕先ニテ捕獲シ、未タ官ニ追ヒ到ラサル內、劫縱スル如キ、亦後項ニ依リ擬定シ可然哉、

七年九月二日指令

伺ノ通、

○新潟縣伺

捕亡吏、邏卒、捕丁等、逮捕擔任ノ者、輕キ犯罪者ノ所在ヲ知テ見逃シ置、捕獲セサル者ハ、差遣ヲ受ルニ非ス、如何處置スヘキ哉、

七年九月二日指令

事情重キ者ハ、本條ニ依リ、輕キ者ハ、違令或ハ違式ノ輕重ニ問フ可シ、

但シ本犯ノ罪ヨリ重キニ問フヲ可ラス、

○若松縣伺

岩代國耶麻郡金曲村平民

七賭博罪ニ限ラス、各罪モ亦同シ、

將タ賭博罪ニ限リ候哉、然哉、

雖モ、賭博ヲ拔引ニ致シタルモ、上ニ二等ヲ加フルトキハ、各本罪トシ、追捕ヲ拒ク者ハ、犯シタル罪ニ、凡ソ捕亡律ヲ逃走シ、拒捕人ノ罪ニ、

減ス。

若シ罪人。兇器ヲ持テ拒捕スルニ。及ヒ捕吏ヲ毆チ。折傷スル者ハ。絞。殺ス者ハ。各一等ヲ減ス。

斬。從タル者ハ。各一等ヲ減ス。

以上ニ至ル者ハ。捕吏ヲ毆チ。折傷シ。追捕スル者ハ。並ニ論スル。勿レ。

捕吏ノ過チナリ。

若シ罪囚。逃走スト雖モ。已ニ拘執セサルニ。捕吏之ヲ殺シ。及ヒ拒キ。就キ。逃走スル者ハ。各鬪殺。

捕手ナキ人ノ打合ヒ。

二ヲ以テ論ス。若シ罪囚。官ニ到ル者ヲ謂フ乎、追捕先ニテ捕獲シ、未タ官ニ追ヒ到ラサル內、劫縱スル如キ、亦後項ニ依リ擬定シ可然哉、

七年九月二日指令

伺ノ通、

○新潟縣伺

捕亡吏、邏卒、捕丁等、逮捕擔任ノ者、輕キ犯罪者ノ所在ヲ知テ見逃シ置、捕獲セサル者ハ、差遣ヲ受ルニ非ス、如何處置スヘキ哉、

七年九月二日指令

事情重キ者ハ、本條ニ依リ、輕キ者ハ、違令或ハ違式ノ輕重ニ問フ可シ、

但シ本犯ノ罪ヨリ重キニ問フヲ可ラス、

○若松縣伺

岩代國耶麻郡金曲村平民

七賭博罪ニ限ラス、各罪モ亦同シ、

將タ賭博罪ニ限リ候哉、然哉、

雖モ、賭博ヲ拔引ニ致シタルモ、上ニ二等ヲ加フルトキハ、各本罪トシ、追捕ヲ拒ク者ハ、犯シタル罪ニ、凡ソ捕亡律ヲ逃走シ、拒捕人ノ罪ニ、

安部留蔵土屋善平擬律ノ儀、本條捕吏ヲ殴チ、折傷以ノ上ハ身ト御至ル者ニ擬シ、懲役終ノ綱領、罪人拒捕相成候ハ、懲役終ノ趣至ル解者、絞ト有之、御指令ノ段相成、此段相指令

七年九月二十三日指令

○懲役終身ノ処、折傷以上ノ例第二條ニ依テ、捕吏絞罪ヲ殴チ、折傷以上ノ指令ニ至リ、

七年十一月十三日指令

○山口縣伺

罪ヲ犯シテ逃走シ、追捕ヲ拒ミ、抵抗ハ、各本刀ヲ以テ加重キ者ヲ殴傷ス、重キ者ハ、重テ殴傷ス、

若シ、本罪等ヲ棒ヲ以テ二等ヲ加ヘ、

従ヒ、即チ折傷以上ヲ以テ論ス、

追捕賀縣伺

罪人ノ前項後項ノ区別了解仕兼、再應相伺候、

○滋賀縣伺

罪人ノ前項後項ノ故縱スル者ハ、犯人ノ容ハ、犯者ハ、容ハ、

実断ニ処スルノ処、正犯ハ、容ハ、

供ノ結後ノ処、非レハ、容ハ、

口供ノ結後ノ処、非レハ、容ハ、

易ニ其罪ヲ論決スル可ラス、

口供審確ナル論ヲ俟チ、始テ、

論決シ可ラス、

逃捕ノ日雖モ、罪人遠難

ク因テ、期シ、

捕獲ノ日期シ、

テ、輕ニ致シ、

從ヒ、前項ニ因後、

贖罪ニ致シ置捕獲ノ、

百日以下ナレハ、贖金ノ、

懲役百日以下ナレハ、贖金ノ、

罪ヲ還付シ、更ニ後項実断ノ、

如キハ、本籍ヲ以テ処分スノ、

ヘシト、本籍ヲ以テ処分スノ、

ヘシト、ノ御趣意ニ有之、

右番人ノ儀ハ、前伺ニ申仍

上置候通、村町ノ便宜ニ仍リ、雇ヒ入候儀ニテ、俸給モ

至ル簿シ、十ニ八九ハ資産

本籍ヲ以テ、贖罪ニ処スレハ、延期内納

資力ナケレハ、

○警視廳、機密ノ事件ハ、汎出ス官吏ニテ、直チニ捕縛ス

十。

七年十二月十四日指令

福岡縣伺

八年一月廿五日指令

○

家際ノ他事ニ主ル者ハ、犯人ノ餘ハ、

忍入リ、盗ミ付シ、捕ラ得ル者ハ、

忍入リ、盗ミ付シ、捕ラ得ル者ハ、

主ニ、兇上ニ拒ミ、追捕ニ至ル者ハ、

主ニ、兇上ニ拒ミ、追捕ニ至ル者ハ、

完スル能ハス、實斷ヲ
者アレハ、律例第三十
照シ論ス次セサルヲ得
ヲ實斷ニ處スレハ、他
犯ヲ捕得シ、百日以下
時ハ、該犯貼斷スルコ
ス右ハ如何相心得候ヲ
然哉、但シ未タ斷決ヒセテ能ナ
ル間自ヲ捕獲シ、及正之ニフ
人捕ノ得ヒシ、若犯モ他サ可ハル
ル及ヒ自首スル後已ヒ正
ハ死ン、ヒ儀無之哉項ニ他
ハ減等ノ十九日指令
七年十月十九日懲役百日
本條前項ノ懲役番人ハ
私罪ヲナレハ、其縣可キ
本籍以テ論ス過リ
ヲ誤平民贖例ヲ誤リ
得失懲役百日捕獲ス
他ス、錯役ノ実斷ニ
役日本犯ヨリ輕ク捕ハ
懲百日ヲ獲ス者ハ
已役ス本犯ヨリ
能ハス満ト雖モ役未タ満サル吏ニ役本ルヿ

○ノ以勢タスサハ

中付裁
八年二月十八日指令
該時捕獲ノ事主ヲ傷ツクルヤ、一
犯ノ賍拾ヒ闘ノ窮迫ニ出ハ、
ヒ護ス以テ窮ヒ非サレ其之小
ル臨ヲ傷ルヲ以モ、纔ニ論セ持刀等
ル時係ルヲ以テ鎌ニ所ス刀役
ヲ拒ヲ傷ルヲ以テ刀ニ持ノ者
ル捕ヲ輕ヲ以テ鎌ニ論セ刀ノ役ナ
ル拒ヲ以テ刀ニ所ス刀等役
ル

八年一月二十五日指令捕縛犯罪、官司ニ發覺シ、捕吏ニ向フ時、逃走シテ拒捕スル者ヲ謂フ、逃走ヤスシテ拒捕セサレモ、亦同シ、其逃走スル者ハ、止タ本罪ヲ拒捕スル科モ、各トハ各犯ヲ謂フ、

臨八年刑事主ヲ打倒復財ノ取

坂伺ニ傷ヲ捕ヲ拒ヲ、

裁判所ニ、一時捕獲セ主ヲ拒捕ル者ヲ謂フ、逃走ヤスシテ拒捕スル者モ如テ拒捕ル者ハ、止タ本罪ヲ科モ、

吉松處

○京都裁判所伺、他管ニ出テ、雇人逃亡シテ五十日以外ハ違令重キ、二年以外ハ逃亡ヲ以テ論スルニ付、右責付内、逃走スルハ、他管ヘ出ルトキハ、雖モ、五十日以外、及二年内外ハ無ヲ者ニ以テ、區處スキ者ニ之裁、

七年一月六日指令責付内逃走ト、常人逃亡シタ論スヲ可ラス、因テ五十日以外、及ヒ二年内外ヲ以テ、區處為ヘキニ非ス、

○東縣伺名

凡強竊盜、其他犯罪未決ノ囚ヲ捕獲シ該衙ニ監護遞送スル途中及ヒ旅亭投宿スルノ際囚人押解ノ隙ニ窺ヒ脱走シ、他日捕就テ逃走スル等畏懼ノ情形無キ者ヲ謂フ、

獄囚脱監及反獄逃走

凡罪ヲ犯シ囚禁セラレテ脱監及ヒ越獄ノ垣塀ヲ潛牢入セ牢屋

此條ハ。入牢ハ。牢ノ。破牢ハ。脱監ハ。番人ノ。門ヲ。抜ケ。牢ヲ。出テ。獄ヲ。逃走云フ。獄ヲ。破リ。牢ヲ。出テ。獄ヲ。逃走シ。ヲ。及ヒ。ノ。ヲ。ヲ。ヲ

ニ之アルヘク候ヘ共、死罪ノ囚流徒ノ囚等、笞杖罪ノモノ、逃脱ヲ報スルヲ以テ減等相成テハ、寛典ニ過キ候様相覺候如何、

七年二月二日指令

律例第二百九十五條、斬絞以下減一等ヘ、實ニ據テ蓄報スルノ恩典ナリ、本罪ノ輕重ヲ分クス、

○大分縣伺

七年二月五日指令

竊盜ヲ犯シ脱監逃走ス、竊盜ノ二等ヲ加ヘ、處決放免ヲ依リ、復竊盜ヲ犯シ、監獄ニ在テ、又竊盜等ヲ犯ス者ハ、賍ヲ併セ再ミ、脱監逃走シ外ニ在テ、又脱監ノ二等ヲ加ヘ、通ト一等ヲ加ヘ、

○濱田縣伺

本條例、凡脱監及越獄云々、各本罪上ニ二等ヲ加ヘ云

ハ。上ノ三通リノ外ノ。天災ナリ。ノ變ニ因リテ逸出シ。テ出ルヲ投歸ノ原牢戾ル者ハ。斬絞以下。各一等ヲ減ス。

獄囚脱監及ビ獄逃走

第二百九十三條　凡脱監及ヒ越獄シテ逃走スル者ハ。各本罪上ニ。二等ヲ加ヘ。罪。流三等ニ止ル。本罪。死罪。流三等ニ止ル。本罪上ニ。二等ヲ加ヘ。

キ詰問シ口供結審ニ至リ、其本罪重キ者ハ其重キニ、疑ノ逃罪ヲ問ハスト雖モ、其原犯微罪ニシテ、逃罪反テ重キヲ得ス、主守ニ於テハ、其逃罪ヲ科セ、其失囚ノ目判然、該囚ノ正

七年一月三十一日指令

條無之、如何處斷可然哉

本文ノ如キハ、罪ノ輕重ヲ問ハス、本罪ニ二等ヲ加ヘ、其主守人ハ例第三百九條ニ依テ

○科斷

愛媛縣伺

元石鐵神山縣伺

ニヨレハ、未決已決ノ御論指令ヲ減スルヲ得サルヲ首報シ、由テ一等相當

監獄ニ囚ノ逃亡ヲ報スル者、罪囚ノ逃亡ヲ見ル者ハ。皆斬。同牢ノ囚人。反獄シテ。逃走スル者ハ。各本罪上ニ。二等ヲ加ヘ。流三等ニ止ル。本罪。死罪。

脱監越獄ニ依リ、科重クナルヘキ者ハ。常律ニ依ル。

若シ罪囚。反獄シテ。逃走スル者ハ。皆斬。同牢ノ囚人。反獄シテ。逃走スル。死罪ニハ科ス。死罪ナレハ。原ノ者ノ。其死罪ニ為ベキ。律通リナリ。

情造意破牢ノ者ハ。坐セス。

知ラサル者其罪囚。水出火事震地震災ヒ災

々有之處、捕繋中逃走スル者モ、本條ニ准シテ論スヘキ哉、

七年二月二十八日指令

○伺ノ通、

新、瀉縣伺

未決ノ囚、脱監反獄ヲ謀リ、既ニ監獄ヲ毀損シ、永ク逃走セサル者如何、

七年四月二日指令

脱監ヲ謀リ、未タ成ラサル者、鎖一日反獄シテ成ラサル者ハ、三日ニ處ス可シ、

○筑摩縣伺

律例ニ凡犯人責付内ニ逃走スル者ハ、本罪ニ一等ヲ加フト有之候處、賭博其外禁戒ノ為メ、其逃走潛出ノ手犯禁ノモノ、縄又ハ鐵鎖ヲ命シ、以テ之ヲ親属隣保或ハ宿村等ヘ責付内私擅ニ之ヲ解キ、之ヲ脱スル

第二百九十四條　凡反獄シテ逃走スル者ハ、皆斬ニ處スル律ヲ改メ、首ハ、斬從ハ、懲役終身、首起人、從發ハ、從者隨

第二百九十五條　凡罪囚、越獄スル、糾合シテ、從ハ、從ハ、據テ、其筋ヘ申出スナリ、實ニ據テ、次第ノ儘ナリ、相談シ、實ニ首報シ、因テ罪囚、即時ニ獲ニ就キ、脱逃ヲ致

モノアリ、如之ハ右ニ準シ、本罪ニ一等ヲ加ヘ可然哉、

指令

博等ノ犯人モ、責付内ニ、自ヲ解脱逃走スルハ、伺ノ通、

○京都裁判所伺

本年第八號御布達處刑濟云々、逃走スル者棒鎖一日、鞫問中逃走シ、遂ニ無罪トナル者、亦同シトアルハ、一時犯罪ノ見込ニテ、禁収ノ者、鞫問中、看守人ノ懈惰ヲ窺ヒ、逃走スル者ノ處斷方ニテ、其懸リ合等ニテ責付中逃走シ、遂ニ無罪トナル者ハ、會テ懲役一十日、贖ヲ聽スト御指令之アリ候ニ付、右御指令ノ通相心得可然哉、

士族ニシテ前條同斷禁収ノ者、及ヒ責付中逃走シ並ニ無罪トナル者、如何處斷

第二百九十六條　凡脱監。越獄シテ。逃走スル者。再逃以上ハ。又二等ヲ累加シ。脱監。越獄ヲ二度スレバ。其度サシ、ルヲ得ル者。出ル中ニ拔ケ出ス及ヒ反獄ノ情ヲ知テ。首報スル者ハ。斬絞以下。各本罪ニ。一等ヲ減ス。越獄ノ事ヤ。反獄シ獄中ニ出レバ。死罪ニ當レル。重キ科人モ。一段ヲ減メ。終身ノ懲役トナル。

可然裁、

七年五月二十四日指令

第一條　鞫問中ト八、禁収責付ヲ論セス、吟味中ノ者ヲ云フ、

第二條　華士族鞫問中逃走シ、遂ニ無罪ト成ル者、違式輕ニ問ヒ、懲役一十日、閉刑ニ處ス、

○岐阜縣伺

例第二百九十七條、犯人責付内、逃走スル者ハ、本罪ニ一等ヲ加フ云々トヽ有之、右ハ本罪贖罪ニ處スヘキ者ナルキ、加等罪モ亦贖金ニ處シ候テ宜敷哉、

七年八月七日指令

○伺ノ通、

筑摩縣伺

犯罪ノ聞有之ヲ與問中付置處、主守ノ隙ヲ窺ヒ、再ヒ執脱監或ハ越獄シテ、

第二百九十七條　凡犯人。責付内預ケ中ナリ。逃走スル者ハ。本罪ニ一等ヲ加フ。若シ囚禁。及ヒ責付内ニ。逃走シテ。自首スル者ハ。止タ本罪ヲ科シテ。逃ゴトニ。二等ヲ加ヘ。段々重ネテ。科ヲ増スナリ。罪。懲役終身ニ止ム。懲役場ヲ逃走シ。又監獄中。入レ置ク牢屋ナリ。ヲ脱越スル者。罪亦同。

縛ノ後、無科ニ歸シ候節ハ、責附拘留中、脱走ノ者ト同シク違式輕キニ問ヒ、及處分可然裁、

七年八月二十五日指令

○伺ノ通、

東京裁判所、責付者ト、處刑濟送致者ト、逃走ヲ覺ラサルハ、各異ノ伺、

七年十月十三日指令

保管人、罪囚ノ逃走ヲ覺ラサル例ハ、罪囚ノ有罪無罪ニ從テ輕重ヲ為スヲ得ス、責付人ノ無罪ニ歸スル者ハ、再鞫ノ時、始テ確定スル者ニシテ、元來犯罪ノ見込アリ、責付スル者ナレハ、殊更大切ニ管守スル可キノ苦ナリ、故ニ不覺ノ罪、歸スル者モ、保管人ト同シク、該犯ハ、本罪ニ一等ヲ加フ。

○北條縣伺

凡ソ犯罪ノ見込有之ヲ詰問中、親族或ハ隣佑ヘ保管申付候内、本人保管人ヘ計リ、保管人承諾ノ上、他管逃モ擅出スル時、其保管人並本人ノ科如何處シ候テ宜候哉、但追詰問ノ上、本人罪ノ有無ニ依リ、或ハ士族平民ノ差別モ可有之哉、

七年八月二十八日指令

○濱松縣伺

刑ニ處ス、違式輕、實斷ス、但士族ハ閉繩ニ主守不覺失囚律ニ二等ヲ減ス處刑濟送籍中途ニ在リ、逃走スルリ、及ヒ授産場ニ在リ、逃走スル者ノ如キハ、元來無罪ノ凡罪ヲ免ス。（欠落シタレド。自躬申出レバ。其本罪ノミ申付テ。科ハ免スナリ。）

人ニ係ル故ニ、不覺ノ罪、又輕責付内逃走シ、外ニ在テ又罪シ責付罪囚ノ逃走スル者ハ、前後二罪ノ重キラサル保管人ト、同シク論スルヲ得ス、

○青森縣、無罪ニ歸スル責付者、處刑濟送致者ト逃罪輕

七年十一月五日指令

重等ノ伺、

無罪ニ歸スル責付者ト、處刑濟送致者ノ差別ニ依リ、逃走罪ハ輕重無之候ヘ共、其裁判所指令ハ、當省本年第十三号布達前ニ付、各別ニ處分ス、島根縣指令ハ布達後ニ付、二罪俱發ヲ以テ論ス、

○東京裁判所伺

士族罪ヲ犯シ、禁錮申渡シ、平本管ヘ遞送ノ途中逃走、該民ナレハ棒鎖一日ニ換ヘ、從者禁錮十日ニ換ヘ、新本刑ヲ科スル上、更ニ加重可致哉、

七年十一月十日指令

逃走スルノ罪、懲役七十日、贖罪スルヲ聽ス、

○愛知縣伺

懲役人數名脱逃ヲ商謀スル、其一人謀ニ反異シ、悔悟自首シ、因テ數名ノ脱逃念ナシト雖モ、例第二百九十ノ致サヽルヲ得ルニ至ル者ハ、但棒鎖ノ罪ヲ宥ルニ止ルカ、將タ夫レカ為ル否ヲ論セス、例第三百十條ヘ例第三百四條ニ照シ減等ス

○福島縣伺

本律ニ凡罪ヲ犯シテ逃走シ、追捕ヲ拒ク者ハ、各本罪上ニ二等ヲ加フ云々アリ右罪ヲ犯シテ逃走スルトハ、事已ニ發露シ、警察警視

七年十一月二十日指令

外出シテ、直ニ家ニ歸ル如キ、事ニ於テ害ナキ者ハ論スル、潛出等ハ、假令逃走ノ久同シ、然レ共、保管人モ又犯ス者ハ、許諾ヲ受ケ、近傍ニ保管人ノ

○大分縣伺

爰ニ盜犯アリ、事主之ヲ捕得シ、小區用務所ニ訴フル、其ノ隙、盜犯ノ逃走ヲ恐レ、親族或ハ知音ノ者ヘ保管ス、然ルニ盜犯管守ノ間隙ニ乘シ逃逸スレハ、例第二百九十七條ニ照シ、本罪ニ一等ヲ加ヘ、保管人ハ例三百十條ニ依リ治罪可然哉、

七年十一月十二日指令

○水澤縣、犯人責付内逃走、或ハ潛出縱歩スル等ノ伺

新潟縣ヘ指令ノ通リ、獄司專決之乎、然ルニ獄則ニ依リ、獄司ノ專決ニ任セラレ候儀ニ可有之、

御指令ニ、反獄シテ、獄則脱監逃亡等ノ處ス、均シ、無之、然ルニ本年新潟縣伺ノ明條ニ係ル、獄司專決ニモ反獄ニ付、別紙之通東京府囚人ノ獄相企候儀ニ付、東京裁判所伺ノ通リ、獄掛ヨリ申出候所、監獄則中脱監逃亡等企ル者ハ、獄則ニ依リ、獄司ノ專決ニ付、内逃走、或

捕縛ニ就カ、又ハ人ノ勾引ノ捕縛ニ依テ、犯人官ニ到ル者、其護衛ノ條ニ透ヲ偵ヒ、逃走ス、キル等ハ、將本條ニ依リ加等ス、警察ハ警視ノ捕縛已ニ發露シ、若クハ向ヲ輕罪ノ知ラ、追捕逃走ノ者ハ、直ニ追捕ス、中該犯其事ヲ發露セル總テ以テ犯ヲ恐レ逃走シ到ラサル可然哉、其犯ヲ未タ官ニ加ヘ稱セル追捕ヲ拒ム罪ヲ犯ス各ト二事ハ各ヒ、

八犯

年一月十七日覺指令捕縛者ニ

時罪官司法省中罪ノ例第二

逃走シテ發覺ス

○大坂府伺

未決監獄ノ囚人ヲ謀リ、既ニ逃走ス、

○第八

第二條

一年三月二日指令

内監獄ノ發覺ス、捕ヲ拒ム者ハ、罪ヲ犯ス者ハ、獄囚脱監及ビ、

右獄反獄毀損ノ企ル者ハ、

之通當府ニ棒鎖三日ニ處ス、

者ハ、棒鎖ニ、反獄ノ心得ル候ハ、

指令ハ、

ヲ毀損シ、新潟縣伺

ヲ謀リ、逃走ス、

輕減スル罪ノ例第二百九十

○ハ、

第二條

監獄ノ囚人ヲ、獄ニ拘禁シ、

司法省ハ、

棒鎖三日ニ處シ、

反獄ノ心得ヲ、

毀損ノ企ル者ハ、

通指令ハ、

形狀否ヲ明白ニ

年七日ニ

七年ニ

新潟縣伺

謀リ、逃走ス、

犯人已ニ縛ニ就キ、若クハ輕罪ノ者、逃亡途中ニ在リ、逃走スル者ハ、獄囚脱監及ビ、反獄逃走ニ依ル、各ト二事ハ各ヒ、

謂フ、犯人已ニ縛ニ就キ、若クハ輕罪ノ者、逃亡途中ニ在リ、逃走スル者ハ、獄囚脱監及ビ、反獄逃走ニ依ル、各ト二事ハ各ヒ、逃走ヲ謂フ、逃走拒捕ハ、

○水澤縣伺

本條罪囚水火震災ノ因テ逸出シ、投歸スル者變ニ斬絞以下各一等ヲ減ス、本文ノ如キハ、入獄ス、上ノ囚人、減等ノ義ニ有之、其輕罪ノ見込ヲ以テ、親属付責ニ、隣保若クハ用宿等ニ、管人ノ宅舎、水火聊去ル、逃ノ難ニ罹リ、紛擾ノ際、走ノ心無之、始終該所ニ盡ス、消防其他百事ニ、力無ス、

八年四月二十八日指令

伺ノ通、

之候哉、

五條第三百四條第三百六條等定例ノ外、仍ホ他人ノ死ヲ阻救シ、生命ヲ保全セシメ、或ハ病囚ヲ看護シ、快復ヲ為サシメ、或ハ勝ル能ハ、他囚ヲ勸勉テ、衆ニ陶冶スル者、或ハ恩赦ニ遇フ薫工役ヲ免ル者ハ、恩典ニ與ヘラレ、減セサル者、偶マ誤テ、輕減ス、

○ハ、

第二條

一年三月二日覺指令ハ、

内監獄ノ發覺ス、捕ヲ拒ム者ハ、罪ヲ犯ス者ハ、獄囚脱監及ビ、反獄逃走ニ依ル、各ト二事ハ各ヒ、逃走ヲ謂フ、逃走拒捕ハ、

○大坂府伺

右松太郎儀、賭博ノ依科去年十月二日午閏十月二日付置候所、同年十二月廿日出働先ヨリ脱走致シ、翌五月中申日、更ニ出重ル罪ニ付、依科徒三年ニ処シ、猶又去ル十二月一日徒五年ニ処シ、其後再ヒ賭博ノ罪ニ犯シ、百五十日ノ徒刑ニ処シ、旊ニ原犯ノ日ヲ以テ、徒刑ノ年限ニ準シ、舊律ニ指令ノ通、徒刑ニ処シ、其後三年ノ間、賭博ノ罪ニ犯シ、新律

役ノ日數ハ除去スヘシ

○愛知縣伺

懲役人逃走スル後、時間ヲ經テ、再ヒ役場ニ忍入リ、逃走セリ、之ヲ衣類等盜取ス時ハ、初メ覺ラサル時ハ、其逃走スル者ノ兩人之ヲ監守ス、再ヒ甲乙ノ兩人ハ丙丁ノ兩人ヲ縛ス、然ルニ其逃走スル時ハ、丙丁ノ兩人ハ之ヲ忍入ル時ハ、其二項共ニ同シク主守不覺失囚律ニ照シ、甲乙ハ主守不覺失囚律ニ依リ、捕限内ニ捕得スレハ、本罪ニ二等ヲ減シ、贖ヲ聽ス、丙丁

七年三月七日指令

贖量減シテ、懲役十日ニ擬シ、贖ヲ聽シ可然哉

前條ノ逃ゲ出タル者ト。罪同ジキナリ。

若シ主守。及ヒ押解人。罪囚ノ逃走スルヲ覺ラサル者ハ。一名ニ。笞四十。一名毎ニ。一等ヲ加ヘ。罪。杖一百ニ止ル。故縱スル者ハ。各囚ト同罪。流三等ニ止ル。財ヲ受ル者ハ。贓ニ計ヘ。枉法ヲ以テ。重キニ從テ論ス。

改正 明治七年二月七日第十六号御布告

役場ニ忍入ルヲ覺ラサル者モ、衣類等ヲ盜取リ、逃走スル者ハ、其罪覺リ直ニ捕得スレハ、其罪ノ問可キナシ、

○枋木裁判所伺

無籍ノ者處刑後、授産ノ懲役所ニ差置ク所、逃走致者相伺候處、捧鎖一日ノ罰用ユヘキ旨御指令有之然處目今婦人ニシテ右犯科ノ者有之、婦人ハ姦盜不孝云々ヲ除ク外、收贖ニ處スル者ニ候ヘハ、男子トモ同シク、捧鎖ノ罰用ヒ候モ如何、去迚別ニ懲戒スヘキ道モ無之、奉伺候也、

但右犯科ノ者、男女ニ拘ラス、再逃スルモ、捧鎖ノ數ヲ加ヘ候等ノ儀無之哉、

七年三月十日指令

伺面、婦女ノ如キハ、閨室ニ入

主守（仕置場ニテ囚人ヲ預ル者）及ヒ押解人。罪囚ノ逃走ヲ覺ラサル者ハ。一名ニ。笞四十。一名毎ニ。一等ヲ加ヘ。罪。杖一百ニ止ル。ノ律ヲ改メテ。未決ノ罪囚ト同シク。

主守不覺失囚律ニ依ル。

綱領。徒流人逃ノ中。第三條ニ。罪囚逃走ノ人數ヲ計リテ。罪名ヲ加ルノ律ヲ改メテ。主守不覺失囚律ノ。若未ダ斷決セザルノ間。自捕獲シ。及ヒ他人捕得シ。若クハ囚已ニ死

レ懲治ス、但シ初犯ハ二晝夜ヲ罰期トシ、食料、及ヒ改心スルモノ等ハ、監獄則罰則ニ具載ノ通タルヘシ、尤獄司ノ專決ニ任スヘキモノト可相心得事、

○滋賀縣伺

今茲ニ懲役終身ノ者アリ、他人逃走可致ト、両度迫申勸候ヲ承知不致ト雖モ逃亡ノ情ヲ知テ不届出、傍觀致居候モノアリ、過日懲役ニ儀ニテ終身ノ因罪ヲ犯スノ義ニテ付伺候處、監獄則罰則處斷可致ノ御指令有之、因テ獄則ニ依レハ、棒鎖半日ヨリ以下ノ輕罰ハ無之、右ハ同役ノ者、逃走セシヲ知ル者、右罰則ニ候ハ、因リ、棒鎖半日ヲ科シ存候ヘ共、少シ過量ヲ覺ト如何ヲ、因テ止タ呵責ニテ如何

第二百九十八條 凡懲役一年以上ノ囚人。限内。逃走スル者ハ。杖七十。改テ棒鎖。首巻ニ詳ナリ。二日。再ト逃走スル者ハ。絞。改テ懲役終身。

第二百九十九條 凡懲役百日以下ノ囚人。限内。逃走スル者ハ。棒鎖一日。仍ホ原犯ノ日限ニ照シテ。新ニ拘役シ。再ト逃走スル者ハ。棒鎖二日。更ニ懲役一年ニ入ル。若シ外ニ在テ。又百日以下ノ罪ヲ犯セハ。原犯後犯ヲ通算シテ。新ニ拘役ス。其一年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ。止タ後犯ノ年限ニ照シテ。

原徒流人逃律

懲役人逃條例

シ。及ヒ自首スレハ、各一等ヲ減スト。云ヘルニ依ル。

ト決兼候ニ付、此段相伺候也、

七年三月二十三日指令

○伺

愛知縣、復籍人ヘ添書旅費ヲ持セ置キ、逃走ヲ覺ラサル伺、

七年五月五日指令

復籍人ニ添書旅費ヲ持セシメ逃走スルヲ覺ラサル者、違式重ニ問ヒ、自ラ遺失スル者ハ、縣ノ文書ヲ遺失スルヲ以テ論ス可シ、

○愛媛縣伺

懲役場逃亡シ、或ハ之ヲ企タツルノ婦女モ、亦棒鎖ニ處ス可キ哉、

七年六月二日指令

婦女棒鎖ノ刑ハ、監獄則第八條第五則ノ閤室ニ換フ可シ、

○長野縣伺

懲役場逃走後ノ犯罪、終身ニ該ル者等ノ伺

七年八月十日指令
懲役場逃走後犯ノ罪、懲役終身ニ該ル者ト雖モ、逃走ノ年限ヲ科シ、後犯ノ棒鎖ヲ改定ス、

○廣島縣伺
懲役人ノ危難ヲ救ヒ、或ハ肩輕重傷モヲノ蒙候者ヲ、他ニ送シ、毫モナク、百方盡力勉励仕候ノ意有之縣徒候ハ、明治六年大分際本人ハ、各御指令ヲ

○本例七年第三百八十九月二十日指令
京都裁判所伺
罪ニ一等ヲ減ス、
流罪ニ人ノ同盡力致民暴擧者ハ、同逃一獲ヲ捕ノ者、同三年以上ノ懲役ハ、一等減ス、
令ニ准シ、減等相成ト候ハ、首告ス、
御座有ル、
御座有ル、
御座有ル

レノ者トハ雖モ、未タ役場ヲ離レサレト、其再ヒ捧鎖二日ニ、以上ノ如キモ、亦捧鎖二日ニ止メ可然哉、

七年十月十八日指令

○伺ノ通、

青森縣伺

刑濟ノ者、甲縣ヨリ乙縣ヘ送籍中途ニ在リ、逃亡シテ、甲縣ノ縛ニ就キ、捧鎖一日ニ處シテ、乙縣ノ縛ニ就ク者、刑畢テ、再送籍中、又逃亡シ、右ハ本年七月二日、御省御改達ノ違式輕ニ問云々ニ依リ、先キハ捧鎖一日ヲ違式ノ輕ト見做シ、更ニ一等ヲ加ヘ、重ニ依リ處斷致シ可然哉、

七年十月十九日指令

再ヒ逃走スト雖モ、懲役十日ニ科シ、加等ノ限ニ在ラス、

○島根縣伺

ニ照シテ。新ニ拘役スト雖モ。若シ逃走シ。外ニ在テ。重テ五年以上。十年以下ノ罪ヲ犯ス者ハ。並ニ拘役四年ヲ加フ。（懲役五年ヲ仮令バ。）其一年以上。三年以下ノ罪ヲ犯ス者ハ。後犯ノ年限ヲ折半シテ。加役ス。

本罪ハ減等ヲ聽サル

七年十月十三日指令

一條ノ如キハ、已ニ經本文ノ者ニ付、犯罪共逃ル

○逃ル白川縣伺

第三百五條

本罪ハ二條ニ依リ、一等ヲ減ス、

功ハ例ニ比擬シ、捕獲ノ功ニ依テ、前半ヲ免ス、

條例三百四條ニ依テ、第三等ヲ免ス、

處決ヲ得タル者ニ、例第三等ヲ減ス、

第一條ニ依テ、第三等ヲ免ス、

七年十月十三日指令

可有之哉、

犯罪ハ減等ヲ聽サル者。欠落先ニテ。又犯セバ。都合六年ノ罪ヲ。四年ノ仕置ヲ申付テ。免スナリ。

百日以下ノ罪ヲ犯ス者モ。亦原犯ニ合テ拘役ス。

其五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ。止タ後犯ノ年限ニ照シテ。科斷（前掲ノ罪ハ。取ル。）ス。

第三百一條

凡懲役五年以上ノ囚人。限内逃走ス者モ。亦例ニ照シテ。棒鎖二日。仍ホ原犯ノ年限

九年二月二十八日第二十二号ヲ以テ第三百二條例ヲ削除

處刑濟是縣ヨリ彼縣ニ郵送スル者ヲ、途中不注意ニテ脫逃セシメタル護送人ノ處置如何、

同斷郵送人ノ處置如何ヒ、脫逃セシ者ノ處置如何、

同斷郵送人ヲ戶長ノ計ラヒニテ、十六年未滿ノ若輩者ニ托シ、途中脫逃ヤシ時ハ、右戶長ノ處置如何、

同斷郵送セラルヽ、十六年未滿ノ若輩者所持ノ添翰ヲ、强奪逃去セシ者ノ處置如何、

第七十一條　處刑濟村送人、途中ニ於テ逃走スル者ハ、違式輕中ニ於テ處シ、護送一十日、贖罪ヲ聽ク、輕ニ依リ、懲役一十一日指令ス、

第三條　未成丁ノ男子ヲ、中途ニ於テ、村送人ヲ護送セシメ、

第三百二條　凡懲役終身ノ囚人。逃走スル者ハ。絞。

（假令ハ。懲役五年ノ者。欠落先ニテ。又懲役一年ノ罪ヲ犯セバ。此一年ノ。二ツ割ニ加ヘ。都合五年半ヲ。前ノ五年ニ付ルナリ。懲役ヲ申付ルナリ。）

其百日以下ノ罪ヲ犯ス者ハ。役限ヲ全加シテ。折半スルヿヲ用ヒス。（假令ハ。五年ノ者。欠落先ニテ又百日ノ罪ヲ犯セバ。都合五年百日間ノ。仕置ヲサセルナリ。）

第三百三條　凡懲役人。逃

戶長ニ在リ、違式重ニ科シ、贖罪セシム、護送者ハ、其罪ヲ科セス、

第四條　村送人、中途ニ於テ、添翰ヲ奪ヒ脫逃スルニ、强逼ノ情アル者ハ、不應為重ニ科ス、

○愛知縣伺

懲治監入ノ者數名、破監ヲ圖リ、已ニ脫監ノ期ニ至リ、懲役人ノ申報ニ因テ、脫監ヲ致サヽルヿヲ得ル者ハ、懲役人ノ逃走ヲ報スルト同シク、減等致スヿ可ク哉、

七年十二月十五日指令

有罪懲治監入ノ者ハ、伺ノ例第三十二條、收贖金ヲ給スルニ足ルヲ期トスルカ如キ者ハ、減等スルノ限ニ在ラス、

○大分縣伺

例第二百九十六條、云々若

走シテ。自首スル者ハ。逃罪ヲ免シ。仍ホ原犯ノ年限ニ照シテ。新ニ拘役ス。（自身ニ。申シ出レバ。逃テ出タル罪ヲ許シ。原ノ科分ハ。改メテ拘役スルナリ。）若シ外ニ在テ。又罪ヲ犯ス者ハ。自首法ニ照シテ。首免ヲ與フト雖モ。其逃罪。及ヒ從新拘役ハ。仍ホ本法ヲ盡ス。（欠落先ニテ。自首スレバ。又罪ヲ犯シニ引合セ。欠落先キニテノ罪丈ケハ。免セドモ。欠

加ヘ、原犯ニ通算シテ、百三十日ヲ科ス、

○山形縣伺

在官ノ平民犯罪有之、禁獄中免官セラレタル者、潛出行歩スル時ハ、平民ノ懲役場ヲ逃ル例ニ照シ、捧鎖ノ上、從新拘役ノ本法ヲ盡シ可然哉、

○八年四月二十二日指令第三百七條ニ依ラ處分ス可シ、

○濱松縣伺

懲役終身ノ囚、若杉甚太郎儀、外同日十年ノ囚五名、本月二十一原川町岡山金太郎、役場逃走ヲ圖リ、潛伏スル偵知捕得シ逃走ヲ致サヽル者、律例第三百四條ニ依リ、本人ノ如キハ、終身懲役ヨリ一等ヲ減シ、過ル明治六

監獄ヲ脱越シ、又懲役場ヲ逃走スル者ハ、懲役人初逃走ヲ以論シ可然哉、

七年十二月二十七日指令

初メ監獄ヲ加ヘ既ニ脱越スル處決ノ後、又二等ヲ懲役場ヲ以テ逃走スレハ、懲役人初逃

○大坂裁判所伺

懲役外ニ在テ又六十日ノ囚、限内逃走九ヶ條ニ依リ、律例第二百九十ノ罪ハ、原犯後犯ヲ通算シ、懲役百日ニ係ル百三十日ニ可處哉、

其罪百日ニ係ル者ハ、再犯ニ加等ス、

後八年三月四日指令ニ、一等ヲ再犯ノ六十日ニ止ル、

落シタル罪ト。其原ノ罪丈ケハ。改メテ拘役サスルコトニテ。首免ヲ與ヘルト。自身ニ申シ出タル故。欠落先ニテノ科計リ。免スト云フコトナリ。

第三百四條　凡懲役人ノ逃走ヲ報シ。因テ逃走ヲ致サヽルヲ得ル者ハ。本罪ニ。一等ヲ減ス。

逃ゲ出シタル者。知スナルニヨリ。其筋ヘ知ラセタル者ノ。罪ヲ輕クスル

第三百五條　凡懲役人。逃走ヲ圖リ。未タ役場ヲ離スシテ。捕ニ就ク者ハ。棒鎖二日。從新拘役ノ限ニ在ラス。

逃ゲ出シタル者。巧ミシ者。捕押ヘ仕置場ニ欠落スル時。最早ナリ。是追濟ナリ。仮令ハ。捨ル數ヲ一年ノ仕置ナレバ。又一年ヲ申付ル掟ナレド。未ダ其場ヲ遁レザル者ニ出サヽ棒鎖二日ヲ加ルノミ。

第三百六條　凡懲役人。水震災ノ變ニ因テ逸出

明治九年二月廿八日第廿一號御布告ヲ以テ增補

懲役人逃亡條例

凡懲役終身ノ囚人逃走スル者ハ。捧鎖三日。再ヒ逃走スル者。絞。

凡懲役終身ノ囚人。逃走シテ又罪ヲ犯ス者ハ。懲役終身ノ囚人又犯罪ヲ犯ス者ハ。懲役終身ノ囚人ノ例ニ照シテ科斷ス。

年八月十五日〔處斷〕ヨリ、通算シテ十年懲役申付可然哉、

八年四月二十八日指令

○何ノ懲役一縣同長崎縣通逃走シ、外ニ在テ重ネテ三年以上ノ罪ヲ犯シ、懲役三年又懲役五年以上ノ人、限内逃走スル者ハ。捧鎖三日。再ヒ逃走スル者。絞。

凡懲役終身ノ囚人逃走スル者ハ。捧鎖三年。懲役三年以下ノ罪ニ在テハ。懲役一年。懲役一年以下ノ罪ニ在テハ。懲役半年。懲役半年以上ノ者。懲役一年半ヲ加ヘ。懲役一年半ヲ犯セハ。懲役一年半ノ日數ヲ加ヘ。懲役一年半ノ日數ヲ減ス。

八年十月十四日指令

懲役人逃走シテ其ノ間半年ニ配ノ算ヲ以テ前犯第一年ノ日數中、四十五日ヲ第一等ノ限ニ配シ、其剩日ハ、二等三等ニ推ス、但從來專ラ役ス、餘ハ類ヲ以テ之ヲ算シ、可及ヒ前犯服役中、練熟ノ作業ハ、殊藝ヲ如キハ、三級ノ法ニ從テ、取扱ヲ可シ、東京上等裁判所同第一條懲役十年ノ再ヒ逃走スル者、例第貳百九十八條ニ依リ懲役終身ノ科ニ照シ、捧鎖ヲ不加候テ可然哉、

第二條懲役限内逃走シ、外ニ在テ、又罪ヲ犯ス者、後犯ノ罪、懲役終身ニ至ル者ハ、科ト雖モ、尚捧鎖ヲ加ヘ可然哉、其本罪懲役終身ヲ加ヘ、況ンヤ十年ノ囚、捧鎖ヲ一條懲役百日以下ノ囚ニ、再逃スレハ、捧鎖ヲ

第八條

第三百七條　凡禁錮限内。

外人ニ接見通信スルナリ。人ニ出テ。及ヒ通ヲシ。若クハ。疾病療養等ニ託セシテ。潛カニ出行歩スル者ハ。原限ノ年日ニ照假令禁錮百日ノ者。五十日ニ。潛ニ他行スレバ。其ミタル五十日ハ。取棄テ。新ニ又百日禁錮ヲ申付ル

消救防禦スル火事。及水出。地震等ノ。天災ヲ防ヲスル者ハ。本罪ニ。一等ヲ減ス。

懲役人逃亡ノ例

懲役人逃亡シ、一縣ノ內ニ出。水。火事。地震。其變ニ出テ。牢屋ノ破壞セシ等ノ變事ニ出ル。ヨリ。二十四時間ニ。投歸ルナリ。來スル者ハ。逃ル罪ヲ問ハス。欠落ノ罪若シ時ヲ過テ。二十四時ヲ過ル投歸セサル者ハ。例ニ照シテ。捧鎖二日。仍ホ原役ノ剩ル日數ハ。役ス。原百日ノ懲役ニ。三十日ハ。濟タ。懲役サレバ。後ノ七十日ヲ。其變ニ遇ヒ。內ニ在テ懲役場ノ內居ナリ。逸出セス。能

加ヘサルヲ可トス、例第二十八條ニ、明文ナキハ、文ヲ省ルナリ。伺面ノ如キ、棒鎖二日ヲ加テ、懲役終身ニ處ス可シ、

第二條　伺ノ通、

○長野縣伺

例第三百五條ニ凡懲役八逃走シタル者、棒鎖ヲ離レ、未タ役場ニ就ク者ハ、懲役二日ニ云フトアリ、右ハ懲役ニ處シ、其一年以上ノ者ハ、見做シ、百日以下ノ者ハ、棒鎖一日ヲ科シ可レ然哉、

八年十一月八日指令

百九十日以下ノ者ハ、第二百九十九條ニ照シテ、輕減ス可シ、

若シ潛出シテ。他ニ投宿シテ。新ニ之ヲ科ス。

宿ヲ取シ。及ヒ縱飲ニ氣酒等ヲ飲ムスル等ニ係レハ。懲役七十日。贖罪スルヲ聽シ。仍ホ新ニ原限ヲ科ス。懲役七十日ノ罪ヲ。贖ヒタル上ニテ。又原ノ百日ノ禁錮ヲ。新ニ申付ルナリ。

○大坂上等裁判所伺

第一條　例第三百三條ノ末段。若シ外ニ在テ、又罪ヲ犯スモノハ、自首法ニ照シテ、首免ヲ與ヘト雖モ、其逃罪及ヒ從新拘役ハ、仍ホ本法ヲ盡スト有之、右ハ捕獲セラルヽノ後、外ニ在テ犯スノ罪ヲ自首スル者ノ事ニシテ、若シ捕獲ニ係ラヌ逃罪ト、外ニ在テ犯スノ罪ト併セテ首出スレハ、俱ニ首免ヲ與ヘ可然哉、

第二條　前條ハ懲役十年以下ノ囚ニ該ル例ニ非ルヲ終身ノ囚ニ科シ可然哉、

八年十一月八日指令

○京都裁判所伺

犯罪共逃條、若シ罪人自ラ

第一條　懲役十年以下ノ役囚ト、同シク處分スヘシ、

主守不覺失囚

首告シ、及恩赦ニ遇テ、原免セラルレハ、連累人モ亦原免セラルレハ、又本條ニ因リ、主守ハ、已ニ死シ、及ヒ自首スレハ、亦原免ス

六年七月二十三日指令

主守、覺察ニ失シ、罪因ノ逃走ヲ、各一等減スト雖モ、罪因ノ覺察ヲ失シ、罪因ノ逃走ヲ、主守ハ、連累トシテ、罪ニ依リ、連累ニ、連累ニ、僅カニ、犯罪ニ似タル、其逃罪ニ因テ、罪ヲ得ルモノハ、自首スルニ、然ルトキハ、一等ヲ減スルハ、連累ト自ラ別謂逃走ノ因ヲ可キカ、果シテ、然ルトキハ、連累ト、因ノ逃走ヲ、因ヲ免ス、共逃條ト相矛楯スルニ似タリ、如何、

○本律ニ、可ラス、犯罪共逃ト自ラ別謂逃走ノ因ヲ可キカ、果シテ、然ルトキハ、連累ト、因ノ逃走ヲ、因ヲ免ス、共逃條ト相矛楯スルニ似タリ、如何、

右新川縣伺紙罪案ノ通ニテ

凡主守。罪覺ラサル者ハ。笞四十。若シ逃走スルヲ。罪因ノ逃走スル者ハ。各同罪。流三

罪因。反獄シテ逃走番人ヲ。

等打出列ル抔リメ。

減ス。故縱逃ワザトキハ。一見リス

若シ未タ斷決セサルノ間。

等ニ止ル。各因ト同罪。罪。流三

此條ハ。預リ役浦斷人ヲ取逃ガス

云フ。

罪因ノ逃走ヲ内。自ラ捕獲

日置屋久四郎ナルモノ見込有之、巡邏取締ノヲ以テ賊ヲ為致捕縛候處、夜中ノ儀ニ付、手鎖締ヲ以テ、村役人右善次ヘ差預ケ中、勤番人右郎儀、前書久四郎頼ミヲ受ケ為逃去候罪科、故縱スヲ以テ同罪ニ可處ノ所、久四郎逃亡行衛相知レ不申ニ付、罪ヲ擬スル所ナシ、如何

六年八月三十日指令

何處置可仕哉、

該犯捕吏ニ非スト雖モ、臨時押解中ノ看守ニ充リ、因ノ財物ヲ送ラムト云フ聽許シテ故縱スルハ、宜シク囚ト同罪ニ坐スヘキ處、囚脫逸ニ未タ及ハス、然レトモ期スヘカラス、其獲其罪ノ輕重知ルヘカラス、就縛ノ日モ亦該犯ノ刑ヲ停ムヘカラス、徒ニ比擬シ、因テ本律ニ依リ、相矛楯スルヲ、可シ。

首。自分ニテ。捕押ル。及ヒ自ラ捕獲

死シ。囚人。欠落先ニテ死ス。

他人捕得シ。若クハ囚人。欠落シ。

法ヲ以テ。重キニ從テ論ス。

賊。外ヨリ獄ニ入リ。罪ヲ劫入牢人ヲ。奪手ヲ取ル。ニ。

賊。主守。罪人ヲ。捕押ル。及ヒ自分ニテ。

賊ヲ以テ。重キニ從テ論ス。

賊。外ヨリ獄ニ入リ。罪ヲ劫入牢人ヲ。奪手ヲ取ル。ニ。

賊ヲ取リ。一等ヲ減ス。財ヲ受ル者ハ。贓ニ計ヘ。枉ル

懲役四十日

逸囚就縛審糺ノ日、罪重ケレハ仍ホ貼断スヘシ、善次郎逃ヲ捕

○白川縣、主守、數囚ノ脱逃ヲ覺ラス、捕限内、其一囚ノ伺、得セシノ伺、

七年一月七日指令

罪捕限ノ輕重、囚ノ多寡ヲ論ナク、捕得スル者ハ、例第三等ニ依リ、本罪ニ二百九條ヲ減ス、

○白川縣再伺

先般相伺候御指令ニ、捕得スル者云々、捕限内能ク捕得スル者ハ、同時共逃候ノ故、名能ハサル賊ノ勢ヒ強キユ

七年二月十二日指令

數囚ヲ捕得スル儀ニ付、右之能ハ、同時共逃候ノ故、名能ハサル賊ノ勢ヒ強キユ

全囚ヲ捕得スレハ、減等スヘシ、其故縱ハサル者ハ、捕限ヲ給セス。

○指令ス、静岡縣、主守囚ヲ失シテ、限内ニ捕得セシノ伺、先度、囚ノ多寡ニ論ナク、捕得スレハ、減等スヘシ、其故縱ハサル者ハ、捕限ヲ給セス。

第三百八條 主守不覺失囚條例

凡主守看守ニ因リ失ヲ油断外ニ見過シ、因人仕置前ニ自殺ヲ未決ノ囚ヲ盡ク仕遂ル日ニ至ラシム。

懲役三十日

能ハサル賊ノ勢ヒ強キ者ハ、防ギ難ク、牢内ハ罪人ヲ奪ハ、論スルヲ勿レ。

○京都裁判所伺

主守覺察ニ失シ、囚ノ逃走ヲ覺ラサル者ハ、捕限内ニ依テ罪ヲ得ル者ハ、連累ト謂フ可キカ云々、最前相伺候處、主守覺察ニ失シ、罪ヲ得ル囚ノ逃走ニ因テ罪ヲ得ル人ハ、連累人ト云フ可カラス、然ニ滋賀縣伺ハ、公事囑託ノ指令ト御指令之アリ、然ニ滋賀縣伺ニ、其人ニ因リ連累シテ罪ニ致スト、不覺被盜、主守不覺失囚等ノ類ニ過誤失錯ニ出テ、人ノ罪ヲ犯スニ因リ、圖ラス連坐スル者云々トアルニハ、伺ノ通ト御指揮之アル由傳承仕候、

七年三月十七日指令

滋賀縣伺ハ、公事囑託ノ指令

第三百十條 凡保管人主守ハ預ル役人ノ預ヲ引受タ逃走ヲ覺ラサル者ハ、捕限三十日ヲ給尋欠落人ヲ捕押セシ追捕ス。捕得ス限内三十日ノ内ハ、二等ヲ減ス。其故縱ハサル者ハ、捕限ヲ給セス。

麁忽油断等ナク、懲ハ、捕押ノ日限ヲ下サレ。欠落ヲ見逃シタル分ハ、捕押ノ日限ヲ下サレ。科人ノ預ヲ違ヒ、牢屋ヲ預ル役人ハ、科ノミ申付ルナリ。

ヨリ、彼レノ意外ニ出テ、連累人ト云ヲ以テ擴充シテ罪人藏匿資給スル者等モ、連累人ヲ以テ論スルヤノ指令ニテ、不覺被盜、主守不覺失囚ノ者ヲ指シテ連累人ト謂フ指令ニアラス、仍ホ熟視了解スヘシ、

○兵庫裁判所伺

司法官吏、不覺失囚ニ付、捕限ヲ給シ、捕得セサル節、其處刑本省ヘ伺中、自身若クハ他人捕得セシキハ減等ノ御處置、更ニ可伺出哉、將タ本罪御指令到着ノ上、常ニ照シ、減等處斷ノ後、御届ニ及ヒ可然哉、

七年五月五日指令

捕限内、自他ヲ論セス捕得シレハ、等外吏ハ律通リ減等ス、處斷ノ後届出ス可シ、判任ハ、處斷ス可キ本省ヘ伺ノ上處斷ス可キ

ル者ナリ。

囚ノ逃走ヲ覺ラサル者ハ。主守不覺失囚律ニ。二等ヲ減ス。

○筑摩縣伺

律例中凡主守、看守ニ失シ因テ未決ノ囚、自盡ニ至ラシムル者ハ、懲役三十日ト有之候所、若シ已決ノ囚ヲシテ、自盡ニ至ラシムル者ハ、其罪不問ニ屬シ可然哉、

七年五月二十四日指令

未決ノ罪囚ト同ク、本律ニ依ル、

○兵庫裁判所、逃走人ノ罪科輕重ニ論ナク、保管人不覺ノ罪ヲ問フ伺

七年六月十五日指令

保管人ハ、逃走者ノ罪ノ輕重論セス、止ク其逃走ヲ覺ラ

シ、

○埼玉裁判所伺

保管人、囚ノ逃走ヲ覺ラサル者、舊慣ノ通、六月間捕限ヲ與ヘ、限内自ラ及ヒ他人能ク捕得シ、若クハ囚出首シ、及ヒ死亡スレハ、並ニ主守不覺失囚罪ニ四等ヲ通減シ可然哉、

保管人ノ故縱スル者ハ、罪人ノ罪ニ二等ヲ減シ、未タ律例第三百十條ニ、照準シテ斷決セサルノ間、自ラ捕得シ、及ヒ他人捕獲シ、若クハ囚己ニ死シ、及ヒ自首スレハ、又各二等ヲ減シ可然哉、

七年八月十日指令

第一條 伺ノ通、但シ捕限

第二條 保管人、罪囚ヲ故縱スル者、及未斷決ノ間、自他捕得シ、若クハ囚已ニ死シ、及ヒ自首スル者、本律ニ依リ、各本罪ニ一等ヲ減シ候哉、

○長崎裁判所、縄取人、罪囚ノ逃走者ト罪ノ輕重自ラ異ナル可シ、

七年十月五日指令

縄取ノ權アル者ハ、各本律ニ依テ科ス、若シ其權ナキ者ハ、本律例第三百十條ニ、照準シテ科ス可シ、

○水澤縣伺

例第三百十條、凡保管人囚ノ逃走云々、即チ三百九條ニ照シ捕限三十日ヲ給シ、限内捕得スレハ二等ヲ減シ、無罪若シ未タ斷決セサルノ間、他人捕得シ若シ囚已ニ死シ、及ヒ自首スル者ハ、亦本律ニ依リ、各本

○白川縣伺

リ、主守ト同ク處分ス、

爰ニ不覺失囚者アリ、未タ官司ニ申報セサル内之ヲ捕得ス、警ヘハ罪人ヲ縛シ、該衙ヘ護送ノ途中、偶マ看守ニ失シ、罪人ノ逃走スルヲ覺ヲ申報スラス、因テ其由官司ニ達タサル内ニ、三日間ヲ経罪人所在ヲ探知シ、自捕得、或ハ他人ノ捕縛スルヲ云フ、右ハ官未タ捕限ヲ給セサル内、速ニ捕得ルトキハ、雖モ既ニ失囚ノ責アルヲ以テ、律例ノ通、減等シテ其罪ヲ科スル勿論ノ儀ヲ奉存候所、其罪人逃走ス否、直ニ跡ヲ追ヒ、即時捕得ス、ハ所謂犯ス極カ如キハ、懲役十年ニ及ハサル輕ク、罪ニ付、例第六條ニ

七年十月八日指令

本律後項ノ一等減ハ、例第三百九條ヲ以テ、二等減ニ改正シ、及他人捕得シ、囚已ニ死シ、本文ノ無科ヲ自首スルモ、亦同シテ盡シ、

○水澤縣伺

主守、囚ノ逃走ヲ覺ラサル者ハ、捕限三十日ヲ給スル者ハ、精々探索ニ流出シ、其主守ノ法律ニ候所、右限内ニ捕限内ニ、追捕セ者ハ、獄犯ノ罪科ニ候哉、若シ捕限内ニ探索ノ流ス儀ニ候ハ、可ハ、捕限三十日ヲ過キ、又惟ク失囚ノミニ候ハ、捕限譯ト做シ、果シテ、

八年一月九日指令

然ト存候得共、定規如何哉、

照シ、止タ可責シテ、可然哉

伺面ノ如キ、罪人ノ逃走ヲ覺知セサルモ、未タ官司ニ申報ノ遠ヒ、即時捕得スレハ直ニ追捕得シ、及ヒ直ニ自他ヲ論ヒス、並ニ失囚ノ限ラス、

○水澤縣伺

聊年冬筑摩縣伺

濟宿村遞送ヲ以テ復籍スル者護衛ノ中途、逃走スル者ハ云々、第三百九條ノ如ク、捕限三十日ヲ給シ、限内捕得自首スル者ハ、減等ノ法ニ依リ、處分シ、可然哉ノ伺ニ伺ノ通ト御指令有之、同岐阜縣伺ノ内、前同樣ノ伺ニハ捕限ヲ給セス云々ト御指令有之、一事両樣ニ渉リ、疑惑ヲ生シ候、右ハ何レニ適從可致哉、

處斷見合セ、且失囚者追捕ニ出ル法ナリ、其追捕中ノ費用ハ、官費タル可シ、

○白川縣伺

主守、罪囚ノ逃走ヲ覺ラス、捕限内自ラ捕得シ及ヒ他人捕得スンハ、六年東京裁判所伺御指令、自ラ捕得スレハ、例第三百九條ノ通二等ヲ減シ、他人捕得シ、若クハ囚已ニ死シ、及ヒ自首スレハ、各一等ヲ減スト云フ、引處分致シ来候處、本年京都裁判所伺ニ、限内自他ヲ論セス捕得シ、若クハ囚已ニ死シ、及ヒ自首スルハ、各二等ヲ減スヘシト御指令有之、且同年新潟縣伺ヘモ、本律後項ノ一等減ハ、例第三百九條ヲ以テ、二等減ニ改正ス、但捕得スルノミニ限ラス、囚已ニ死シ、及

八年一月二十五日指令ノ通心得可シ、
岐阜縣ヘ指令ハ改
但シ筑摩縣ヘノ指令ハ改
正ニ相成候事、

自首スルモ、亦同シト御
ヒ令ト、致齟齬候得共、右両
縣ノ御指令新例ナル以テ、
ヒ従前他人捕得シ、若クハ
因既ニ死シ、及ヒ自首スル
ト云フ。主守ノ罪減一
二等ニ處置濟ノ分ハ、悉ク減
等ニ改正シ、既ニ納完ス
ル贖罪金ノ内、七拾五錢宛、
各人ヘ還付可レ致裁、
八年二月十八日指令
例ハ、二等ヲ減ズルト雖モ、
獲非ス、他人捕得等モ同ク二等ニ
ル者ノミニ就テハ、自得スレ
ハ、他人ノ謂フ捕
明瞭ニ、従テ、然レ
減ニ、京都裁判所ヘ
ノ指令ニ、例難シ、
二等減ト定ハ、依テ
ハ改正ニ及ハ、是迄ノ
二等減ニ従フ可シ、雖モ、
以往ハ、

○水澤縣伺
本律第二項云々、主守不覺
失囚律第二項、若シ未タ断
決セサルノ間、自ラ捕獲シ、
及他人捕得シ、若クハ囚
已ニ死シ、及ヒ自首スル者
ハ各一等ヲ減ス、例第三百
九條、凡主守云々、二等ヲ減
スト、夫ノ主守ノ囚ヲ失
ルハ、實ニ無心ノ罪シニシテ
罪人ヲ藏匿隱避セシ
ハ、有心故造ノ甚キ者ナリ
然リ而シテ、其故造ノ罪ハ、
自ラ捕獲スルヲ以テ之ヲ
免シ、無心ノ失ハ減二等ニ
止ル、一ハ主守、一ハ凡
人ヲ

但シ主守故縱ノ罪、未タ断決ヲ經サルノ間、自他捕得シ、若クハ囚已ニ死シ、及ヒ自首スレハ、本律ニ依リ、一等ヲ減ス、

凡他人ノ事發露顯事ニ差ハシ。追喚スル官司ノ役所ニ犯シ藏匿罪人ニ。此條ハ。科人ヲ云フ。親戚ニ藏匿シテ者ニ。罪ヲ家ニ藏匿シテ。身内ニ他人ヲモ捕告ヲ行ハス。知リ。科人トマノ家ト。知ツテ捕ヘモ捕ヘモ。及ス。其ノ家已ニ知ツテ。

以テノ故ニ、減免ノ差別自ラ昂低アル歟、抑有心ヨリ之ヲ論スレハ、權衡不平ニ有之間敷哉、

其藏匿指引シテ隱避セシムル者、各罪人ノ罪ニ二等減スルハ、本犯捕獲ノ後ハ、其罪始テ定ム、警ヘハ一人竊盜ノ跡アリ、放火ノ疑アリ、二罪俱ニ審紀セサレハ、何レ刑ニ處スル者カ、得テ人ヲ減ス。其輾轉シテ相送ル者、情ヲ預ヒ知リタル者ハ、皆坐ス。何モ科ニ入ル。

逃走スル道路ヲ指引シ、衣粮ヲ資給シ、食衣料類ヲ送テ他所ニ隱避セシ者ハ、各藏匿指引資給ノ罪ニ一等ヲ減ス。其先ヲ送リ先ヲ隱匿スル者ハ、科ニ入ル。

逃走スル道路ヲ指引シ、衣粮ヲ資給シ、食衣料類ヲ送テ他所ニ隱避セシ者ハ、各藏匿指引資給ノ罪ニ一等ヲ減ス。其輾轉シテ相送ル者ハ、其先ヲ隱匿スル者ハ、科ニ入ル。

情ヲ預リ知ル者ハ、皆坐ス。何モ科ニ入ル。

情ヲ

ハスト雖モ、藏匿者ヲ鞫問ノ上、衆証明白、確然疑ナキヲ得テ、減等ノ罪ヲ科断スヘシ、

第三條 自ラ捕獲スレハ免罪、他人捕獲スレハ、本律後項ニ依リ不應ノ本罪ヨリ一等ヲ減ス、其罪人自死シ、若クハ自首減免セラルレハ、犯罪共逃條ノ後項ニ依レ

○第四條 新治裁判所例第三百十一條云々、然ルヲ処分ス、伺ノ通

七罪人逃捕ノ後処分ス可キ者ハ、如何ト指令ス、可レ致哉、

○二等減ス、京都裁判所伺ニ付、第三百十一條、云々、然ルニ今爰ニ一次監守盗一百圓ヲ犯シ、二次闘殴ニ依テ、人ヲ發疾ニ致シ二罪アルハ、其監守盗ノ情ハ明サルヲ吾ルヲ止タ其殴傷ノ罪ヲ科スニ依テ、為ニ之ヲ藏匿スル者アレハ、其罪ヲ擬スル、素リ本犯ノ盗情ハ知ラサルヲ者ニ依リ、其知ル所ノ闘殴罪、懲役三年ヨリ二等ヲ減シ、同二年ニ可科断哉、

七同年十月十三日指令ノ通、

○大分縣伺 當縣懲役人ノ儀、内役ノ方法未相立ニ付、多クハ外役為致来候、然ニ雇家モ一人乃至二人相雇候者ノミニ付、看守ハ雇主ニ委シ、守卒

等ヲ減スル律ヲ改ノ。減ス。

二等ニ從フ。二等輕クス。ル方ニ倣ク。

若シ罪人。未タ官司ノ追喚ニ係ラス。名捕リ。呼出シニナラヌ者ナリ。若クハ。已ニ追喚スル者ト雖モ。未タ知ラス其筋ノ尋ネ者ナルシテ。知ラヌナリ。

藏匿隱避セシハル者ハ。

俱ニ情ヲ量テ。隱匿ヒ。又ハ逃隱レヲ調ルナリ。仕方不應為ニ問ヒ。輕重ヲ分ツ。不應為ニ當

第三百十一條 凡官司。人ヲ差ハシ。追喚スル罪人タルヿヲ知テ。爲メニ。藏匿指引シテ。隱避セシム

ル者ハ。各罪人ノ罪ニ。一

其罪人ニ。迫劫セラレ。強情ニ。坐シ。一等ヲ減ス。

力。制スルヿ能ハス。ル。斷マリ。ル。ヿ能ハス。已ヿヲ得スシテ。藏匿

スル者ハ。三等ヲ減ス。

藏匿罪人ノ條例

ハ逐次巡視為ル致候、然ニ雇主モ看守ノ為メ、自己ノ業務スル場合ニモ至リカタキヨリ、動モスレハ其隙ヲ伺ヒ、逃走スル者アリ、然ルニ不覺失囚律ニ問擬スル、其實過當ノ様被存候得共、為取締右ノ照シ、科斷致シ來候處雇主モ雇入レ、偶々僅ノ賃錢ニテ看護ニ失スル者ハ、數十倍ノ贖金ヲ科セラレンコトヲ恐レ、自然ニ雇主ハ家ニ相減ス、依テ内役ニ服シ候位ノ足サルノ者ハ、盡有之甚苦心罷在候、其食費ニモ、繩草鞋ヲ作リ、就テハ七年長崎裁判所御指令ニ、繩取人、捕吏ノ權衡ニ依リ、雇主ハ例第三百十條ノ贖金ニ處斷可然ト、杖一百ヨリ輕キモノハ、重ニ從ヒ、杖一百ニ處斷可然哉、

○大分縣伺

入ノ屬托ヲ受シ保管人、若シ用勢所ノ追喚ニカヽル察シ、盜犯ヲ指引隱避セシムルハ、例第三百十一條ニ照シ、處分可然哉、

七年十二月十七日指令

官管スル者ハ、伺ノ通、

○

捕吏、罪人ヲ追捕スル際、財産ヲ受ケ故縱スルモノ、追捕モ、罪人條ニ明文有之トハ、雖モ、本犯自首ノ節、減等ノ例ニ不相見、右ハ本條ニ例ノ權衡ニ比擬シ、本犯ニ二等ヲ減シ、但追捕罪人條中、罪人ノ所在ヲ知テ捕ヘサル者、杖一百、財産ヲ受ケ故縱スルモノハ、囚トヲ同罪ト有之、若シ囚ノ罪、杖一百ヨリ輕キモノハ、重ニ從ヒ、杖一百ニ處斷可然哉、

八年四月十三日指令

本犯自首減等スルモ、故縱スル捕吏ハ、減等ノ限ニアラス、但書ハ伺ノ通、

差別ヲ捌ク。輕キ重キヲ。

權衡ニ依リ、雇主ハ例第三百十條ノ贖金ニ處斷可然哉、

八年二月十五日指令

伺面ノ如キ主卒ハ、例第三百九條ニ依テ處分スト雖モ、雇主ハ罪ノ科ス可キナシ、

断獄律

此律ハ。罪ノ捌キ方ノコトヲ云フ。

故禁無罪人

此條ハ。罪ナキ人ヲ。態々捕ルナリ。

凡官吏。私讎ヲ懐挾シ。一ノ不已ノ忿怒ヲ為。故サラニ無罪人ヲ禁獄スル者ハ。徒一年。因テ死ニ致ス者ハ。絞。司獄官。獄重モド役。獄卒。囚禁リ獄知テ舉首セサル。心付キ申者。同罪。流三等ニ止ル。知ラサル

○七年八月廿五日第十九号
布達

者ハ坐セス。
若シ官吏。私ニ讎ヲ懷挾シ。故サラニ無罪人ヲ拷訊スル者ハ。徒一年。折傷以上ハ。凡鬪傷ニ。二等ヲ加フ。因テ死ニ致ス者ハ。斬。同僚官。其掛合ヒ後獄卒。情其細子ヲ知テ。共ニ拷訊スル者ハ。同罪。流三等ニ止ル。知ラサル者ハ。坐セス。

陵虐罪囚

從來罪囚推問ニ付、拷訊各裁判所ニ候處、萬一苛刻ニ渉リ寃抵ニ陷リ候ハヽ不相濟儀ニ付、以後拷訊ハヽ不相用様可致候、尤推問上差支ヲ生シ候様ノ儀有之候節ハ、當分相用不苦候ヲ得共、右相用候ハヽ、其顛末ヲ詳記シ、月末ニ至リ取纏、當省ヘ可届出候條、此旨相達候事、

此條ハ。牢番人。囚人ヲ手強ク扱フヲ云フ。

凡獄卒。非理ニ檀マヽ在獄スル者ハ。牢内ニ罪囚ヲ。陵虐毆傷スル者ハ。凡鬪傷ニ依テ論ス。罪囚ノ衣食ヲ剋減スル者ハ。贓ニ計ヘ。監守自盜ヲ以テ論ス。因テ死ニ致ス者ハ。絞。司獄官吏。知テ舉セサル者ハ。同罪。罪。流三等ニ止ル。

解脫ス可キノ器具ヲ、役囚ニ與フルコヲ約諾スト雖モ、未タ其期ニ至ラサルニ發露スルヲ以テ、不應為輕ニ問ヒ、贖ヲ聽ス、

○山形縣伺

懲役人ニ衣裳、或ハ金穀等ヲ貸遣ス者、例第三百十三條ニ、凡獄卒、金錢、其他應禁ノ物ヲ傳遞シテ、囚ニ與フル者ハ、違令重キニ問フト云フニ准シテ論シ、凡人ヲ以、一等ヲ減シ、違令輕キニ問ヒ可然哉、

八年二月二十四日指令

衣裳金錢ノ類ハ、伺ノ通、然シ伺面ノ如キ、穀トハ何ニ用ヒ候哉、明瞭ナラス、更ニ伺出ツヒ可シ、

○廣嶋縣伺

茲ニ甲懲役人ノ逃走ヲ企ルアリ、乙同囚ニ、竊ニ情ヲ

七年十二月十五日指令

○愛知縣伺

爰ニ懲治監入ノ者アリ、月ヲ經ルニ從ヒ、獨立活計ノ途ヲ相立、望ノ地ニ編籍取計ヒ、已ニ放監ノ期ニ至レ、懲役人ノ依賴ニ應シ、脫獄ヲ投與スルノ器具ヲ、放監セサルヲ誘ヒ、未タ敗露及ヒ如何ノ者ヲ、

解脫ス可キノ器具ヲ、役囚ニ與フルコヲ約諾スト雖モ、未タ其期ニ至ラサルニ發露スルヲ以テ、不應為輕ニ問ヒ、贖ヲ聽ス、

○山形縣伺

懲役人ニ衣裳、或ハ金穀等ヲ貸遣ス者、例第三百十三條ニ、凡獄卒、金錢、其他應禁ノ物ヲ傳遞シテ、囚ニ與フル者ハ、違令重キニ問フト云フニ准シテ論シ、凡人ヲ以、一等ヲ減シ、違令輕キニ問ヒ可然哉、

八年二月二十四日指令

衣裳金錢ノ類ハ、伺ノ通、然シ伺面ノ如キ、穀トハ何ニ用ヒ候哉、明瞭ナラス、更ニ伺出ツヒ可シ、

○廣嶋縣伺

茲ニ甲懲役人ノ逃走ヲ企ルアリ、乙同囚ニ、竊ニ情ヲ以テ。囚ニ與フル者ハ杖一百。因テ囚逃走シ。及ヒ自傷シ。自分ニ疵付ル體或ハ人ヲ傷スルヲ致ス者ハ。徒一年。若シ囚自殺シ。及ヒ人ヲ殺ス者ハ。徒二年。若シ財ヲ受ル囚ヲ取テ。右ノ賂ヲ以テ。重キニ從テ論ス。

道具ヲ出ス者ハ。贓ニ計ヘ。枉法

第三百十二條　凡常人。入牢

與囚金刄條例

凡獄卒。番牢等此條ノ。授ハ。ル囚人ニ刄物ヲ云フ。及ヒ他物ノ自己ノ人ヲ毆傷ナ。意ニ已ガ闘ニ物ヲ。聚遺ハ掠ムレ。捌メ數ヘ。監守盜品ノ程陵ノ付ヲ食ヲ。捌キ。衣服ハ。並ニ囚人ヲ者ハ。

具ノ自殺モ。出來ル程ノ道具ス

殺ス。及ヒ解脫ス。

與囚金刄

ルニ。同罪ナリ。其重キ者ハ。絞罪ニ申シ出ル。死ニ申ス。

ルノ虐律ニ。因テ。其重キ者ハ。絞罪ニ申シ出ル。死ニ申ス。

知ルノ虐律ニ。因テ。其重キ者ハ。絞罪ニ申シ出ル。死ニ申ス。

漏シ、同逃ヲ謀ル乙佯テ陽脱ニ同意ス、於是甲又乙ハ乙ニ指テ監ノ職ノ具ヲ求ム、假令ハ乙ノ殊藝アルモノ、金物刀與ヘテ所持セスルカ、不ノ乙以テ與シ罪ヲ犯セモ、確跡寧ロ與ヘテ報ヲ得テ訟ヲ羅ル、

九月十三日指令惡ミ、之ハ、其ヲ與フ乙ヲ逃ヲ報ル可ロ

問年甲告ノ逃走ヲ報ル以テ以ヲ管守者ニ應レ一時ノ罪ニ、

何ヲ二月十日金刀ヲ與ヘ申罪ヲ求ル

如ヲ十三日金刀ヲ與ヘ報ヲ以テ

ヲ逃走ヲ助ケ欲シテ逃走ヲ情ヲ具ヲ與ヘ

○兵庫裁判所伺

本條中、違フ者ハ、故失入人罪律ニ依ルト有之、右違フ者ハ故失入人罪律ニ依ルトハ、上文ノ拷訊スヘカラストト云フ禁令ノ辭ヲ受ケタルナルヘシ、總テ人罪一十ヲ一年ヲ數ルトハ、本罪懲役入ルヽ日ヲ二十日ニ處シ、一年ニ二年ニ處スル等ニテ、日數ヲ乘除明了ニ計算ニ因リ、計算ニ年數ニ因ルトハ、其拷訊ヲ加ヘタル者ヲ、入人罪ノ律ニ因ルト如何相心得可然哉、

七年五月五日指令

老幼廢疾者云々、違フ者ハ故失入人罪律ニ依ルトハ、拷訊云々、違フ者ハ故失入ナキモ、律ニ違ヒ拷訊スル者ハ、情ヲ量リ違制輕重ニ問フ、

老幼不拷訊

凡年七十以上。十五以下。若廢疾者（無論篤疾者ハ。）並ニ拷訊ス可カラス。皆衆證ニ據テ。餘人ノ證據ヲ。押テル憑ナリ。罪ヲ定ム。違フ直ニ拷問セヌ。掟ニ叛ク。拷問ス。

老幼等。拷問ノ嚴キニ堪カケ。犯ネテ。餘義ナク犯サヌ罪ヲ。又ハ堯忽ヲ云ヒ。

老幼不拷訊

此條ハ。年七十以上。十五以下ノ者等ハ。罪アレモ。直ニ拷問セヌヲ云フ。

ニ。囚人ノ為ニ言語ヲ外人ニ通傳ニ。囚人ノ餘人ノ罪ヲ泄詞ス。其罪ヲ增減スル者ハ。故ニ出入ヲ。輕ク增サヽシメ。本人ノ罪ヲ減ス。外人ノ犯ス罪ハ。故ニ出入ヲ。增サヽシトス。本人ノ罪ヲ減ス。獄官ハ。一等ヲ減ス。若シ財ヲ受ケタル者ハ。一段ヲ減ス。獄官ハ。他人ニ賂ヲ取リ。或ヒハ又ハ外ス。

司獄官。

罪律ヲ以テ論ス。外人ノ犯ス者ハ。

○山口縣伺

父母夫兄姉等犯罪アリ、佐ノ為メ、其子妻妹ヲ勸問証スル者、本律ニテ拷問ニカケテ。ヨギナクサレタリト云ハスト云フトキハ、罪ヲ犯シタルヲ以テ論ス。其相容隱罪ノ捌ノ掟ハ。已ニ出ッ。名例スルヿヲ得ルノ人。及ヒ年八十以上。十歳以下。若クハ篤疾者ハ。皆證タラシムルヿヲ得ス。相容隱ヨリ篤疾者マデ。四ノ人。皆罪ノ證人ニハ。立ズ。違ヲ者ハ。笞四十。

獄囚誣指無罪人

此條ハ。入牢ノ人ニ。無實ヲ誣証スル者ハ。本律ニ可依裁、入誣証ノ事暗合ノ類、云ヒ掛ルヲ云フ。誣指ハ。無實ノヿヲ告ケテ。人ヲ名指テ。スルナリ。

七年十一月十三日指令ノ人ヲ得ス、云フ。本條内、其相容隱ヲ得ルノ人、云ヒ掛ルヲ云フ。誣指ハ。無實ノヿヲ告ケテ。人ヲ名指テ。スルナリ。

獄囚誣指無罪人

凡罪囚。獄屋ニ在テ。無罪人ヲ誣指スル者ハ。誣告罪ナリ。其本犯罪重キ者ハ。重キニ從テ論ス。無實ノ人ニ云ヒ掛クル罪ヨリ輕キ方ノ重ミニテ捌ク。本罪ヲ囚人ヲ吟味スル官吏。獄囚ヲ鞫問スルニ。非法ニ拷訊シ。故サラニ教令ヲ行ヒ。囚人ヲ元ノ

九年四月十四日第四十八号ヲ以テ出入人罪律廃止

○山口縣伺

決配スベキヲ、誤テ収贖スル者、失出入罪ニ依テ故傷ニ収決贖

金五圓ト為スノ類、既懲役一百日ヲ、過失傷等ヲ減スルニ、假令ハ

放スレハ、五等ヲ減シ、懲役五十日、又一等ヲ減シ四十日ト為スカ、失出入罪本律五等ヲ減シ又本罪ヲ除キ剰罪ニ坐スル者ハ、輕重サルヲ誤テ相當ノ罪ヲ科セリ、而テ猶ホ斯ノ如シ、収贖ナリ、重ヲ誤ルニ非ス、實ト贖ト除ク違フノミ、故ニ本罪ノ一等減可キナシ、而テ唯ニ一等ニ比スレハ、少シク當ヲ得サル

六年九月十二日指令

懲役一百日ヲ過失収贖トナシ、已ニ決放スレハ、通シテ六十日ニ坐スヘシ、

○滋賀縣伺

官吏懲役禁錮等ノ罪人、放免セレハ、期ニ至テ忘却故免セサレハ、失入ヲ以テ論シ、其

凡官吏。故サラニ心有テ。ワザト。ナリ。入ヲ罪ニ出入シ。全ク出タ入スル所ノ全罪ヲ以テ論ス。出入セシ者ニ。罪ヲ。ワザ。ナル。若シ故サラニ輕ヲ增シテ。重ト作シ。重ヲ減シテ。輕ト作ス者ハ。其增減スル所ノ罪ヲ以テ坐ス。增減シタル分ノ。罪

ス云フ。ヲ

ル。罪アル者ヲ。態ト。無罪ニ。ス。ル。全ク入ル。罪ナキ者ヲ。態ト。落ス。者ハ。出

ル。罪ヲ。仕掛テ。無實ノ云フ心ナキ。ヲ云ハ。無實ノ云フ心ナキ。ヲ云ハ。無罪人ヲ誣指スル者ナリ。故ニ入ニ人罪律ヲ以テ論ス。

若シ囚ヲ鞫囚人ノ。申立ツ。ノ味ヲシテ。證佐證據ニ。ノ人。實情ヲ言ハス。故サラニ誣證ヲ行フ。無實ノ證據ノ立テヲ在シル。樣者ハ。罪ノ人ノ罪ニ。二等ヲ減ス。

出ニ入ニ人罪

此條ハ。怨ト。科ニ。科ク。科ル者ニ。科ナ。科キ。科ア。科シ。科ル。科ニ。爲ナ。者ヲ。

入ル、ノ日數、假令ハ五日ノ如キハ、三等ヲハ五十
坐スルニ二十日ヲ以テ減シ、
ル所ノ五日ハ除去シ可然零
前同斷四十日未滿ナレ
減シ盡シ候ニ付、止タ呵責ハ、
ニテ可然裁、
七年一月九日指令
第一條減伺ノ通、盡シ無科
○第二條滋賀縣伺
縱令ハ懲役七十日贖罪ス
可キヲ失入シテ百日實斷ス
及ヒ百日贖罪ス可キ
懲役七十日贖罪ス
懲役七十日贖罪ス
失入シテ百日實斷ス
百日實斷ス可キ
實斷ス可キヲ、失出及ヒ
日ヲ七十日實斷ス可キヲ誤テ百七十日

若ク死罪ヲ受ル者ハ、坐スル
死ニ至ル者ハ、坐スル
死罪ヲ以テ、輕重ノ罪ニ
落ス、其死罪ヲ減シ、此段ノ總罪ニ
落セバ、其坐ヲ減ジ、落ル
已ニ死罪ニ落ル
已ニ死罪ニ落ル
已ニ死罪ニ落ル
已ニ死罪ニ落ル
若シ失罪ヲ斷ル者無キ
若シ失罪ヲ斷ル者無キ
若シ失罪ヲ斷ル者無キ
若シ失罪ヲ斷ル者無キ
減ス輕ル罪ヲ捌ル
減ス輕ル罪ヲ捌ル
減ス輕ル罪ヲ捌ル
減ス輕ル罪ヲ捌ル
其坐ヲ申付ル
其坐ヲ申付ル
其坐ヲ申付

○七總

ヲ欠テ、放免スル者同斷、右ノ檢使同斷、懲役囚ノ期限既ニ滿テ放免スルニ當リ、誤テ日ヲ繰延ヘ十日、或ハ四五日違ヘ期スル者ハ、其延期スル所ノ日數ヲ以テ、本罪トナシ幾等ヲ減シテ科シ、贖ヲ聽スベキ哉、

○同上誤テ十日、或ハ四五日ヲ欠テ、放免スル者同斷、右相伺候也、

七年五月五日指令ニ依ル、

第三百十四條　凡故サラ出入人罪條例

出入人罪ヲ經ル（其罪申濟ム）ト雖モ。失スル罪人ハ。已ニ斷了ニ出入シ。及ヒ入ルヽ檢舉シテ。改正スルヲ得ヘキ誤リ調ベル直ヲ。心附出ル分者ハ。改正シ。其出入ヲ（後ヨリ直ス）スルヲ用ヒス。

依ル乎、將タ追捕罪人條ニ仍リ可然哉、但シ若シ本ニ依リ候ハヽ、其故縱スル所ノ罪囚逃走、捕獲ヲ得ル如サルトキハ、官吏ノ罪ハ何處斷シテ可然哉、

七年四月廿五日指令

出人罪ヲ以テ論ス、故ニ推鞫ヲ盡サス、放免スル官吏ハ、罪人本罪ノ有無輕重ヲ知ラサルノ理無シ、必シモ逃ヲ捕獲ノ後ニ非スト雖モ、斷ノ罪囚官吏ヲ推鞫シテ、故出ス獄ヲ定擬スヘシ、

○濱田縣伺

笞杖ヲ行フノ人、誤テ十杖又ハ四五杖ヲ增加スル所ノ數ヲ以テ、其增加ヘ、幾等ヲ減シ、本罪トナシテ科シ、贖ヲ聽スヘキ哉、

放テ還ク獲。免シタレ捕押ヘル。若ハ。囚。自死（病死スルナレ）ハ。官吏ノ罪。又各（故出入ノ失出入モ）一等ヲ減スルヲ聽ス。此律ハ、四段ニ分ツ。首メ入ハ罪少シ。罪ファシモナキ者ヲ。少モ故ヲ云ナ分ニ。故出スルト輕キ罪ヲ故入シ。次ハ輕重罪ヲ後ニ。失出ス科ノ罪ヲ說キ。前ノ第二條ノ四段ニ內ニ。又上ノ箇ノ三段ノ變事ノ減ズトハ。執レヲ義ヲ明ラス。說キツヽ。

ヲ減スト有之候間縱令懲役百日ノ罪ヲ誤テ懲役二年ニ失入シ、已ニ役一年半ト百七十日ニシテ、檢舉スルトキハ、零百七十日ハ除去シ、役過スル半ノ三等ヲ減シ、懲役一年百日、本罪ヲ除キ減シ盡シテ剩罪無之ニ付、失錯スル官員科ナシト云ヲ以テ論シ可然哉、零數多ク除去致候也、

○七年六月十八日同答

本議ノ通、伺

大分縣伺

豐後國玖珠郡森村元卒相良要平井上宗助儀昨明治六年五月、黨民ヘ隨行致シ候ニ付、同年一月當縣下黨民暴動ノ節少判事有馬純雄出張ニテ判決相成リ候純雄的例ニ依リ、雜犯律違令重

第三百十五條　凡官司屍傷ヲ檢視シテ死骸ノ檢視ヲ假令ハ。實ナラサル切疵ヲ。打疵ト云ヒ。三ケ所ノ類。者ハ。懲役四十日。因テ罪ニ增減アル檢屍ノ付テ。罪ノ届カ捌ヒニ輕重增減ノ違ヒ出來ルナリ。

出入人罪ヲ以テ論ス。若財ヲ受ケ。罪人。又ハ親屬ヲ死ヲ取リ。賂ヒ。故サラニ實ヲ以テセサル者ハ。故出入人罪ヲ以テ論ス。其賂ヒヲ取タル罪ト。枉法ノ罪トニテ捌ク。於贓重者ハ。贓ニ計ヘ。枉法ヲ以テ重ニ從テ論ス。

○山形縣伺

本年滋賀縣伺御指令中、百日ノ實斷スヘキヲ、失出シテ七十日收贖スレハ、七十日ヨリ六等ヲ減スト有之ニ依之推考スルニ、百日ノ實斷スヘキヲ、誤テ六十日或ハ五十日ノ收贖スレハ、減シテ盡シ無科、又ハ誤テ九十日ハ八十日ノ收贖スルキハ、九十日ハ八十日ヨリ六等ヲ減スヘキヲ收贖スルキハ、義半、然ルキハ實斷スヘキヲ誤ルノ多キ者ハ、無科

キ懲役四十日、破廉恥甚シキ懲役百日ノ罪ヲ以テ論シ、除卒籍ニ斷決シ置候所、今般右有馬純雄出張ノ節、除族致シ候ハ、誤刑達ノ趣ヲ以テ、御貼斷ノ御達ヲ有之候間、右両人モ同ク貼斷致シ度此段相伺候也、

七年七月二日指令

伺ノ通處斷スヘシ、

○伺

滋賀縣伺

今茲ニ鬬毆殺ノ屍ヲ檢視シ、屍ノ親屬等、入命ヲ私和ニ欺カシ、病死ト詐言スルニ、其儘埋葬セシメ、終ニ懲役七年ニ該ル罪人又ハ失出スル者アリ、例第三百十五條ニ照シ、失出人罪ヲ以テ論スルノ處、間ナク怪キ風説ヲ聞キ、事未タ發覺セサルノ内、自ラ搜索ヲ遂ケ、其實ヲ得、覺舉ス、然ニ改正公事失錯條ニ依レハ、入ヲ罪

ニ失出スル者ハ、已ニ決放ス
ト雖モ、貼斷スル律ヲ改
メ、能ク檢舉スト雖モ、貼斷
スルコヲ用ヒス、仍失
罪律ニ依テ之ヲ科ス
ル罪ニ仍リ、首免ヲ與ヘ難ク
候ヘ共、尋常失出人罪ハ改正
異ニシテ、覺舉スレハ
罪ヲ付、自首ト同ク免
スヘキ可然哉、決兼候ニ付相
伺候也、但人罪ノ故失入
シ、已ニ決放スト雖モ貼斷
罪ニ增減ナキ者、及ヒ
收贖等ノ罪ニテ、已ニ決
故ニ贖罪ニ收贖
スト雖モ、贖罪ニ增減ナキ金ヲ
還付スルハ、罪ニ收贖
得ルハ、者等、事發露セサルハ可
內、檢舉及ヒ自首
免罪哉、

七年七月十七日指令
口供以出ヘシ、自ラ但書檢事
未タ發露セサル內、

七年八月廿五日指令
懲役百日ノ實斷ヲ、七十日
收贖ニ失出スル者ハ、百日ヨリ
六等ヲ減ス可シ滋賀縣指令
○令ハ取消候事、
飾磨縣同
縱令ハ懲役百日ノ者、
然ルヲ懲役場勞主ノ者、
滿期ノ調査疎漏ニテ百日
以外驅役セハ、其主任ノ者
役ス如何可仕哉、日
處分ス
數月數ノ多少ニ因テ處分
ノ差等有之儀哉、
七年十月十日指令
原役滿期外、服役スル日數ヲ
計ヘ、故失入人罪律ヲ以テ論ヲ
歸シ、等ヲ誤ルノ寡キ者ハ、罪ヲ得ル重キニ至ル、
○京都裁判所同ヲ、賍一圓以
今爰ニ盜賊

舉スルモ仍ホ故失入人罪律
○ニ依テ科ス、
茨城裁判所同
從前一代限卒ニテ當時民
籍編入、扶助米給與スル者
破廉恥ノ罪ヲ犯セハ、扶
米公官沒シテ、寶斷スル
言ヲ待タス、然ルニ其貫趾
姓名等、斷獄則ニ照ラシ、推
訊シノ方法ヲ盡スト雖モ、時
ミトシテ該犯其民籍ナルノ
供シ、扶助米ノ有ヲ無
供セハ、當該官ニ於テモ一
圖ニ其平民ナルヲ認メ、終
ニ官沒セスシテ決放シ、已
決後、初メテ其扶助米給
ノ者ナルヲ知ラハ、決放
ノ日ヨリ、計算ノ上官沒シ、
有ル可キノ罪ハ、官
當該官ハ科ス可キノ罪ハ、
勿論無之儀ト心得可
七年十一月五日指令
已ニ決放スレハ、扶助米ハ官

上ヲ犯スニ依リ、竊盜條ニ
ニ依リ、罪ヲ擬シ、懲役六十日
財條ニ依リ、擬定致シ、誤テ詐欺取
ニ科ス可キ所、賍一
圓以上、同六十日ニ處斷セ
リ、其竊盜ト準盜ト罪
相等キニ依リ、出入ナシト
雖モ、一ハ犯數ニ計ヘ、一ハ
否セサルヲ以テ、改貼致スル
可キ哉、將タ例三百十四條、
出スニ失スル者、貼斷ノ用
スシテ可然哉、若然ラハ其
ヒスト云ニ照準シ、改貼セ
失スル官吏ハ、仍ホ出入人
罪律ニ依リ、五等ヲ減シ、懲
役一十日ヲ可科哉、將タ斷
罪不當條、決配スル可キヲ收
贖ニ失スル者ニ比擬シ、失
出入人罪律ニ一等ヲ減ス
七年十月十三日指令
本犯ハ、例第三百十四條ニ依

没ヒス、其當該官吏ハ、違式輕重ニ處ス

○靜岡縣伺

此ニ入アリ、酒造罰則ヲ犯ス科料料金、清酒過造ノ石高ハ、白玄米ヲ以テ算計スルヲ、金九十錢失出ス、右失出ヲ以テ懲科スル、金圓ニ依テ科斷スヲ、ルキハ、七十五錢ヲ以テ懲役一十日トシ、剩ル十五錢ハ除棄シ候乎、將タ罰則ノ如キハ、別ニ失出ノ刑有之候乎、

七年十二月廿七日指令

罪ノ論スヘキナシ、

○足柄縣伺

足柄縣士族門藏一男植原久米次郎儀、別紙口供書ノ通、祐犯逃亡、及ヒ盜ヲ犯シ、懲役八十日、士族タルヲ以テ閏刑ニ換ヘ、除族ニ止ムヘキヲ、本刑ニ科シ、再犯ノ時、士族ノ子弟ト供吐スルヲ以テ、責付中逃走スルモ、無籍者ト為シ、前後未タ除族ノ刑ヲ用ヒス、今改テ一犯両刑族スレハ、果シテ科スルニ當ル、就テハ是ノ等ハ斷罪出リタスニ失スル、據置可然哉、

八年二月十八日指令

ノ權衡ニ依リ、族籍舊ノ儘ニ

伺ノ通、已ニ實決ノ處斷ヲ經リ、貼斷スルヲ用ヒス、當該官吏ハ、失出人罪律ニ科ス可キノ所、罪增減無ヲ以テ、坐ス可キノ剩罪無シ、

○濱田縣伺

笞杖ヲ行フノ人誤テ十杖ヲ者ハ、其增加スル所ノ數ヲ減シ、又ハ四五杖ヲ增加スレハ、本罪トナシ、幾等ヲ減シ、科シ、贖ヲ聽スヘキ哉、

右ノ檢使、同斷、

同上誤テ十杖、又ハ四五杖ヲ欠テ、放免スル者、同斷、

右ノ檢使、同斷、

懲役囚ノ期限、既ニ滿テ放免スルニ當リ、誤テ日ヲ繰延ヘ、十日、或ハ四五日ヲ延ヘ、期スル者ハ、其延期スル所ノ日數ヲ以テ、本罪トナシ、贖ヲ聽ス、幾等ヲ減シ、科シ、贖ヲ聽スヘキ哉、

同上誤テ十日、或ハ四五日ヲ欠テ、放免スル者、同斷、

右犯罪ニ當ル者、當節有之

ルヲ以テ、改テ除族ニ及ハス候事、

笞杖不如法

笞杖不如法

此條ハ。笞杖ノ打方。掟ニ違フヲ云。

凡官吏。笞杖ヲ用ルニ。故ニ法ノ如クセサル。笞ニテ打ヲ者ハ。笞三十。因テ死ニ致ス者ハ。杖一百。埋葬金二十五兩ヲ追徵ス。取立テ。死セシ者ノ家ニ渡スナリ。笞杖ヲ行フ人ハ。差圖ヲ受ケ。打手ナリ。各一等ヲ減シ。金兩ヲ追徵セス。若

候間、此段相伺申候也、

七年五月五日指令

總テ失出入人罪律ニ依ル、但檢使モ、笞杖ヲ行フ者ト、罪亦同シ、

○熊谷縣伺

未決囚並懲役ニ服スル婦人ノ内、乳兒ヲ持スル者有之、其資産モ無之、又親族ノ可託者モ無之、字養ニ差支候節、戸長親族等連印書面ヲ以テ、其母ニ託シ、字養為取紛ハ、致度旨、願出候ハヽ、上事實相違無之ニ於テハ、聞届不苦候哉、

七年二月三日指令

情實止ムヲ得サルヲ審ニシテ伺ノ通處分スヘシ、

○新治裁判所伺

婦人姦罪ヲ犯シ、産後ニシテ發覺スレハ、親屬鄰保ニ責付シ、一百日ノ待テ禁獄シ、推問ニ及ヒ可申裁若シ一百日ヲ待ツ儀ニ候ハヽ、百日以内ニ捕ヲ律及ヒ違フテ禁獄シ、或ハ由是囚婦死ニ至ル者ノ律、如何擬律裁、

七年五月廿四日指令

婦人姦罪産後ニ發覺シ禁獄シテ推問スヘキ者ハ、醫ヲシテ診察セシメ、其可否ヲ得テ處置スヘシ、必シモ日數ニ拘ラス、若シ擅ニ禁獄シ、因テ死ニ致ス者アラハ、口書ヲ以テ伺フヘシ、

○愛知縣伺

罪人ノ臀腰刑ヲ受クヘキ處ヲ。法ニ依リ決打シテ。避逃ニ死ニ致ス者ハ。笞杖ノ通リ間違ヒ。捉ヘ。思寄リ。處ノ尻ト腰ノ廻リ。打タレ。逃ニ至リシ。死者ハ。論スルヿ勿レ。

婦人犯罪

此條ハ。婦人罪ヲ犯ル時ノ拠ト方ヲ云フ。

凡婦人。輕罪ヲ犯スハ本夫ノ責付ヲ。凝ストシテ。保管セシム。如シ夫ナキ者ハ。親屬鄰保ニ責付シテ。保管セシム。重罪ハ。禁獄(牢入)スルヿヲ許ス。違フ(其捉ヲ變ル。後人ノ)者ハ。笞三十。若シ婦人。懷孕シテ。(ノ懷妊上)罪ヲ犯シ。拷訊(問拷)スヘキ者ハ。上條ノ如ク。保管(預請)ス。産後一百日ヲ待テ。拷訊スヘシ。若シ未タ産セサル孕タル婦女ニ。拷訊スル者ハ。産後ヲ待

該犯ノ婦人アリ、懐孕月ヲ重ネ已ニ産期ニ臨ム、今婦人犯罪ノ條ニ照スニ、親戚郷保ニ付シ、産後一百日ヲ待チ刑ニ処スト雖モ、然ルシテ該犯ノ夙ニ父母ヲ失ヒ夫ト成長シ共ニ食ヲ乞ヒ、或ハ盗ヲ業トシ、元来ノ親戚郷保ノ付可キ以テ一レノ無籍者タルヲ者ニナケレハ、暫ク郷宿ナル責付保管セシメ分娩ノ後チ、幼兒ハ乳母ヲ雇ヒ其費用ハ都テ官費ヲ慣ノ恐レスルモ、亦知ルヲ可シ之ヲ養育スル、然ルトキハ乳母ヲ給シ可然哉、若シ母ノ忌避ル兒ノ兇惡ナル者ニ分娩ノ後チ、可然哉、其兒ハ棄兒ノ法ニ準シテ、親屬郷保ニ責付シ。産後一百日ヲ待テ。乃刑ヲ行フ。決スル者ハ。徒一年半。産シ訖ルモ。未タ産セスシテ。堕胎流産スル者ハ。徒一年半。死ニ致ス者ハ。流三等。若シ懐孕ノ死囚ハ。死罪ニナル科ニ人稽婆ニ看視セシメテ。後監禁屋揚入ス。産ノ期ニ臨ミ、捉ヒ。杖九十。因テ産ヲ期ニ臨ミ、捉ヒ。杖八十。失誤日限ヲ違ヒ。違ヒ。杖八十。失誤日限ヲ違ヒ。違ヒ。杖八十。失誤日限ヲ違ヒ。違

除刑罰拷問ノ日、別紙ノ通更ニ御治定相成候、此段及ニ布達候也、

別紙

元紀　始祭　孝明天皇祭
神武天皇祭　元節　仁孝天皇祭
神宮神嘗祭　六月大祓　長節
後桃園天皇祭　新嘗祭
光格天皇祭　十二月大祓
皇靈御式年祭

右止刑日

若シ禁刑（明治六年三月司法省達書第三十ノ日ニ於テ決スル者ハ笞三十。

死囚奏請待報條例

第三百十六條　凡獄已ニ成ル罪名定ル罪死ニ該ル者ヲ奏請シ待報内ニ在テ死亡スル（死罪ノ伺ヒ中ニ本人死去スル）ニ遺骸ハ親屬請フ者アレハ下付ス（渡下ケスル）ヲ聽ス。

○滋賀縣伺

本條收贖ス可キヲ決配シ云々、失出入人罪律ニ依テ一等ヲ減スト、此條中贖罪ス可キヲ、決配スルノ儀ナシト雖モ、失誤ナキヲ以テ論シ、一等ヲ減ジ可キヲ乎、然ニ元來贖罪ス可キニ、無力者ハ減等セス、本罪實斷ス、由是之ヲ觀レハ、實斷贖罪ノ輕重、大ニ差異無キニ似タリ、且又尋常失出入ハ、本罪除去スル法ナリ、此條中本罪除去スルノミ、依ノ法ナシ只纔ニ尋常失出入ニ一等ヲ減スルノミ、依テ輕重權衡如何、

七年一月十五日指令

實斷贖罪トハ、其權衡相當ニ依テ一等ヲ減ス。

ルル者トス、本條獨リ收贖ヲ辨シテ、贖罪ヲ說カサルトキハ、之ヲ不問ニ置テ可ナリ、然ト雖

斷罪不當

凡罪ヲ斷シテ決配（仕置ヲ申付ケ）スル又ハ流刑ニ處スル差送ハ流刑ニ處スル儀ナリ。ス可キヲ收贖（態ヒ料ニテ濟ス）ス可キヲ。故サラニ收贖ス可キヲ。決配スル者ハ故出入人罪律ニ依テ一等ヲ減（故出入ノ例ニ圖ニ。其科ヲ減ス）。失誤（役人一時ノ心得違ヒ）スル者ハ失出入人罪律ニ依テ一等ヲ減ス。若シ絞ス可キヲ故サラニ

モ故意ニ出テ、實斷ス可キヲ贖罪シ、贖罪ス可ヲ實斷スガ如キハ犯人ノ口供ヲ以テ伺フ可シ、

○兵庫裁判所伺

贖罪スヘキ者ヲ、誤テ實決ニ處スルキ、其貼斷スヘハ、固ヨリ貼斷シ、貼斷スカラサルモ、罪ニ出入ナキノ例ニ有之候處、右ハ畢竟其贖罪者無力ナレハ、減等ナク實斷スヘキ者タルヲ因リ、出入ナキト見做スヘシ、然ルニ昨年小以ナルヘシ、然ルニ昨年小田縣伺ニ、收贖スヘキヲ誤テ實斷スレハ、其全罪ニ一等ヲ減シ、失入人罪律ニ依ルヘキ旨、御指令相見候、右ハ凡ソ收贖者無力ナレハ折半法ニ依リ候者ナリ、宜シク其本罪ヲ半ヲ減シ、失入ニ依ルヘキカ如シ、右

斬シ。斬ス可キヲ。絞スル者ハ。笞五十。失誤スル者ハ。三等ヲ減ス。

第三百十七條　凡收贖ス可キヲ。誤テ實斷スル者。改正スルヲ得ヘキ者ハ。改正シ。其實斷ス可キヲ。誤テ收贖スル者ハ。貼斷仕置ヲ直ス

斷罪不當條例

ノ權衡如何ノ御趣意ニ可有之候哉

七年五月五日指令

本條ニ依ル可シ、

○開拓使問合

犯罪人實斷三十日、收贖六十日ト、二罪並ニ發スル付、收贖折減法ニ照シ、實斷三十日ニ可處ヲ、收贖六十日ニ失入セシ官員ハ、本條例ニ據リ、失入人罪ニ一等ヲ減シ、六十日ノ内四十日ヲ減シ、剩罪二十日ニ坐シ候哉、又ハ本罪三十日ヲモ減シ、減シ盡シテ科ナシト云ニ從ヒ可然歟、

七年五月十七日同答

實斷收贖並發スル者ハ、例第十四條ノ通リ、各等キハ實斷ニ依ル、本文ノ如キハ一本律例ニ依リ、失出トナシ、六十日ヨリ六等ヲ減シ、減シ盡

第三百十八條　凡罪ヲ斷スルハ。口供結案（罪人ノ口申シ。）ニ依ル。若シ甘目安味吟味詰ノ結セス（申ナシ）。申紀口ヲ。殘ル。疑ハシキ。思所言ノ味詰ニナラヌナリ。分ナキ吟味シテ。死亡スル者ハ。證佐（本人ノ罪ニ付テ。申立ル證據人ナリ。）アリト雖モ。其罪ヲ論セス。死去セシ本人ノ罪ハ。沙汰ニ及バサルナリ。

○宮崎縣伺

凡罪ヲ斷シテ、決配ト收贖トヲ失誤スルハ、律ニ明文アリト雖モ、實決スヘキヲ、

シテ罪ノ科ス可キナシ、

誤テ贖罪シ、又贖罪ス可ヲ、實決スル者ハ如何可ニ心得ー哉、

七年三月二十三日指令

凡實斷ス可キヲ、故サラニ贖罪シ、贖罪ス可キヲ故サラニ實斷スル者ハ、不應為重ニ問ヒ、失錯スル者ハ、違式重ニ問フ、其閏刑ノ違誤スル者モ亦此法ニ依ル、

○大審院判決申渡書九年一月廿五日

東京第一大區九小區出雲町壹番地
寄留日新堂編輯長代理青森縣
士族　長谷川義孝

明治八年十二月二十五日、東京裁判所ニ於テ、長谷川義孝ニ口供ヲ、自カラ調印シタルロ供ニ依リ八年十二月二十八日東京裁判所ニ於テ左ノ言渡ヲ為シタリロ供畧之

日新堂編輯長代理長谷川義孝

其方儀、本月五日曙新聞六百五十二号ニ鶴ヶ岡縣平民大森宗右衛門投書ヲ編輯シ、其文中、明月踊ノ節、同縣令三島通庸、藝妓ニ纏頭十圓ヲ投シ、且歸路妓樓ニ登リ、徹夜ノ興ヲ催シ、又田川湯村ニ於テ、藝妓ヲ召シ、諭状アル等ノ件々、事實無之儀ヲ記載スル段人ノ榮譽ヲ害スル行事ヲ、摘發

讒謗律

明治八年六月二十八日太政官第百拾號御布告ヲ以テ被ニ定

第壹條

凡ソ事實ノ有無ヲ論セス。人ノ榮譽ヲ害スヘキノ行事ヲ。摘發公布スル者。之ヲ讒毀トス。人ノ行事ヲ擧ルニ非スシテ。惡名ヲ以テ。人ニ加ヘ。公布スル者。之ヲ誹謗トス。著作文書。若クハ畫圖省像ヲ用ヒ。展觀シ。若

公布スル者ニ付、讒謗律第一條、及第四條ニ依リ、禁獄壹ケ月、罰金二百圓申付ル、

明治九年一月十三日、長谷川義孝ヨリ大審院ニ上告スル

ノ要領、左ノ如シ、

第一條　東京裁判所ノ判文ニハ、三島ノ風月ニ遊樂セシ狀態ヲ載スルニ止リ、職務上ニ關係ナシトス、曾テ明治八年ノ、司法省日誌第七十九号ヲ見シニ、同省同書第二條、讒謗律第四條ニ、官吏ノ職務ニ關シ云々トアリ、然ラハ職務ニ關シ、讒毀シテ、其一身上ニ關スルニ至リテハ、第五條ニ指令シ以論シ候儀ナリヤノ、同ノ通リトアリ、然ルニ今般ノ判文ニハ、第四條ニ依ルトアリ、是レ不服ニテ取消ヲ求ル所以ナリ、

第二條　第一條ノ所爲ヲ以テ、乘輿ヲ犯スニ涉ル者ハ、禁獄三月以上、三年以下、罰金五十圓以上、千圓以下、二罰科セシ、或ハ偏ヘニ一罰ヲ科ス、倣ヘ、下之ニ

クハ發賣シ、若クハ貼示シテ、人ヲ讒毀シ、若クハ誹謗スル者ハ、下ノ條例ニ從テ、罪ヲ科ス、

第三條　皇族ヲ犯スニ涉

第二條　判文ニハ、縣令ノ、藝妓娼妓ニ纏頭ヲ投シ、又タ妓樓ニ登リ、徹夜ノ興ヲ催ヲシ、又タ田川湯村ニ於テ、妓ヲ召シ、快ヲ極メシ等ノ條件、人事實ナキヲ記載シ、人榮譽ヲ害スルヲ摘發スルニ右ハ道德上ヨリ論スレハ固ヨリ穢醜態ト為スヘシトスルトアリ、然レトモ、今日世上一般ノ榮譽ヲ論スレハ、道德上ニハ不榮譽ニ就キ論シ難シトス、假令ハ藝妓和姦律ヲ廢シ、貸座敷娼館ヲ公許シ、又タ官吏ニ宿スルノ禁令、有ルヲ聞ハ、榮譽カス、又タ妾ヲ畜ルハ、榮譽ヲ害スルノ甚シキナキ、新律之ヲ二等親ニ列セリ、尤モ、レハ道德上ノ榮譽ハ、法律ニ依リ之ヲ論スヲ可キ非サルナリ、然ルニ公許

ル者ハ、禁獄十五日以上、二年半以下、罰金十五圓以上、七百圓以下、

第四條　官吏ノ職務ニ關シ、讒毀スル者ハ、禁獄十日以上、二年以下、罰金十圓以上、五百圓以下、誹謗スル者ハ、禁獄五日以上、一年以下、罰金五圓以上、三百圓以下、

第五條　華士族平民ニ對

ヲ得、鑑札ヲ受ケミ藝娼妓ヲ招クヲ以テ、榮譽ヲ害スル者トヲ為サハ、道德上ニ就キ、判決セル者ト謂ハ消ヲ得ス、是レ不服ニシテ、取ヲ求ムル所以ナリ、

第三條　凡ソ事實ノ有無ヲ論セスト雖モ、判文ニハ事實無之ト雖モ、是ニ由リ、儀ヲ記載スト雖モ、是ニ由リ、曙新聞ハ妄説ヲ採録スルノ評判ヲ受ケ、世上ノ信不信ノ用ヲ失フニ至リ、商業上ノ損害ヲ生シ、犯罪外ノ幸ヲ招キ、社主青江秀ハ、無謂損耗ヲ受クルニ於テ、至リシモ、畢竟裁判ノ精密ニ於テナラサルニ因リ、義孝ハ、虚妄不信ノ汚名ヲ蒙リ、生涯人中ニ立チ難キヨリ、遺憾ト存シ、今般ノ裁判ヲ受シ後ニ、兼テ知人ナル鶴

スルヲ論セス。讒毀スル者ハ。禁獄七日以上。一年半以下。罰金五圓以上。三百圓以下。誹謗スル者ハ。罰金三圓以上。百圓以下。

第六條　法ニ依リ。檢官若クハ法官ニ向テ。罪犯ヲ告發シ。若クハ證スル者ハ。第一條ノ例ニアラス。其ノ故造誣告シタル者ハ。誣告律ニ依ル。

ケ岡縣下平民森藤右衛門儀、幸ニ出京中ユヘ、事實ノ有無ヲ問合セシニ、同人儀モ、右ノ實況委シク承知罷在旨ヲ申聞ケ、品ニ因リ、急度保証スヘシト答ヘタリ、左スレハ無根ノ流言ニハ有之間敷ト存セリ、然ルヲ記載ノ判文ニ事實無之ノ儀ヲ記載セシトアルハ、三島通庸ノ片言ヲ信用セシニ非ラスヤ、是レ不服ニシテ取消ヲ求ムル所以ナリ、

大審院ニ於テ法律ニ照シ明ヲ為スヿ尤ノ如シ、

第一條　鶴ケ岡近況ノ掲載セシ新聞中ニ、縣一箇ハ一縣無上ノ高官、一言一句行、萬民ノ亀鑑トスル可ノ席ヲ、藝娼妓ハ、淫ヲ責ルノ醜業ニシテ、士民縱觀ノ席ヲ、嬉戯無狀至ラザル

第七條　若シ讒毀ヲ受ルノ事。刑法ニ觸ルヽ者。檢官ヨリ。其事ヲ糾治スルカ。若クハ讒毀スル者ヨリ。檢官若クハ法官ニ告發シタル時ハ。讒毀ノ罪ヲ治ムルコトヲ中止シ。以テ事案ノ決ヲ候チ。其ノ被告人。罪ニ坐スル時ハ。讒毀ノ罪ヲ論セス。若シ事。刑法ニ觸レスシ

無キハ、當今ノ時体ト云フ可キカトアリ、夫レ万民ノ瞻望スル縣令ノ言行云々ト掲載シナカラ、之ヲ縣令ト為スコヲ得ス、

第二條　義孝ニ於テハ、榮譽ヲ害スト云フヲ以テ、道德上ニ就キ論スルヲ得サルヲ以テ、之ヲ論スルヲ得ス、

別シテ、人ノ榮譽ヲ害セリトヲ以テ、刑法上ニ於テ、之ヲ論スルヲ得テ、刑法上ニ於テハ、獨リ道德上ニ就キ論スルヲ得サルヲ以テ、之ヲ論スルヲ得ス、

上ニ就キ論スルヲ得ス、

第

ニ青樓花街ノ遊嬉ヲ為シ、取消ヲ求ムルノ理由トシ、職務上ニ管係ナシトスルノ、義孝ノ上告其當ヲ失シ、

者トテ之ヲ論スルヲ得サル者トヲ區別シ、人ノ榮譽ヲ害セリトヲ以テ、

時ハ榮譽ヲ害スルノ條件ハ、獨リ道德上ニ於テ、之ヲ論スルノミ、他ノ刑ヲ得ルハ、之ヲ論ス、即チ青ノ法上ニ於テハ、之ヲ論ヲ得サル事ニシテ、娼館ニ宿和姦ヲ為シ、遊婦ヲ為ス者ハ、之ヲ論ス、此ニ由リ之ヲ樓花街トノ類ナリ、岡近況ノ一篇ヲ掲載セシハ、讒毀シ、刑法ニ觸レスルノ人ヲ害セラルヲ榮譽ヲ害スルハ義ノ孝ノ者ヲ單ニ觀レハ、鶴ケ

第七條　第一項　刑事ニ關スル者ハ、單ニ其ノ決判ノ裁判ヲ得ル者ハ、左ノ判決ノ裁判ヲ得ル者ハ、道德上ニ就キ、判決ノ裁判ヲ得ル者ハ、讒謗律第七條ノ事實ヲ有スル者ハ、其ノ事實ヲ有スル者ハ、其ノ事實ヲ有スル者ハ、其

事ヲ、摘發公布セシノミ謂ヲ以テ、之ヲ讒毀ト為スノ法ニ刑法ト以テ人ヲ罪セサル可シト為ス、是故ニ行事ノ人ハ、其事ノ榮譽ヲ害スヘキノ行ハ、其ノ榮譽ヲ害セシ者ハ、其ノ犯ス罪ヲ、摘發公布セシ者ハ、其ノ犯ス罪ヲ、摘發公布セシノミニ因リテ、讒毀ノ罪ヲ犯ス、實ノ有無

シテ、罪ニ坐セシメ、以テ自
己讒毀ノ罪ヲ免ルヽ道ニ
ナシトス、夫レ免ルヽ道ニ
ナキノ罪ニナル甘ノ理ハ、第七觸
シテ其罪ニ服スヘキヲ知ラ
ハ、判然タル可シ、是レ刑法ノ榮譽
條ニ所謂、若シ事刑法ニ人ノ榮譽ル
レスシテ、單ヘニ害ヲ害スル者ハ、讒毀ノ
後、官ニ告發スト雖モ、仍ホ
讒毀ノ罪ハ鶴治ケムル岡近況ノ
り、尤篇ニスレハ掲クル街遊行事ハ
一ツ召シ、花街ニ闖レフ者ハ
事ヲ叙シ、刑法ニ觸レサル者ハ
以テ犯シタル公布ノ判然ラ於テ
東京裁判所ニ處セサル以テ
依リ刑ト然ルニ
記載セシ、判文ニ因リ、事實無之孝
ト記載セシ、判文ニ因リ、事實無之孝
曙新聞

記下調ハ秘密ニ属スル事ヲ以テ、
記載スル第九條公文上申書建
白トハ、其類同ヲ付、伺面ヘ指
讒謗律ニ令ノ通
○可相心得事、
京都裁判所伺
第一條讒謗律第七條、上
ハ、其被告人罪ニ坐スト雖モ、仍
ハ、讒毀ノ罪ニ止タル其論一事ニ將ヲ假
ル右ノ事ニ限ル讒毀カ、讒ヲ發
セ令ハ其三事ハ刑法ニ觸レス告セ
シ、其一事ハ刑法ニ觸レサル治サ
サノ類、仍ホ讒毀ノ場合ニ
ル其二事ハ、刑法ニ觸レサル
ヤ、將タ如此ノ罪ヲ
於テ刑法ニ觸レ
二事ニハ、其刑法ニ
可ヲ論裁、就テ、仍ホ讒毀ノ罪
第二條

社ニ損害ヲ生スル條件、及
ヒ嬉戯ノ事實有之條件、並
ニ森藤右衛門ヲ以テ事實
有之ノ保證人ト為スヘキ
條件ハ、上告スト雖モ、右ノ
求ルノ理由ニ關係ナキヲ
以テ、大審院ニ於テ、審理ス
可キノ條件ニ非スト
右ノ筋合ナルヲ以テ、東京裁
判所ノ處分ハ、讒謗律ニ適當
セル裁判ナルニ因リ、取消ス
可キノ理由ナキヲ以テ、上告
狀下戻者也、

判決

條等ヲ併セ犯ハモノアル
キハ、各別ニ處分スヘキヤ、
將タ其一條ニ就テ、重ニ從
ヒ科スヘキ哉、
第三條　新律ニ、官吏ハ公
私罪贖例アリ、老小婦女廢
疾者ニハ、收贖鎖錮ノ法ア
リ、而シテ讒謗律ニハ、禁獄
罰金ノミ、若シ然レハ其讒
謗律ヲ犯スハ、假令官吏老
小婦女等モ、仍ホ各禁獄罰
金ニ區處シ可然哉、
八年十月二十四日指令
第一條　讒毀スレハ、其一事刑法ニ觸レ
ヒ、被告人罪ニ坐スト雖モ、仍ホ
其餘事ニ就テ、讒毀ノ罪ヲ
科ス、
第二條　二條以上ヲ併犯ス
ル時ハ、一條ノ重キニ從ヒ、其
罪ヲ科ス、
第三條　同ノ通、

皇朝律例彙纂卷六終

明治九年第二月十九日板權免許

東京　編著人　近藤圭造
第六大區一小區
深川冨岡門前町七十番地

出板人　阪上半七
第一大區六小區
吳服町十二番地